

を支持すれば足るものと看做することが出来るのである。

以上の見地から陣地は相當堅固であることを必要とするが、一方敵にして支隊の陣地に對し相當の兵力を以て牽制し、有力なる一部若くは主力を以て旅團主力の前進に對し直接妨害を加へるやうなことがあれば、支隊は本來の任務即ち旅團主力の相模平地進出を容易ならしめることを放棄することとなるから、絶対に此のやうな處置を敵に爲さしめてはならない。之が爲には攻撃する敵に對し必要に應じ何時でも直ちに陣地を棄てて攻勢に轉じ得るだけの陣地と姿勢とを持つて居らねばならぬ。即ち陣地は餘りに堅固に過ぎ行動の自由を失ふやうなことがあつてはならないのである。

三、秦野、伊勢原間の地形を大觀するに、善波峠を中心とする山地と金目川南北の臺地とがあり、其の東方は一帶の廣濶な水田を成してゐる。故に厚木方向の敵に對して陣地線を求めたならば左翼を觀音寺附近或は其の西方の山地に托して

一、片岡、北金目、桐木の線

二、八面、南矢名、落幡の線

三、西大竹、中尾、鶴巻の線

四、西大竹、弘法山、善波峠、△4524 高地の線

等を見出し得るのである。然しながら此等の陣地線に就て、其の右翼を金目川右岸の臺地に置くときは、同川左岸の陣地正面に對し確かに有利であることは之を認め得るのであるが、右岸其のものの陣地は臺地が長く南方に延びてゐる關係上右翼に限界がなく、優勢なる敵に對しては忽ち此の方面から全陣地の瓦解を招くばかりでなく、陣地線正面が全般に兵力に比して廣く、結局右翼を金目川右岸に取るは不適當と云ふこととなるのである。従つて止むを得ず右翼を退げて弘法山南方附近の山地に托するを以て満足し、其の缺陷は何等かの方法を以て補ふことを考へねばならぬのである。以上の見地からして陣地は概して三の中尾、鶴巻の線と爲すを以て支隊の任務達成上適當なるものと認めることが出来るのである。尙此の線を選定するに方つては缺陷の補備手段に就て詳細説明を要するのであるが、次回の問題に關する所多いから之

省略することにする。

五、原則的説明及注意事項

1、防禦陣地の選定に就て

防禦陣地の選定に於て、時間の餘裕及防禦戰鬥時間が先づ以て考へねばならぬことであることは既に説明した所であるが、ここに更に注意せねばならぬのは彼我兵力の懸隔の多少である。彼我の兵力に餘り差がないと云ふことであれば本状況の如きに於ては敢て防勢に出ねばならぬことはないが、其の差が大であるとすれば、勢ひ相當堅固に陣地を占領することが必要となるのである。本状況に於て第二案其の一及其の二の陣地正面が廣過ぎ且右翼の據點が薄弱であると云ふたのも、彼我兵力の差が可なり大なる本状況に於て始めて言ひ得ることである。此の差が小なれば別段問題とはならぬものである。ここに假に彼我の中間に極めて重要な地點があり、先遣隊として之を占領するを緊要としたならば、縦ひ遭遇戦を惹起しても敢て辭せないことがある。之は近く後方に我が主力が来る状況であつて孤立戰鬥の時間が少く、全般の状況から見ても是非此の要地を手裡に收めるを可とする場合に限られるものである。此のやうな情況を除いて、防禦陣地の選定は一般に時間の餘裕があることが必要條件である。蓋し之に依つて十分地形を利用し、兵力配備を之に適應せしめ、所要の防禦設備を爲すことが出来、寡兵を以て優勢なる敵を迎へ戰鬥を爲し得るからである。

2、陣地占領迄の順序に就て

作戰要務令第六十三以下記述の通である。之を本情況に就て述べると、我が騎兵中隊が伊勢原附近の要線を占め之に若干の陣地占領掩護隊が加つて共に支隊の陣地占領を掩護し、此の間支隊主力は某地に集結し、或は特に空中搜索を顧慮して適宜遮蔽する如く位置し、支隊長は大體の地形を一瞥して決心を爲し直ちに命令を下して陣地に就かしめるのである。本状況は敵の現出迄に時間の餘裕が少いから行軍縱隊から直ちに陣地に分進し或は一旦集結した後其の位置に向はしめることとなるのである。此の邊の事情は一に當時に於ける支隊長の決心の遲速に依つて異なつて來るものである。

支隊長の決心は騎兵其の他斥候の報告、地形偵察の爲先遣せる將校斥候の報告、自己の直接偵察等に依つて遲速が生ずるから、此のやうな状況に於ては機に適する報告が極めて必要であることを承知されたい。

3、各種注意事項

イ、矢印を描くことに就て

陣地占領の要圖に豫想する敵の主攻撃方向(↓印)を描かないものがある。又状況に於て旅團主力の進出方向を書かないものも相當ある。此等は要圖の描畫上必要なことであるから落さないやう注意せねばならぬ。

ロ、陣地線を描くことに就て

陣地占領の要圖に陣地線を描かず、單に部隊のゐる位置を現してゐるものがある。之では部隊が集結してゐるか或は其處に位置してゐることを示すだけで、陣地線要圖と云ふ答解にはならない。是非陣地線を描かねばならぬ。

ハ、文字の書き方に就て

文章で地名を示すに通常敵に對して右から云ふべきであるのに左から云ふてゐるものが甚だ多い。圖の關係上、上方から云ふ方がよいやうにも思はれるが作戰要務令に示されてある通に行ふのが總てに便利である。又文章にある地名が全然要圖に現れてゐないのが相當あるがよくない。文章と要圖とは常に一體たらしめることが必要である。

ニ、要圖の描き方に就て

要圖の甚だ粗雑なものがある。上方を北とせざるもの、文字を讀むのに要圖を色々と廻さねば解らぬもの等決してよいと申されぬ。露營火の下でも明瞭に讀めるやう注意して描くことが必要である。之が平素の練習であり心掛けである。

第十八 支隊ノ陣地占領(防禦ノ爲陣地判斷)

想 定

一、旅團主力ノ相模平地進出ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有シ御殿場(秦野西方約二十八軒)方向ヨリ先遣セラレタルM支隊ハ二月一日曲松(秦野西方約三軒)附近出發、其ノ主力縱隊ノ先頭ヲ以テ八時秦野東端ニ達シ休止ス

二、此ノ頃迄ニ支隊長ハ諸情報ト自己ノ視察トニ基キ今ヨリ支隊ノ主力ヲ以テ概シテ中尾(秦野東方約二軒半)、鶴巻(中尾東北方約二軒)、觀音谷戸(伊勢原西方約二軒半)ノ線ニ防禦陣地ヲ占領シ厚木方向ヨリ前進中ノ敵ヲ拒止シ旅團主力ノ到着ヲ待ツニ決ス

三、此ノ時迄ニ支隊長ノ知り得タル敵情、地形等ノ概要左ノ如シ

1、大山街道(東京—二子—厚木道)ヲ西南進セル敵ハ昨夜其ノ主力ヲ以テ長津田(厚木東北方約十二軒)、竹ノ下間ニ、又所澤—府中—上溝道ヲ南進セル敵ハ同ジク淵野邊(上溝東方約五軒)、小野路間ニ宿營セルガ如ク、其ノ兵力東京方向ノモノ少クモ三千(戰車ノ有無不明)、所澤方向ノモノ約三千(野砲二、三中隊ヲ有ス)ナルガ如シ

2、旅團主力ハ昨日御殿場ヲ出發シ明日夕ニハ松田ニ到着ノ豫定ニシテ其ノ企圖ハ相模平野ニ進入セル敵ヲ擊攘スルニ在リ

3、相模川ハ厚木ヨリ下流諸兵ノ徒涉ヲ許サズ其ノ橋梁ハ厚木、上依知及小澤ニアルノミ、戰場附近一帶ノ地形ハ地圖ト大差ナク山地ノ森林ハ丈低ク展望ヲ妨ゲズ、又實線路ハ若干ノ補修ニ依リ野砲ノ通過ヲ許スガ如シ

四、支隊ノ編組左ノ如ク一部ヲ以テ搜索及陣地占領掩護ノ爲先遣シタル外主力ハ秦野ニ休止ス

支隊長 大佐某

歩兵第一聯隊(第三大隊欠)

騎兵第一中隊(一小隊欠)
 野砲兵第一大隊(第三中隊欠)
 工兵第一中隊
 衛生隊三分の一

第十八問題

鶴巻附近M支隊陣地占領要圖

陣地占領ノ爲方針、地區ノ區分、兵力部署、警戒陣地、陣地占領掩護ノ處置等ヲ記載スベシ
 說明

陣地線ノ大體ヲ決定シタ後、此ノ陣地ニ對シ如何ナル方針ノ下、如何ニ兵力ヲ部署シテ防禦ノ目的ヲ達スルカヲ研究スルモノ
 デアル。作戰要務令第二部第六十三以下殊ニ第六十八乃至第七十五ニ就キヨク讀マレタイ。
 尙直接旅團主力ノ進出掩護ノ方法ニ關シテハ更ニ考慮ヲ望ンデ置ク。

第十八問題に對する講評並に原案

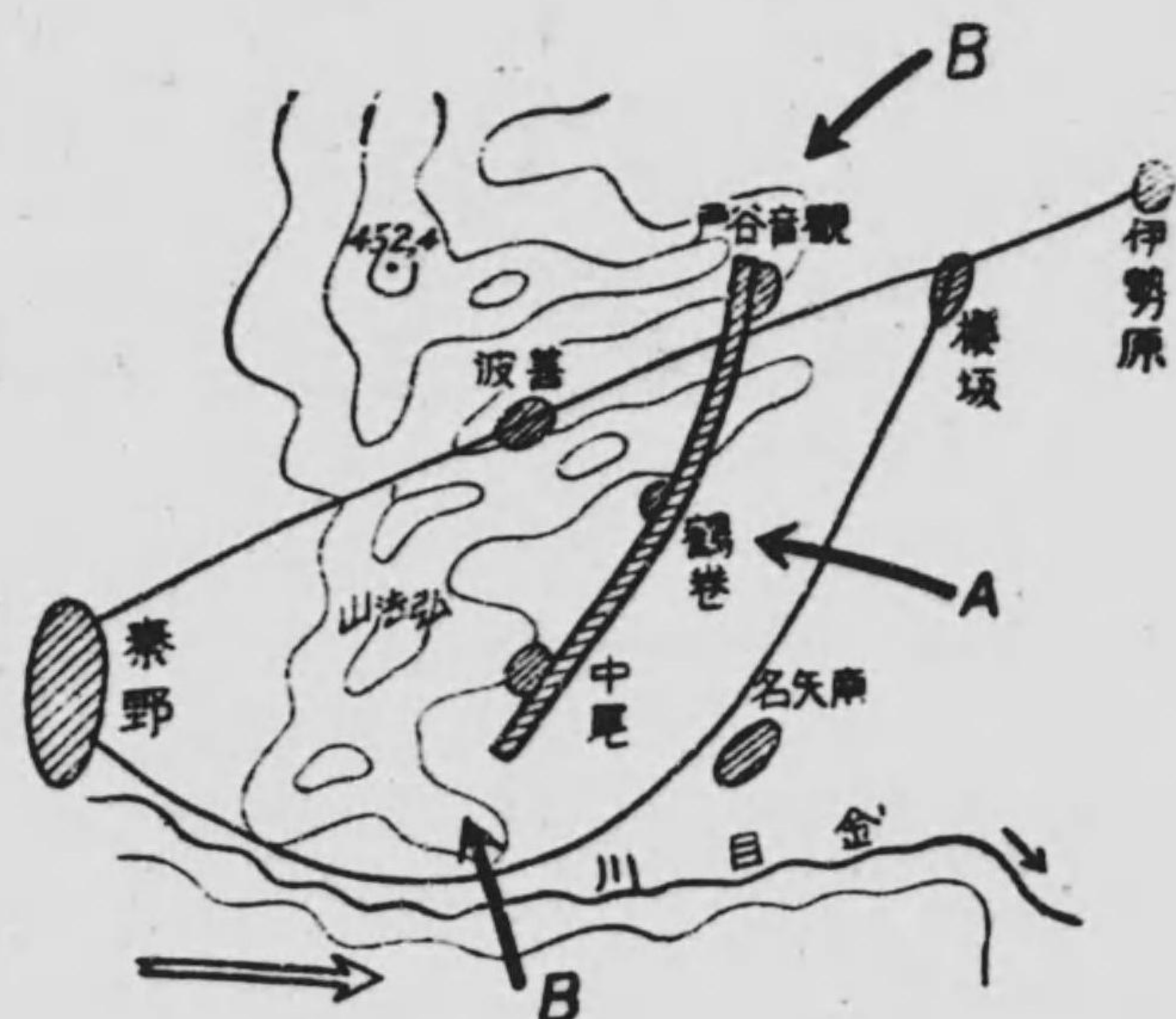
一、問題に對する觀察

1、今次の問題は出題の際要求した通、要圖の上に陣地占領の爲方針、地區の區分、兵力部署、警戒陣地、陣地占領掩護の處置等を記載すべきものである。従つて本問題に對する答解は方針から始めて細部に互る事項迄を網羅せねばならぬから、可なり骨が折れ面倒な作業となつたのである。殊に錯綜せる山地を利用する關係上、自己の企圖を明確に現示することは相當難かつたことと思ふ。

2、陣地線大體の位置は既に決定されてあるから、此處に陣地占領を爲すには、先づ地形を十分觀察した上、全般の方針を確立し、之に基いて兵力を地形に配當し、適切に地區を區分して指揮系統を明瞭にし、防禦戰鬪の能率を最大限に發揮して其の目的を達成するやう考へねばならぬ。

3、戰場に於ける全般の地形は左圖の如く、452高地、弘法山を連ねる線を樞軸として東方に稜線が流れ、金目川以南は概して臺地を成してゐる。旅團が此の臺地方面に進出することを豫想して支隊は概して中尾、鶴巻、觀音谷戸の線に陣地を占領せんとするのである。

そこで先づ考へねばならぬことは何であらうか。
 此の陣地線はA方向よりの攻撃に對して概して堅固であるが、兩翼即ちB方向よりの攻撃に對しては薄弱であり一翼から逐次崩れ易い處がある。殊に陣地全般が半ば側面陣地式であるから、我が左翼方面は十分注意を加へねばなるまい。
 次に敵は我が旅團主力の進出を直接妨害する爲、秦野方向に突進して行くことも



ないとも限らない。此の場合、支隊として豫め如何に考へて置かねばならないか。本件に關しては出題の際説明に於て特に注意を喚起して置いた所でもあるが、考慮すべき要件と云はねばならぬ。以下此等の觀察を基礎とし、諸君の採つた考案に就て研究を進めやう。

二、考案の種類

研究上の着眼を主體として諸君の考案を區分すると次の如くなる。

第一方 針

第一案 單に防禦戰鬪を爲し旅團の到着と共に攻勢に轉せんとするもの

第二案 防禦戰鬪中と雖も敵にして其の主力を擧げて秦野方向に突進するときは、斷乎全線を擧げて攻勢に轉せんとするもの

第二 陣地線及其の占領法

第一案 平地及村落の線に於て概して連續的に占領するもの

第二案 右の線より少しく退り概して高地上に於て要點を據點式に占領するもの

第三 地區の境界

第一案 善波峠—櫻坂道を地區の境界とするもの

第二案 鶴卷附近を地區の境界とするもの

第四 翼の取り方

第一案 翼の取り方に就て顧慮薄きもの

第二案 翼の取り方に就て特に考慮を拂つたもの

第五 金目川以南地區に對する考慮

第一案 概して無關心のもの

第二案 特に考慮を拂つたもの

以上の外警戒陣地の位置、兵力、指揮系統、陣地占領掩護の處置、砲兵及騎兵部隊の部署等に就て種々に考案が分れてゐる。

三、各考案に對する研究

第一方針に就て

第一案

單に防禦戰鬪を爲し旅團の到着と共に攻撃に轉せんとする案である。本案は支隊が中尾から觀音谷戸の線に堅固に陣地を占領して居れば、旅團主力は容易に金目川南方の臺地に進出し得られるものと樂觀してゐるものであるが、敵にして優勢であつたならば我が支隊に對して一部を當て、其の主力を擧げて秦野方向に突進し、直接旅團主力の進出を妨害しないと限らない。是有爲有能の敵であつたなら當然爲し得る行動であるからである。此の際支隊が依然陣地に立籠り敢て積極的行動に出なかつたとしたならば、支隊は之で果して任務に忠實であると云へやうか。恐らく何の爲に支隊を先遣したか、旅團長に於ては甚だ不甲斐ないものと感ずることであらうと思ふ。故に此のやうな方針は未だ適切であるとは申せないものである。

第二案

防禦戰鬪中と雖も敵にして其の主力或は有力なる部隊を以て秦野方向に突進するやうなことがあつたときは、機を失せず斷乎全力を擧げて攻勢に轉せんとする案である。元來中尾、觀音谷戸の陣地線は伊勢原から南矢名附近を通つて秦野に至る道路の側面に位置して居り、金目川南方臺地を西進する敵に對しては側方から睨んでゐるに過ぎないのである。従つて有力なる敵にして金目川南方を西進せんとする企圖あらば、機を失せず攻勢に轉じ敵の側面を衝き上げると云ふ姿勢に在ることが極めて大切である。本陣地の特長は實に此の點であつて、後方山地帯に立籠ることなく而も前方金目川右岸地區

を概して開放した所以である。以上の見地から支隊の陣地占領に方つては、其の方針を本案の如き考案の下に立てるのを以て至當と看做し、同意を表するものである。

第二 陣地線及其の占領法に就て

第一案

平地及村落の線に於て概して連続的に陣地を占領するものである。本案は陣地の位置が概して低く、陣地としては確かによい位置ではあるが、支隊の全兵力と占領すべき正面幅とを比較研究したならば、結局到る所兵力寡少で守備薄弱となり、敵の突破を受け易い害がある。故に縦ひ何時にても攻勢に轉じ得ねばならぬ支隊の配備としても、機に先だち早くも敵の爲陣地を突破せられるやうでは、是亦陣地として其の價値を失ふこととなるのである。故に本案は感心した陣地位置とは認め得られぬのである。

第二案

前案より一般に稍、後方に退り概して高地上に於て要點を據點式に占領するものである。固より後方高地上に専守防禦式に堅固に陣地占領するものではない。本案は兵力と陣地正面幅とを對照考慮して不敗配備を取らんとする所に著眼があるのであつて、機に投じて攻勢に轉ずることは多少前案より困難が伴ふが、兵力配備上第一線に餘裕を得て支隊豫備を増加することが出来、従つて攻勢移轉の實施に當り威力を大ならしめ得るの利益がある。此の利益は攻勢に轉ずるとき受ける困難を償ふて餘りあるものと云へやう。故に本案は陣地線及其の占領法に於て適當なるものと認めるのである。

第三 地區の境界に就て

第一案

善波峠—櫻坂道を地區の境界とするものである。全兵力が歩兵二大隊であるから、陣地を二つの地區に大別するは自然であるが、之が爲善波峠—櫻坂道の谷地を以て地區の境界とすることは果して如何のものか。陣地の左翼を觀音谷戸附近に

止めるとして、此の左翼を如何に占領するかは實に本陣地全般の運命に關すること極めて大なるものがある。蓋し問題に關する觀察に於て既に申した通、陣地其のものが半ば側面陣地であり、其の左翼は特に難攻不落の配備を必要とするからである。故に此の方面は特に注意を倍徒して陣地を堅固ならしめ、敵の爲絶対に突破されたり或は迂回されないやうにすることが肝要である。

善波峠—櫻坂道の谷地は一見天然の境界として適するやうであるが、此の谷地は主要道路が通じ、我が陣内交通路として是非確保を必要とするばかりでなく、其の南北の高地は相互に射撃に依つて支援し合ふことが此の方面を鞏固ならしめる所以であるから、本道路を以て境界と爲すことの不利は自ら會得し得られることであらう。

第二案

鶴巻附近を以て地區の境界とするものである。既述の如く善波峠—櫻坂道南北の高地帯を以て一地區と爲し防備を堅固ならしめるとしたならば、地區の境界を鶴巻附近とすることは自然であるし、又同地以南に於ては陣地が概して東南面してゐる關係から云ふても、同地附近を以て境界となすは適當なのである。

以上の見地から本案は出題者の同意するものである。

第四 翼の取り方に就て

第一案

本案は翼の取り方に就て深く考慮を拂はないものである。諸君、今假りに身を敵に置いて防者に對し何處を攻撃するかと問ふたならば、諸君の全員に近いものが恐らく防禦陣地の翼に向つて包圍攻撃を爲すと即座に答へるであらう。然るに自分が防禦するとなると、忽ち此の考慮を閉却し、翼に對し注意を拂はないのは如何なる譯であらうか、甚だ了解に苦しむのである。翼に對し考慮少いことの不可なるは多くの言を要しないからここでは省略することとしやう。

第二案

本案は翼の取り方に就て特に注意を拂つたものであつて、適當であると申すものの實は當然のことである。諸君中本案の甚だ少いのは出題者の一驚を喫した所であつて、寧ろ國軍の此の方面に於ける缺陷を如實に示したものでなければ幸である。苟も状況上陣地占領を必要としたならば、特に此の點に十分注意を拂はれんことを切望して置く。

第五 金目川以南地區に對する考慮に就て

第一案

本案は之に對し概して無關心のものである。既に方針の研究に於て述べたやうに、中尾、觀音谷戸の線に採つた陣地は、金目川以南の地區に對しては十分威力が及ばないのである。従つて敵が此の方面から直路秦野方向に突進し直接旅團主力の進出を妨害することはあり得べき事柄と云へる。そこで支隊は何時たりとも機に投じて全線攻撃の舉に出る準備が必要となるのである。然しそれだけで宜しいかどうか、ここが問題である。一兵も友軍がゐないとなれば敵は文字通無人の境を行くこととなるが、若干部隊でもあればさうは行かない。殊に同方面は相當地形も錯綜し森林もあつて行動容易とは言はれぬに於て然りである。故に本案には同意し兼ねるのである。

第二案

本案は此の方面に對し特に考慮を拂つたものである。既述の如く地形の關係上若干部隊でも敵に對し相當の効果を及すことを考へたならば、ここに本案の重要性を思はざるを得ないのである。即ち此の方面に對しては一小部隊の活動と機に應ずる支隊主力の攻撃威力とが相俟つて敵の斷乎たる突進行動を制肘し得ることとなるのである。此の意味に於て本案には同意を表するものである。

警戒陣地、陣地占領掩護の處置、砲兵及騎兵部隊の部署等の諸考案に就ては後に所見を述べることにしやう。

四、原案

別紙要圖の通である。

理由

一、支隊の採るべき陣地線は既に概定する所であるが、敵の豫想攻撃開始を明二日早朝とし、旅團主力は其の日夜には近く戰場に到着することとなるから、支隊は獨力を以て一日は戦闘を繼續しなければならぬ。此の戦闘行為は地形全般の上から觀て、殊に支隊が有する兵力を以て廣正面に互る陣地を保持して行く爲には、決して容易ではないのであつて、相當堅固に陣地を占領して敵の猛攻を拒止し、旅團の進出迄現位置を確保するやうにせねばならぬのである。之が爲陣地線の中尾、鶴巻、觀音谷戸等の平地に求めることは、陣地を自然に線狀に取ることとなり餘り堅固とはならない。之より少しく後方に退り低い高地の線に於て據點式に占領するを以て適當とするのである。之を更に後方高地帯に求めるときは陣地は一層堅固となるのであるが、一方攻勢に轉すること頗る困難となり著しく支隊の行動を拘束し、敵にして一部を陣地前に殘置し主力を以て秦野方向に突進せんとする状況に於ては空しく拱手傍觀の外策なきに至るであらう。故に本状況には適しないのである。前述村落より少しく退つた低い高地の線は此の種拘束の害なく、又村落の線に比し出撃は容易でないが困難と云ふ程でもなく、而も相當堅固であるから、よく本状況に適した陣地線と云ふことが出来るのである。

二、陣地線左翼方面の配備は陣地線全般の方向が敵の進路に對し半ば側面陣地の性質を持つてゐる關係上、特に堅固ならしめるやう注意せねばならない。而して此の方面を堅固にすることは一面又善波峠―櫻坂道を通ずる谷地の東方出口を確かに押へることであつて、之に依り敵に通ずる主要道路であり、且陣地内に於ける唯一の平地で交通路でもある此の谷地を確保することとなるのである。之が爲谷地を挟む南北の高地を堅固に占領すると共に之を一地區として統一指揮の下に相互に側防するやうに配備し、特に北方高地は其の上支隊陣地の左翼であるから、梯次に左翼を退げるやう陣地を構成し、以て敵の包圍及迂回を防止することに注意することが肝要である。

次は陣地線右翼方面の配備であるが、此の方面も亦相當堅固に占領するの必要がある。何となれば敵にして其の主力又は有力なる部隊を以て秦野方向に突進せんとしたならば、此の際少くも一部を我が陣地前に監視部隊として殘置すると同時

に必ずや権現山及其の東南方約五百米の高地を占領し、此の方面に對する安全性を確保した上で其の行動に移るを至當とする故、敵をして容易に此の舉に出でしめない爲には、我に於て確實に此等の高地を占領し斷じて之を敵手に委せしめない覺悟が必要であるからである。

三、金目川南方臺地方面を開放することは、縦ひ我が陣地から睨みが效くとしても、一部の敵をして容易に秦野方向に突進するを可能ならしめるの不利がある。故に若干部隊の存在を必要とするが、其の兵力は地形必ずしも平易でない關係から多くを要しない。先づ歩兵一中隊程度を以て適當とするのである。

警戒部隊に關しては支隊全般特に支隊豫備の兵力に稽へ支隊長直轄の三部隊(一中隊のもの一隊と一小隊のもの二隊)とし、同時に陣地占領掩護の任務をも兼ねしめるを可とするのである。

五、原則的説明並に注意事項

1、陣地占領要圖の描き方に就て

要圖に記載すべき要件に就ては方針、地區の區分等概して指示の通に出來てゐるが、陣地線及其の占領法の現し方、兩翼の配備、部隊の配置等に至つては不十分のものが甚だ多い。本問題は陣地線の概要が既に決められ此の陣地線に於て如何に配兵するかが研究の本體であつて、戰術研究上之を陣地判斷と云ふてゐる。但し此の判斷に於ては單に兵力配置を示すに止るが、占領要圖となれば確實に部隊號を現さねばならぬものである。要は陣地占領の細部に互りの確に軍隊の配備を現し一目瞭然たる要圖とすることが必要である。

2、砲兵及騎兵部隊の用法に就て

鶴巻西方高地を中心として陣地は東面及東南面してゐる關係上、砲兵は此の兩方面を射撃する如く使用せねばならぬ。之が爲第一中隊を分割するは止むを得ぬことである。但し野砲を高い高地上に配置してゐるものが多いが之は不可能である。砲は之を平地に置き觀測所が展望の出來る高地上に登ればそれでよいのである。

騎兵部隊は敵の壓迫を受ければ我が右翼、金目川方面に後退せしむべきである。然るに山地にして活動の餘地のない左翼方面に後退せしめる案もあつたが適當でない。

3、注意事項

イ、地區の區分の稱呼に就て

殆ど全員に近い諸君が大隊長の指揮する部隊を右(左)地區隊と命名してゐるが、之は通常右(左)第一線と云ふべきものである。右(左)地區隊或は攻撃に於ける右(左)翼隊の名稱は歩兵旅團長又は聯隊長の指揮する部隊に就て云はれるのが通常である。大隊、中隊等は普通此等の名稱を用ひないのである。

ロ、警戒陣地の位置に就て

警戒陣地を伊勢原、大畑(伊勢原南方約三軒)の線に出したものが相當あるが、此の位置は陣地より遠くして我が砲兵の掩護を受け得ないから適當でない。

第十九 警戒部隊タル中隊並ニ右側部隊タル中隊ノ任務達成ノ爲中隊長ノ腹案

想定

- 一、厚木方向ノ敵ニ對シ旅團主力ノ相模平地進出ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有スルM支隊(歩兵二大隊、野砲兵一中隊ヲ基幹トス)ハ松田方向ヨリ東進シ四月一日朝概シテ中尾(秦野東方約二軒半)、鶴卷(中尾東北方約二軒)、觀音谷戸(伊勢原西方約二軒半)ノ線ニ防禦陣地ヲ占領シ敵ノ前進ヲ拒止スルニ決ス
- 二、支隊長ノ直轄部隊タル第一、第四中隊長ハ八時秦野ニ於テ左ノ要旨ノ任務ヲ受領ス
 - 1、第一中隊ハ神戸(伊勢原西方約二軒)附近ヲ占領シテ左警戒部隊トナリ併セテ支隊ノ陣地占領ヲ掩護スベシ
 - 右警戒部隊(第五中隊ノ一小隊)トノ境界ハ根丸島(神戸南方約一軒半)南端、木津根橋(伊勢原南方約一軒半)南端ヲ連ヌル線トス
- 輕戰ノ後概シテ神戸―善波道ヲ善波ニ後退シ支隊豫備トナルベシ
- 2、第四中隊(當初一小隊欠)ハ右側部隊トナリ西大竹(秦野東南方約一軒)附近ノ要地ヲ占領シ金目川南岸ニ於ケル敵ノ前進ヲ拒止シ止ムヲ得ザレバ旅團主力ノ澁澤(秦野西南方約三軒)附近ニ於ケル進出ヲ直接掩護スベシ
- 其ノ一小隊ハ警戒部隊ノ任務終了後其ノ隸下ニ復ス
- 三、此ノ頃迄ニ兩中隊長ノ知得セル所概ネ左ノ如シ
 - 1、敵ノ總兵力ハ歩兵六千、野砲兵少クモ二、三中隊(戰車ノ有無不明)程度ニシテ本日午後ニハ我方陣地前ニ到著スルナラシ
 - 2、旅團主力ハ明日夕松田ニ到著スベク支隊主力ハ陣地ノ右翼ヲ權現山東南方約七百米ノ高地ニ又左翼ヲ觀音谷戸西方約200m高地ニ取り鶴卷ヲ以テ第一線兩大隊ノ境界トナシ(右第二大隊、左第一大隊)本日正午頃ニハ其ノ配備ヲ完了スル

豫定ナリ

- 3、戰場附近一帶ノ地形ハ地圖ト大差ナク山地ノ森林ハ丈低ク展望ヲ妨ゲザルモ金目川以南地區ニ於ケル森林ハ高サ三、四米ニシテ展望、通過等ニ相當ノ障礙ヲ呈ス金目川ハ徒涉容易ナリ

第十九問題

第一、第四中隊長任務達成ノ爲ノ腹案

占領スベキ陣地、兵力配置、搜索警戒及連絡處置、撤退ノ時機方法、要スレバ後退間ノ行動等ヲ圖示スベシ

説明

本問題ハ警戒部隊(特ニ陣地占領掩護ノ任務ヲ附課ス)及特別任務ヲ有スル部隊ノ研究デアツテ防禦陣地ヲ占領スル部隊ト多少要領ヲ異ニスル所モアル。殊ニ特別任務ヲ有スル部隊ニ在リテハ持久戰(作戰要務令第五篇參照)ノ要領ニ準據スル所多ク相當工夫ノ餘地ガアル。作戰要務令第二部第六十三中「其ノ他ノ部隊……」トハ本狀況ニ於ケル警戒部隊ノヤウナモノヲ云フノデアツテ本條ト共ニ同第六十九、第八十二ヲ讀ミ研究サレンコトヲ望ンデ置ク

第十九問題に對する講評並に原案

一、問題に對する觀察

第一中隊方面

- 1、支隊の左警戒部隊となり併せて支隊の陣地占領掩護の任務を受けた第一中隊長は任務達成の爲如何なる腹案を持つべきであらうか。場所は「神戸附近ヲ占領シ云々」と示されてゐるが、單に此の村に中隊を置いただけでは何もならない。全般の状況に照して陣地、兵力配置、搜索警戒及連絡處置、撤退の時機、方法等に就て研究せねばならぬ。
- 2、さて地形全般を大觀すると中隊の擔任正面は根丸南端、木津根橋南端を連ぬる線以北全部であるから實に廣いのである。此の廣正面に對し如何に陣地を選定し兵力を配置すべきであらうか。神戸—伊勢原道以南は開豁してゐるが、其の以北は白根、板戸の部落があり又北方には山王原其他の部落が點々連続してゐる。此の地形に於て中隊は適宜分散的に配置すべきであらうか。それとも重點を決め此處に多くの兵力を纏めるを可とすべきであらうか。
- 3、敵の近接を速かに知る爲搜索は單に斥候の派遣を以て宜しいか。それとも特に部隊を要地に出さねばならぬか。更に他の方法手段があらうか。
- 4、輕戦の後後退するとしてどの程度に抵抗すべきか。後退は全線同時とすべきか。其の時の状況に依つて變更すべきであらうか。退路は神戸—善波道に限定すべきかどうか。後退に方り其の行動を容易ならしめる爲掩護の陣地なり兵力なりを必要とするか、又此等の兵力を豫め配置して置かねばならぬかどうか等相當考慮して腹案を立てねばならぬであらう。

第四中隊方面

- 1、支隊の右側部隊として第四中隊(當初一小隊欠)は「西大竹附近ノ要地ヲ占領シ金目川南岸ニ於ケル敵ノ前進ヲ拒止シ止ムヲ得ザレバ旅團主力ノ澁澤附近ニ於ケル進出ヲ直接掩護スベキ」任務を受けたのであるが、如何にして此の難かしい任

務を達すべきであらうか。單に示されたる儘に西大竹附近を占領し敵の前進を拒止するだけでよいか。任務は明かに止むを得ざる場合に於ける行動の準據をも示されてゐる。さうすれば之に對する腹案は是非とも豫め考へて置かねばなるまい。

2、さて西大竹附近の要地を占領するに方り果して敵は何れの方面からどう云ふ風にやつて來るであらうか。之に對し其の前進を拒止する爲には何處が要地であり、如何に配兵して其の目的を達成せねばならぬか。一中隊(一小隊欠)の兵力は之を纏めるを可とするか。それとも分散配置を取つてよいであらうか。警戒部隊として前方に派遣されてゐる一小隊が歸還したなら之を如何に使用すべきであらうか。

3、金目川南岸地區に於ける森林は丈高く相當の障礙を爲すのであるが、之を邁進し來る敵に對しては如何に處置するを以て可とするであらうか。止むを得ざる場合とは如何なる状況を豫想してゐるのであらうか。此の場合旅團主力の澁澤附近に於ける進出を直接掩護するには澁澤に近く要地を占領して敵の近接を拒止するの要がないか。之が爲中隊は西大竹附近から後退せねばならぬか。後退するとせば如何に行動すべきであらうか等考へたならば中隊長としての任務は容易でなく、豫め十分研究し腹案を立てて置かねばならぬやうに思はれるのである。

二、考案の種類

イ、第一中隊方面

諸君の採つた考案は神戸附近に主力を配置してゐる點に於て殆ど一致してゐるが、其の他の細部に至つては全く區々である。主要なる着眼を基礎として之を大別すると次の通である。

第一配 備

第一案 中隊の主力を申橋、神戸に配置し其の他の方面には斥候又は小部隊を派遣せるもの

第二案 中隊の主力を神戸附近に配置し一小隊或はそれ以上の部隊を前方白根或は伊勢原等に派遣せるもの

第三案 中隊の主力を三ノ宮若くは神戸に配置し一部隊を北方野道及南方申橋に出し前方には斥候を派遣するに止める

もの

第二 後退に関する考慮

第一案 特別の顧慮なきもの

第二案 特別の顧慮を拂ふもの

ロ、第四中隊方面

諸君の採つた考案は悉く西大竹東南方・150.3高地に陣地占領してゐるが、其の他に尙此の附近に於て陣地を占領してゐるもの、後方澁澤に近く陣地を選定するを豫想してゐるもの等がある。即ち此等を區別すると次の如くなる。

第一案 西大竹東南方・140.3高地のみを占領するもの

第二案 右の外其の北方・187.7高地、遠藤原、或は其の西方約四百米の高地等を占領するもの

第三案 右何れかの案に加ふるに澁澤東南方約千五百米小原南北の高地に陣地占領を豫想してゐるもの
以下此等兩中隊長の爲取るべき腹案に關し研究を進めやう。

三、各種考案に對する研究

イ、第一中隊方面

第一 配備に就て

第一案

中隊の主力を概して神戸或は更に串橋に配置し其の他の方面には斥候又は小部隊を派遣せる案である。支隊長から示された通實行したもので、比較的兵力を纏めてゐるから伊勢原或は其の南方地區から敵が來た場合に於ては十分之を拒止し、よく其の目的を達成し得るの利あると共に其の後退も亦容易であるが、伊勢原北方から三ノ宮方向に攻撃し來る敵に對しては何等の妨害をも加へることが出來ず、下手をやれば直接左側背に危険を感じ過早に後退せざるを得ざるに至

る虞がある。斯うなることは敵の出方に依つて當然あり得べき状況であるから、本案は研究の餘地が尙多分にあると云はねばならぬ。

第二案

中隊の主力を神戸附近に配置し一小隊或はそれ以上の部隊を前方白根或は伊勢原等に派遣せる案である。大なる兵力を前方に派遣せるだけ敵情を速かに偵知し得るの利益はあらうが、中隊を前後に支分することは逐次の抵抗となり一步誤れば敵が我が後退部隊に追尾して過早に近接し來り、陣地占領掩護の目的を達し得ざるの害を受けるのである。又指揮の困難は中隊の後退を難かしくするから其の利は到底其の害を償ふことが出來ない。故に配備としては決して良いとは申されなす。

第三案

中隊の主力を三ノ宮若くは神戸に配置し一部隊を北方野道及南方串橋に出し前方には斥候を出すに止める案である。大體全正面に互つて配置するから、到る所薄弱の害に陥り易く、又前方の搜索は十分とは云へない。併しながら敵の小部隊と雖も我が警戒線内に無人の境を行くが如く侵入することは出來なく其の配備に於てよく敵の攻撃方向を判断し之に副ふ如くしたならば相當程度の抵抗は出來、ここに陣地占領掩護と云ふ主要目的は達成し得ることとなるのである。又中隊の後退行動も前第二案に比すれば手裏から部隊を脱逸するやうなことは先づないのである。問題は搜索であるが、之は各正面から前方に出す小斥候に依つて大體其の目的を達し得るが尙特に考慮を要するものがある。之は後程述べることにしやう。

第二 後退に関する考慮に就て

第一案

特別の顧慮なき案である。警戒陣地占領の外支隊の陣地占領掩護の任務を持つてゐる爲ある程度の抵抗を必要とするが、

戦後敵と離脱し後退することは決して容易ではないのである。故に之に就て豫め考へて置くことは必要である。本案は全く此の顧慮ないのであるから適當とは認められない。

第二案

特別の顧慮を拂ふ案である。前述の趣旨に依り同意であるが、其の實行如何が問題である。即ち後退を顧慮して豫め要地に配兵して置くかどうかである。神戸西方高地に敵の小部隊でも中隊の後退に先だち占領したならばどう云ふことになるであらうか。多くの言を要す迄もなく中隊の行動は頗る困難となるのである。而も敵の此の行動は北方三ノ宮、野道方面から来たならば決して難かしいことではないのである。故に三ノ宮附近に配兵しないものは此の趣旨から是非我が一部隊を豫め此の高地に配備し置くの要があるのである。

口、第四中隊方面

第一案

西大竹東南方・140.3高地のみを占領する案である。此の高地は確かに此の附近に於ける要地であり、此處を占領することは同意である。然しそれだけでよいかどうか。

元來金目川南方地區は地形上南方に限界がないから地形上障碍があつてもドシ／＼之を突破して行くものは澁澤附近迄行けんことはないのである。従つて敵にして此の企圖があるならば必ず強行するものと考へねばならぬ。此の際・140.3高地だけを頑張つて占領してゐたのでは到底此の企圖を阻止することは出来ない。故に本案は未だ適當とは認められないのである。

第二案

・140.3高地の外其の北方・137.7高地、遠藤原或は其の西方約四百米の高地等を占領する案である。前案に就て述べた通の敵情に對し本案の如き方法を採用するときは確かに敵を阻止し得ることは出来る。然しながら僅々一中隊の兵力を此のやうに

分散して果してどれだけの抵抗力が出るであらうか。斯く考へて來れば優勢の敵に對しては逐次蹂躪せられ忽ち澁澤附近に殺到して直接旅團主力の進出を妨害するに至るであらう。故に本案も亦十分であるとは云ひ得ないのである。

第三案

本案は以上第一、第二案に加ふるに澁澤東南方約千五百米小原南北の高地にも陣地占領を豫想してゐる案である。即ち西大竹附近で防禦し更に小原附近で防禦する二段防禦案である。我が作戰要務令の原則としては好んで採るべき方式ではないのである。然し前述の如き状況の推移を豫想したならば小原附近の要地を占領し置くことは是非考へねばならぬことであつて、殊に右側部隊の受けたる任務を考へたならば寧ろ當然と云はねばならぬ。問題は如何なる行動に依つて此の二箇所に於ける抵抗を立派に爲し遂げるかに懸つてゐるのである。そこで著目すべきは西大竹附近及其の西方の錯雑地の利用である。此のやうな地形は小數の兵力を以て優勢なる敵を操縦し其の行動を困難ならしめる特性を持つてゐるから、此の特性を大いに活用し之に依つて目的を達することが必要である。以上の見地から本案は概して出題者の同意を表するものである。

四、原案

別紙要圖の通である。

説明

第一中隊長の腹案に就て

一、中隊が警戒部隊として伊勢原附近に到着する敵殊に其の企圖を偵知すると共に、敵の行ふ我が陣地に對する偵察を妨害し且支隊主力の陣地占領を掩護する爲其の攻撃を某程度迄拒止することは任務が之を要求してゐる。そこで第一に爲すべきは敵の攻撃に對する抵抗である。之が爲神戸附近一帶の地形をよく觀察し且敵の出方をよく考へねばならぬ。

二、神戸―伊勢原道以南は地形開豁し小數の兵力を以てもよく敵の前進を拒止し得るが、其の北方白根、板戸附近は蔭蔽し

てゐる爲敵兵容易に近接することが出来、又北方山王原方面からは是亦容易に野道附近に侵入を許すやうになつてゐる。故に中隊の配備は宜しく此等を基礎として敵の近接し易い地區に兵力を大ならしめるやう配備することが必要である。

三、捜索の爲には前方に斥候を出すこと勿論であるが、本状況に於ては特に神戸西方高地上に展望哨を配置し此處に精良なる望遠鏡を有する將校に依つて敵の動靜を偵知せしめることが緊要である。

次に陣地の撤退であるが、其の時機は必ずしも一齊なるを要しない。要は整然と後退が出来ることを目途として某程度敵の攻撃を拒止し、好機に於て後退に就けばよいのである。其の時機は中隊長に於て指示するを建前とするも正面幅の關係上其の方面の小隊長に委することあるは止むを得ないのである。

中隊が撤退に際し敵の追尾を受け或は捕捉せられるやうなことは斷じてあつてはならない。之が爲要すれば後退掩護の處置を必要とするも幸展望哨が神戸西方高地を占領してゐるから、中隊長は後退に先だち此處に一部隊を先遣占領せしめ、其の掩護下に中隊を後退せしめるのが適當である。

第四中隊長の腹案に就て

一、中隊が金目川南岸に於ける敵の前進を拒止する爲西大竹附近の要地である。1403を占領することは當然であるが、敵の前進地區は南方に無制限であるから到底之だけでは十分でなく、更に其の南方にも陣地占領を必要とするのである。然しながら此の附近一帯の地形を観るのに金目川南方高地は北部に於て一般に開豁してゐるが、南部は森林多く加ふるに山地帯で起伏激しく部隊の通過は極めて困難なのである。従つて中隊の配備は敵の前進容易なる北部に主力を置き、南方は遠藤原西方約四百米の高地及遠藤原の一部を置き其の他は斥候に依つて敵の西進を妨害せば之を以て足れりとするのである。蓋し此の錯綜せる山地の森林地帯は其の特性上小數兵力を以て克く優勢なる敵兵力を操縦し其の行動を妨害するに適するからである。斯くしても西大竹附近占領の中隊は其の正面幅兵力に比し廣きに互るから、到る處抵抗力十分でないのは止むを得ないことである。

二、一方澁澤附近に進出し來る旅團主力の行動を直接掩護する爲中隊が更に澁澤に近き要地を占領することは状況の推移に依つては當然必要なことであつて、中隊に課せられた任務に於て「止ムヲ得ザレバ云々」と特に指示されてゐる所以もここに在るのである。此の趣旨からして澁澤東南方約千五百米小原南北の高地は旅團進出掩護の爲占領を要する地點であるから、中隊は豫め一部隊を以て之を占領せしめ、西大竹附近の戦況の推移に應じ適時同地附近の陣地を撤して此の陣地に就かしめる爲、所要の準備を爲し置くことが必要なのである。

三、以上の著意に依り中隊は西大竹附近に於て西進せんとする敵の攻撃を拒止し、状況止むを得ざるに於ては機を失せず同地を撤し更に後方小原附近の陣地に據つて其の任務の達成を企圖せねばならぬのである。

五、原則的説明並に注意事項

1、持久防禦に就て

警戒部隊の任務に更に陣地占領掩護の任務を持つた第一中隊の行動及陣地の翼側に於て敵の前進を拒止し更に主力の進出を直接掩護する第四中隊の行動は共に持久戦に屬するもので、所謂持久防禦なるものである。要するに時間の餘裕を得んとするを目的とするものであり、其の行動は至つて難かしく指揮官の頭を要する點が特に多いのである。單に一地を死守すると云ふ専守防禦ならば事は單純であるが、持久防禦は其の戰鬪の方法に有ゆる工夫を廻らすの要があるのである。神戸附近の陣地にしても西大竹附近の陣地にしても相當敵に打撃を與へ而も敵に致さるることなく適時後方に撤退することが肝要であつて、逐次防禦の如き或は錯雜地帯の防禦の如き又廣正面に互る防禦の如き夫々一種の特性があるのに氣付かれたと思ふ。諸君は本状況に於て持久戦の一端に觸れたから之を以て將來に於ける研究の端緒にして貰ひたいのである。

2、逐次の防禦に就て

逐次防禦は今回初めて研究に上つたものであるが、防禦の形式としては既述の如く作戰要務令に於て決して賞揚してゐるものではない。然し状況上之を必要としたならば採用するに吝かであつてはならない。作戰要務令第二部第二百八十三の

第二項に「數箇ノ陣地ニ於テ逐次抵抗シ持久ノ目的ヲ達成スルヲ可トスル場合ニ於テハ云々」と特に其の方法及著眼に就て説明されてゐるのは此のやうな狀況のあることを認めてゐるに外ならないのである。

3、一、二の注意事項

1、防禦配備上の注意

防禦配備上、翼及蔭蔽近接容易なる地區に對する注意の不充分のもの甚だ多いのは遺憾である。諸君は攻撃と云へば直ちに敵の一翼を包圍するとか或は蔭蔽近接し易い方面に重點を指向するとかを考へるに拘らず、防禦に於て此のやうな方面を閉却するのは了解に苦しむ所である。將來大いに注意して貰ひたい。

陣地線を村落の前方開豁地に選んだのは一考を要する。敵より見えないやう成るべく部落に近接せしめることが必要である。

陣地占領に方つて偽装をやることは當然であるが、障礙物を開豁地に作ることは時間の少い本狀況に於ては不可能であらう。陣地設備に就ては時間と相談し其の順序を考へることが必要である。

2、任務の履行に就て

右側部隊には任務に於て「止ムヲ得ザレバ云々」と特に此のやうな狀況に際しての準據が示されてゐるに拘らず之に對する腹案を考へないものが多い。是亦當を得たものではない。如何にすれば此の任務を達成し得るか十分考へて見る必要がある。要は總て創意工夫に在ることを忘れてはならない。

第二十 増援部隊ニ依ル旅團ノ攻勢移轉

想 定

一、東京及八王子方向ヨリ相模平地ニ進入スル敵ヲ擊攘スベキ企圖ヲ有スル西軍混成第一旅團ハ御殿場附近出發ニ先ダチM支隊(聯隊長ノ指揮スル歩兵一大隊、野砲兵一大隊(一中隊欠)ヲ基幹トス)ヲ先遣シ旅團主力ノ相模平地進出ヲ容易ナラシム

二、旅團長ハ六月一日早朝松田出發旅團主力ノ先頭ニ在リテ八時高浦 秦野西方約四軒)北端ニ達ス 此ノ頃迄ニ旅團長ノ知得セル情報左ノ如シ

1、M支隊ハ五月三十日朝秦野ニ達シ直チニ權現山(秦野東方約一軒)ヨリ觀音谷戸(伊勢原西方約二軒)附近ニ互リ陣地ヲ占領セシガ昨朝以來優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケ今曉來激戰中ナリ

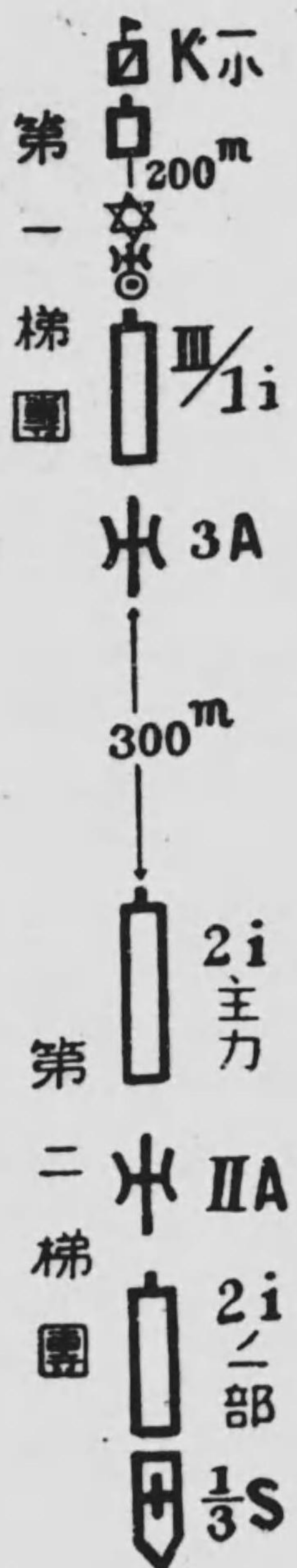
2、敵ノ兵力配置ハ大根川(伊勢原西南方約四軒)以南ニ主力ヲ指導セルモノノ如ク其ノ總兵力少クモ旅團ト伯仲ノ間ニアルガ如シ

3、西大竹(秦野東南方約一軒)附近守備ノ第四中隊ハ目下數倍ノ敵ノ攻撃ヲ受ケ近ク小原(秦野西南方約二軒半)附近ノ陣地ニ撤退スルナラン

權現山東方ノ陣地ハ既ニ敵手ニ委シ權現山亦極メテ危險ノ狀況ニ瀕セリ

三、是ニ於テ旅團長ハ主力ヲ以テ秦野南方地區ヨリ敵ヲ攻撃スルニ決ス

當時ニ於ケル旅團主力ノ態勢左ノ如シ



四、地形ニ關シ旅團長ノ知ル所左ノ如シ

- 1、相模川ハ厚木ヨリ下流諸兵ノ徒涉ヲ許サズ其ノ橋梁ハ厚木、上依知及小澤ニ在ルノミ、其ノ他ノ河川ハ斷崖ノ外通過容易ナリ
- 2、秦野東方山地ニ在ル森林ハ丈低ク展望ヲ妨ゲザルモ同地南方一帶ノ森林ハ高サ三、四米ニシテ展望、通過等ニ相當ノ障礙ヲ呈ス
- 3、實線路ハ若干ノ補修ニ依リ野砲ノ通過ヲ許ス

第二十問題

混成第一旅團長ノ決心ニ基ク處置要圖

直後ノ處置ノ外將來ノ企圖ヲモ圖示スベシ

說明

本問題ハ戰團中ノ部隊ニ増加シ攻勢ニ轉ズル方法ノ研究デアツテココニ旅團ハ乾坤一擲ノ大決戦ヲ求メントスルモノデアアル。攻勢移轉ハ全般カラ見タ形デアアルガ攻勢ニ出ル部隊ノ行動ハ純然タル攻撃デアアル。搜索不十分ノ爲往々不期戰ガ惹起セラレルコトモアルガ此ノ攻勢ハ思ヒ切ツタ強勢ノモノデナケレバナラス。此ノ際指揮官タルモノハ大局ニ著眼シ斷乎タル決心ノ下放膽且適正ナル指導ヲ爲スコトガ必要デアアル。特ニ此ノ點ニ注意サレタイ。

第二十問題に對する講評並に原案

一、狀況に對する觀察

- 1、M支隊は今朝來優勢なる敵の攻撃を受け特に其の右翼は今や極めて危険の狀況に瀕しつつある。是敵は我が旅團主力の到着を承知し一刻も速かにM支隊に大打撃を與へ我を各個に撃破せんと努力しある結果に外ならぬのである。故に旅團主力としては此の際何はさて置き速かに戰團に参加しM支隊の危急を救はねばならぬが、一には攻撃中の敵に對し之に徹底的打撃を與へ勝利を完遂することが必要である。本狀況に於て其の何れに重きを置くべきであらうか。
 - 2、M支隊として現在極めて困難なる戰況に在るとは云へ旅團主力の到着に依つて勇氣百倍したことは想像に餘りある所であつて、ここ暫くの苦境に耐へられない筈はない。故に旅團としては大局的見地から必要とする猛烈なる攻撃を實施すると共にM支隊に對し斷乎として取るべき方針を明示し勝利の一途に驀進せしめねばならぬのである。
 - 3、戰場附近一般の地形を観るのに金目川南方一帶臺上の森林は相當の障礙を呈し殊に南方に至るに従ひ地形錯綜してゐるから、此の方面に多くの兵力を使用するは考慮の餘地があるが、直接敵の側背に迫り得るの利益は認めねばなるまい。又權現山、善波峠を中心とするM支隊の現陣地は全般に山地であり、其の北方大山に連なる山地も亦同様の地形ではあるが、此の方面に多く敵兵を見ないことは看過してはならぬことではあるまいか。
- 尙遠く東方には相模川蜿蜒として南流し敵の退路は北方八王子方向に在ること及厚木に永久橋あることも一應承知して置かねばならぬ要件であらう。

二、考案の種類

諸君の採つた考案は全力若くは主力を以て金目川南方臺地方面に猛烈なる攻勢を取つてゐる。之には全然同感であるが、主

攻撃の方向其の他に就ては種々の考案に別れて居り、之を大別して次の如く見ることが出来る。

第一 主攻撃の方向に就て

第一案 秦野西南側より西大竹方向に指向するもの

第二案 澁澤東南方高地より芹澤(澁澤東方約二軒)南方高地を経て西大竹方向に指向するもの

第三案 澁澤東南方小原附近より井ノ口(秦野南方約三軒)を経て遠藤原方向に指向するもの

第二 M支隊に対する處置に就て

第一案 別に處置なきもの

第二案 攻撃を命ずるもの

第三案 一部隊を増加し攻撃を命ずるもの

第三 M支隊の陣地以北に對する兵力の使用に就て

第一案 別に兵力を使用せざるもの

第二案 特に兵力を同方面に支分せるもの

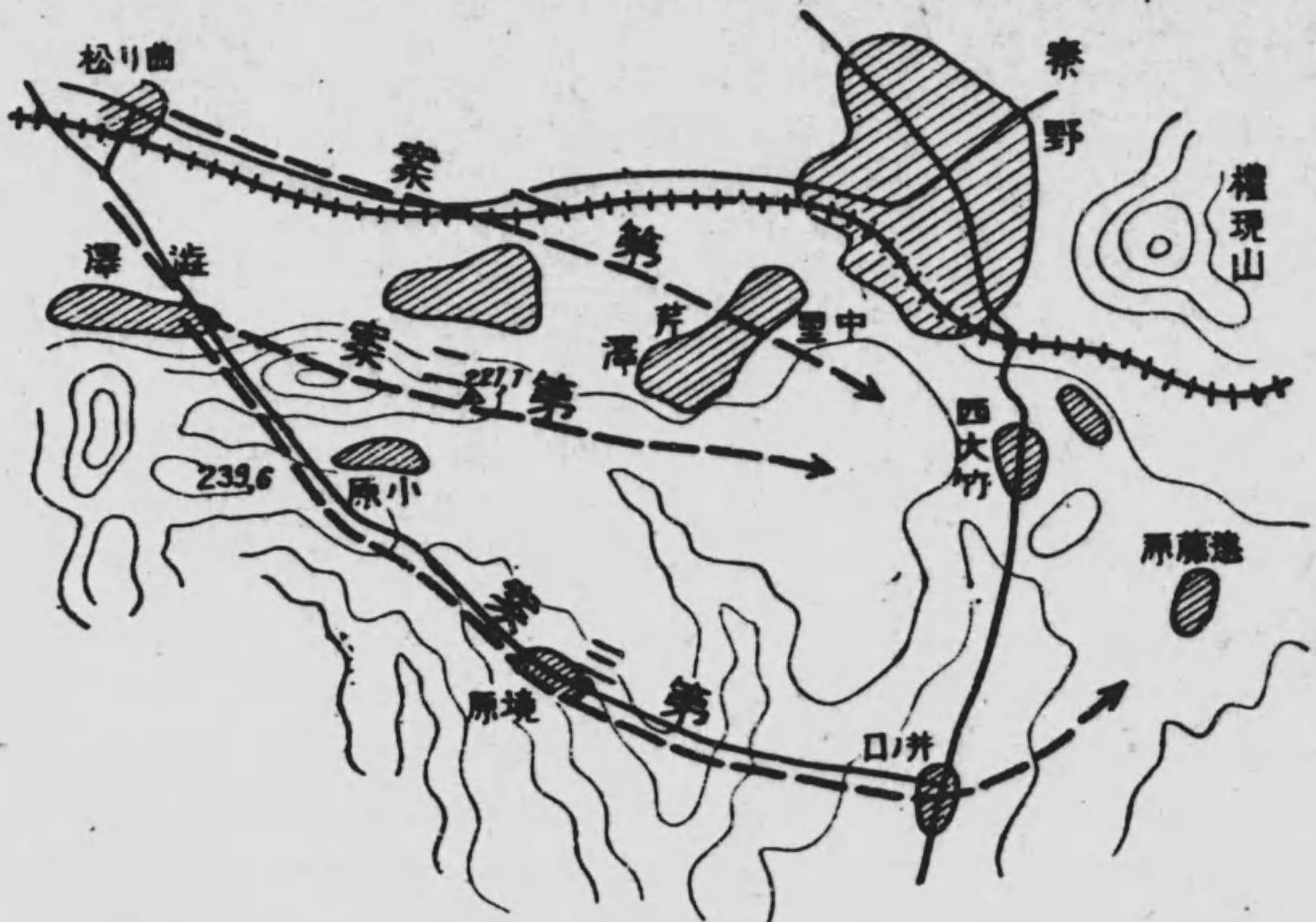
以下此等の各案に就て所見を述べやう。

三、各考案に對する所見

第一 主攻撃の方向に就て

第一案

曲り松より秦野に至る本道に沿ひ秦野西南側を経て西大竹方向に指向する案である。本案は西大竹若くは其の西方高地が確實に我がM支隊の保有に歸してゐる場合に於ては最も速かに戰場に到着してM支隊と連絡し其の危急を救ひ得るの利益を持つてゐるが、戦況は果して之を許すかどうか。若し旅團主力にして中里、芹澤附近に到着した頃敵兵既に其の東南方



能性ある良案と認め得るのである。

第三案

高地を占領してゐたならば、ここに我は高地下に敵は高地上に在つて相衝突することとなり、我の不利であることは一目瞭然たることであらう。而して現下の戦況は西大竹の保持極めて困難なのであるから、此の方面に主力を指向した場合後者の状況に陥ることは當然あり得べき事柄と見ねばなるまい。故に本状況に於ては一考の要あるものと認めるのである。

第二案

曲り松より澁澤東端を経て其の東南方高地に取付き之より芹澤南方高地を経て西大竹方向に指向する案である。本案は澁澤東南方より西大竹に互る一帯の高地を重視したもので、第一案に比し道路不良であり西大竹附近に至るに少く時間要するの不利があるが、速かに小原附近の要地(小原と澁澤との中間高地、其他 231.1高地、239.6高地、其の東方高地を云ふ)を占據し爾後西大竹に至る間何れの地點に於て敵と衝突するも十分旅團の威力を發揮し得るの利益がある。此の利點は現下の状況に於て小原附近の陣地を有効に利用しM支隊第四中隊の行動に最も有力なる援助を爲すもので、全般の態勢上からも亦概ね適當なるものである。ただ南方井ノ口より遠藤原方向に向ふ第三案の如く敵の側背に對し徹底的痛撃を與へ得ざる憾あるは止むを得ない所である。故に實行の可

澁澤東端より小原西端附近を経て境原、井ノ口を通過し遠藤原方向に指向する案である。本案は敵主力が西大竹附近或は其の西方に於て西面して攻撃してゐるのに對し、其の左側背を徹底的に攻撃し加ふるに敵をM支隊方向に壓倒し得るもので全般の態勢は誠に好都合である。然しながら澁澤から井ノ口附近に至る間は殊に地形錯綜し又森林多く従つて時間を要すること大なるばかりでなく、敵の小兵力に依つて我が前進行動が遅滞せられ優勢なる兵力を以ても十分其の威力を發揚し得ざるの缺點あるを免れない。従つて我が部隊が井ノ口附近或は其の西方に於て小數の敵に操られてゐる間、敵主力が西大竹西方一帯の高地を略取しM支隊を潰滅せしめるに立到ることも亦深く考慮せねばならないのである。現在の戦況はM支隊の防禦をして今後長時間に互つて敵を防止し得るのであるから、本案の考へ方は著しく冒険であり無理あることを知り得るのである。要約せば全般の形状は有利であるが戦機が之を許さないと云ふことに歸著するのである。故に本狀況に於ては適當と認め得ないのである。

第二 M支隊に對する處置に就て

第一案

M支隊に對し單に通報程度に止め特別の處置なきものである。旅團主力の到着はM支隊の爲には任務達成上極めて重大なる關係がある。今M支隊は其の任務達成の末期に在るのであり、而も旅團主力は之から新に戦闘を開始せんとするのであるから、旅團長はここにM支隊長に對し何等か爾後の企圖なり任務なりを與へるのが至當である。故に本案は適當ではないのである。

第二案

M支隊に攻撃を命ずるものである。旅團長としてはM支隊の實況を承知してゐないから、此のやうなことを命ずるは不適切であると云へば之も尤ものであるが、戦況は今や旅團主力の到着に依つて一變せんとしてゐる。M支隊は昨日以來優勢なる敵の攻撃を受け今曉來激戦を繼續して居り陣地の保持危機に瀕しつつあるとは云へ旅團主力の到着を知り士氣頗

に昂揚し防勢は一轉して攻勢に移らんとしてゐることは間違ないことであらう。縦ひ實際は敵からサン／＼やられてゐても愈々攻勢に轉するぞと云ふ意氣込みは盛り返さんとしてゐるのであらう。故にここにカンフル注射たる攻撃命令を與へ其の志氣を鼓舞激勵し實際に攻勢に移らしめることは極めて有意義であり又必要であると云はねばならぬのである。

第三案

單に攻撃を命ずる外一部隊をも増加せんとするものである。攻撃命令だけでも有效であるから之に兵力を増加することのヨリ有效であることは言ふ迄もないことである。然しながら之が爲主力方面の威力を減ずることとなるから其の利害を十分比較校量して見る必要がある。旅團主力は其の兵力M支隊よりも大であり而も其の主力を使用する秦野南方地區は南方に至るに従ひ地形錯綜してゐるから餘り多くの兵力を使用するは必ずしも得策でなく尙他に有利な方面あるとせば其の方面に用ふるを以て寧ろ適當とされるであらう。此の意味からM支隊に兵力を増加するは確かに有效と認め得るのである。但しM支隊に増加する以外に尙一層有効に兵力を使用する方面あるや否やを検討するの要あるは言ふ迄もないことである。

第三 M支隊の陣地以北に對する兵力の使用に就て

第一案

此の方面に兵力を使用せざる案である。旅團の主力が秦野南方に於て決戦を企圖するのであるから、北方の此の方面に兵力を支分するのは至つて迂遠の感があり殆ど考慮の餘地がないやうに思はれ諸君の全員に近いものが本案を採つたのである。然し一應は考へて見る必要があるのである。

第二案

特に兵力を此の方面に支分せる案である。元來此の方面は山地であり通過容易でないから敵兵微弱であるか或は居らないのである。従つて我が部隊の行進は單に地形の克服だけで済むのである。敵即ち彈丸の來る處を行くのと、全く來ない處

を行くのは其の難易に幾何の差があるかを思ふとき、地形の克服の如きは始と問題にならぬのである。而して之を通過して敵の側背に現出したときの威力の偉大なるに想到したならば必ずや何人と雖も此の行動の實行に躊躇するものはないと思ふ。故に問題は主力方面から相當の兵力を支分し得るかどうかである。今秦野南方の敵情、地形を観るに敵兵と雖も地形上然程大であると思はれず、地形亦大兵の行動には適しないのであるから、旅團として小兵力の支分は差支へないものと認め得るのである。故に本狀況に於ては獨立行動し得る限度の部隊を北方に支分し敵の右側背を攻撃せしめることは機宜に適した處置と云へるのである。

五、原案

別紙要圖の通である。

説明

一、前面の敵は旅團主力の到着に先だちM支隊を潰滅せんが爲目下銳意攻撃中である。殊に其の左翼金目川右岸臺地に前進せる敵は速かに西大竹附近に在る我が一部隊を突破して濫澤方向に突進し直接旅團主力の戦闘参加を妨害するに努めるであらう。

二、旅團は今隘路中を行進しつつある。之をくゞしてゐるときは敵の爲其の進出を妨害せられ下手をやると戦闘参加の目的を達し得ざる虞なしとしないのである。即ち本狀況に於て我が友軍が長く西大竹附近を確保してゐると云ふことは旅團主力の最も希望する所であるが、此の希望は至つて薄弱であり、旅團主力としては敵が西大竹附近の我が友軍を撃破して其の西方高地或は更に小原附近の高地迄突進して來ることあるを豫想して居らねばならないのである。故に旅團主力は速かに此の附近の要地たる濫澤東南方高地に前進し續いて當面の敵を攻撃することが必要である。

三、濫澤附近より西大竹附近に至る一帯の地形を観るのに濫澤東南方高地から芹澤南方高地を経て其の東方に互る高地は北方に平地を控へ南方に錯綜せる森林山地を擁する一要線を成してゐるから比較的兵力の運用に適してゐるが、北方平地方

面より概して鐵道に沿ひ西大竹に向ふ正面は敵に近く平地を前進して芹澤東方高地に現出を豫想する敵を攻撃せねばならぬ不利があり、又南方小原、境原、井ノ口方面より遠藤原に前進するは敵の側背に進出し得る利益はあるが、地形錯雑し敵の一小部隊に依つて大部隊が引摺られ所謂「森林ハ兵ヲ飲ム」の害に陥り且多くの時間を要するの不利あるを免れない。

故に本狀況に於ては旅團主力は其の攻撃重點を中央の要線に指向するを以て適當と認めねばならぬのである。

四、旅團主力の攻撃時機に於てM支隊が依然防勢に在るの不可なるは贅言を要しない。旅團長としては宜しくM支隊を攻勢に於ける一翼として新任務を與へることが必要である。之が爲旅團主力とM支隊とを一體と爲し攻撃行動に移るべき命令を下さねばならぬ。そこでM支隊に一部隊を増強すべきかどうかである。M支隊が現在の態勢から其の儘正面に向つて攻勢に轉ずることは單なる正面攻撃であるから多少の兵力を増加しても大なる効果を期待することは出來ないのである。然し其の北方即ちM支隊陣地の北方地區を観るのに地形は山地であるが敵の攻撃力大したことなく而も此の方面への進出は敵の右翼を攻撃するに恰好の地形を成してゐるから、ここに獨立した一部隊を使用し此の目的に副はしめることは極めて價値あるものと認めねばならない。

斯くすることに依り旅團は金目川及大根川河畔に於て敵に對し殲滅的打撃を與へ得ることとなるのである。

六、原則的説明並に注意事項

1、攻撃部署に就て

旅團主力が戰場に到着し之より直ちに敵に向つて攻勢に轉ぜんとするに際し、其の攻撃部署を旅團主力だけに止めてゐるものが大多數であるが、之では眞の威力發揮にはならない。到着せる部隊もM支隊も共々に一體となつて攻勢に轉ずることが必要である。中には到着せる旅團主力が第一、第二梯團の區分で來てゐるのを其の儘の名稱の下に行動せしめてゐるものもあるが適當でない。此の區分は行軍の爲の區分名稱で愈々、戦闘となつたならば戦闘區分の名稱に變更せしめるのがよい。以上の見地から旅團の主力を右翼隊、M支隊を左翼隊と命名し攻勢に前進せしめるを可とするのである。斯くして始

めて全兵力が一體となつて戦闘し得るのである。

2、攻撃方向に就て

到着せる旅團主力が南方井ノ口方向より攻撃軍の左側背に向つて主攻撃を指導するは既述の如く攻勢移轉の方向としては理想的である。然るに此の方向を以て原案としないのは一に戦機に關するものであることを知らねばならぬ。即ち折角南方に主力を用ひても之が爲時間を要し大部隊が敵の小部隊に引懸つてゐる間M支隊が潰滅したり或は小原北方高地より芹澤南方高地方向に前進する我が部隊が敵に撃退されるやうでは却つて敵の爲各個撃破せられる結果となるのである。是戦機を重視せねばならぬ所以である。

3、注意事項

イ、敵情の現し方

敵情を現すに自分の都合のいいやうに描くものが少くない。敵は最大の努力を拂つて攻撃して來ることを考へたならば、敵情の現し方は相當考へてかからねばならない。此の點に關して一般に注意を喚起して置く。諸君中敵主力が權現山東方に重點を指向して居り西大竹方面に小數部隊を當てるであらうと判斷してゐるものが多少あるが、我が旅團主力が近く到着すると思つたならば敵は必ず西大竹方面に重點を持つて來るのを至當とするのである。何となれば攻撃軍の目的は防者の陣地を取るよりも防者の戦力を潰すこと即ち防者の主力と決戦を求めるところを以て第一とせねばならぬからである。

ロ、秦野附近を経て中野方向に攻撃を取つた案に就て

諸君中右の如き方向に主攻撃を指導したものが此の進路は權現山と秦野南方高地との中間平地、否谷地である。主攻撃部隊を此のやうな狭少な地形に使用すると云ふことは全く戦術の原則に反するものであることを承知されたい。部隊の行動は兵力の大小に拘らず常に戦術的見地に立つて地形を判斷し、自己の行動をして自由を確保しある如くする

ことが必要である。隘路通過の如き、谷地通過の如き速かに之を通過脱出する如く注意せねばならぬのである。本案の如きは自ら進んで行動不自由の中に入るもので甚だ注意が足らないと云ふべきである。

ハ、重障地北方地區に兵力を使用することに就て

此の方面に兵力を使用するの有利なるに就ては既に述べた通である。諸君中此の著意のあるもの至つて少いのは無理からぬことであるが、地形全般を大局的見地から觀ると、此の案が決して奇抜でもないものである。ただ此の部隊を遠く厚木方向に出すべきか或は伊勢原附近に於て敵の右翼を攻撃すべきかが問題となるのであるが、既に追撃に移つたと云ふ状況であれば前者の如く使用することが適當となるのであることを附言して置く。

第二十一 決戦ヲ企圖スル支隊ノ防禦配備

想定

一、厚木附近ニ前進シ師團主力ノ相模平地ニ於ケル作戰ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有スルN支隊ハ秦野ヲ經テ東進シ五月一日十時其ノ主力縱隊ノ先頭ヲ以テ尼寺原(厚木西方約三杆)南端ニ達ス此ノ頃迄ニ支隊長ハ左ノ情報ニ接ス

1、約一師團ノ敵(若干ノ機甲部隊ヲ有スルガ如シ)ハ川越方向ヨリ南下中ニシテ今朝七時以後立川以西ニ於テ多摩川ヲ渡リ八王子方向ニ前進セリ、東京方向ニハ未ダ敵ヲ見ズ

2、師團ハ御殿場(秦野西方約二十八杆)ヲ既ニ出發セシモ山北(秦野西方約十四杆)以西ニ於テ道路橋梁水害ニ依リ破壊セラレ厚木附近ヘノ到着ハ目下ノ所不明ナリ

二、是ニ於テ支隊長ハ決戦ノ目的ヲ以テ概シテ林村(厚木西北方約二杆)附近ヨリ及川、小山附近ヲ經テ其ノ西北方高地ニ互リ防禦陣地ヲ占領スルニ決ス

地形其ノ他ニ關シ支隊長ノ知ル所左ノ如シ

1、相模川ハ厚木ヨリ下流ハ徒涉場ナキモ其ノ上流ハ所々徒涉シ得、其ノ他戰場附近ノ河川ハ水淺ク徒涉容易ニシテ其ノ兩岸ニ在ル堤防ハ高サ何レモ一米以下ナリ

2、戰場附近ニ於ケル森林及桑畑ハ丈低ク展望及射撃ヲ妨ゲズ

3、上依知(厚木北方約八杆)及其ノ西北方小澤ニハ永久橋アリ、部落ハ一般ニ支那式ノ家屋ナルモ圍壁ヲ有セズ

三、N支隊ノ編組左ノ如シ

長大佐某、1i、戰車隊(中型戰車若干)、I、A、騎、工兵各一中隊、 $\frac{1}{3}$ S

第二十一問題

N支隊長ノ決心ニ基ク防禦配備要圖

方針、主陣地帯、兵力部署、警戒陣地、攻勢移轉等ヲ記載スベシ

説明

本問題ハ決戦ヲ企圖スル防禦作戰要務令第二部第九十(デアル。攻勢防禦トモ云フモノ)デ最初防禦ヲ爲シ機ヲ見テ攻勢ニ轉シ敵ト決戦ヲ求メントスルモノデアル。

陣地線ハ概定シタノデアルガ此ノ線ニ於テ如何ニ配備シ如何ニ攻勢ニ轉ジ目的ヲ達スルカガ問題デアル。既ニ研究シタ第十八問題ト同様陣地判斷ト稱セラレルモノデアルガ決心デアルカラ隊號ヲ明記セネバナライ。

要圖ニハ方針及之ニ基ク主陣地帯ノ配備特ニ其ノ前線、兵力部署、地區ノ區分、警戒陣地、攻勢移轉ノ時機、方向及方法等ヲ記載シ特ニ第十八問題ニ對スル講評及注意事項ヲ再讀サレンコトヲ望ンデ置ク。

第二十一問題に對する講評並に原案

一、狀況に對する觀察

1、今朝七時以後立川以西に於て多摩川を渡つて八王子方向に前進した敵は其の後故障なく前進を繼續するものとしたならば十時には橋本(八王子南方約七軒)に、十四時には才戸南方我が陣地前に到着するであらう。此の敵に對し支隊長は師團主力の到着を期待し得ない現況に鑑みここに決戦防禦に決したのである。然し之が爲利用し得る時間は僅かに三時間程であるから、最も速かに戦闘準備に取りかかると同時に、敵にして我が陣地前到着後グン／＼攻撃することになつたならば、本夕或は決戦を爲さねばならぬことになるかも知れぬのである。

2、支隊の採らんとする陣地線を觀るのに左翼は荻野川右岸の山地に托してゐるが、右翼は林村附近であつて、東北面して居り陣地の中央には小鮎川の谷地がある。更に陣地前の地形を大觀するのには相模川、中津川、次で荻野川の谷地があつて多少敵の前進遲滞に役立つことが出来、又相模川と中津川との中間臺地はズツト南方へ延びて金田(厚木北方約二軒)に及び、中津川と荻野川との中間臺地も亦南方へ向け緩斜面を爲してゐるのである。

3、斯く觀て來たとき敵は我が陣地に對し何れの方向に攻撃の重點を向けるであらうか。之に對し我が防禦配備は如何なる方面に重點を置き、如何なる方針の下に行ふべきであらうか。其の守勢地帯と攻勢地帯との關係はどうか。我が攻勢移轉は如何なる時機、どの方向からどんな方法で行ふべきであらうか。陣地として其の第一線の位置、兵力部署、砲兵陣地、豫備隊の兵力及其の位置、其の他警戒陣地、前進陣地等はどうかを逐次に考慮し之を綜合して全配備を決定せねばならぬ。

二、考案の種類

諸君の考案は全員悉く異なつて居り夫々の理由なり根據があるのであるが、其づ其の根本となる敵の出方、之に對する我が攻勢の方法に就て研究し、其の他は主要なる一、二の事項に研究を止めることにする。

第一 敵の主攻撃方向に對する判斷

第一案 平附近より我が左翼たる山地帯に向ふもの

第二案 山根附近より小山附近に向ふもの

第三案 反田附近より林村附近に向ふもの

第二 我が攻勢移轉の方向

第一案 我が左翼山地帯より下荻野方向に向ふもの

第二案 千頭、小山附近より山根方向に向ふもの

第三案 中學校附近より反田方向に向ふもの

第三 前進陣地、豫備隊の位置及兵力

各種の考案がある。

以下此等の考案に就て研究を進めやう。

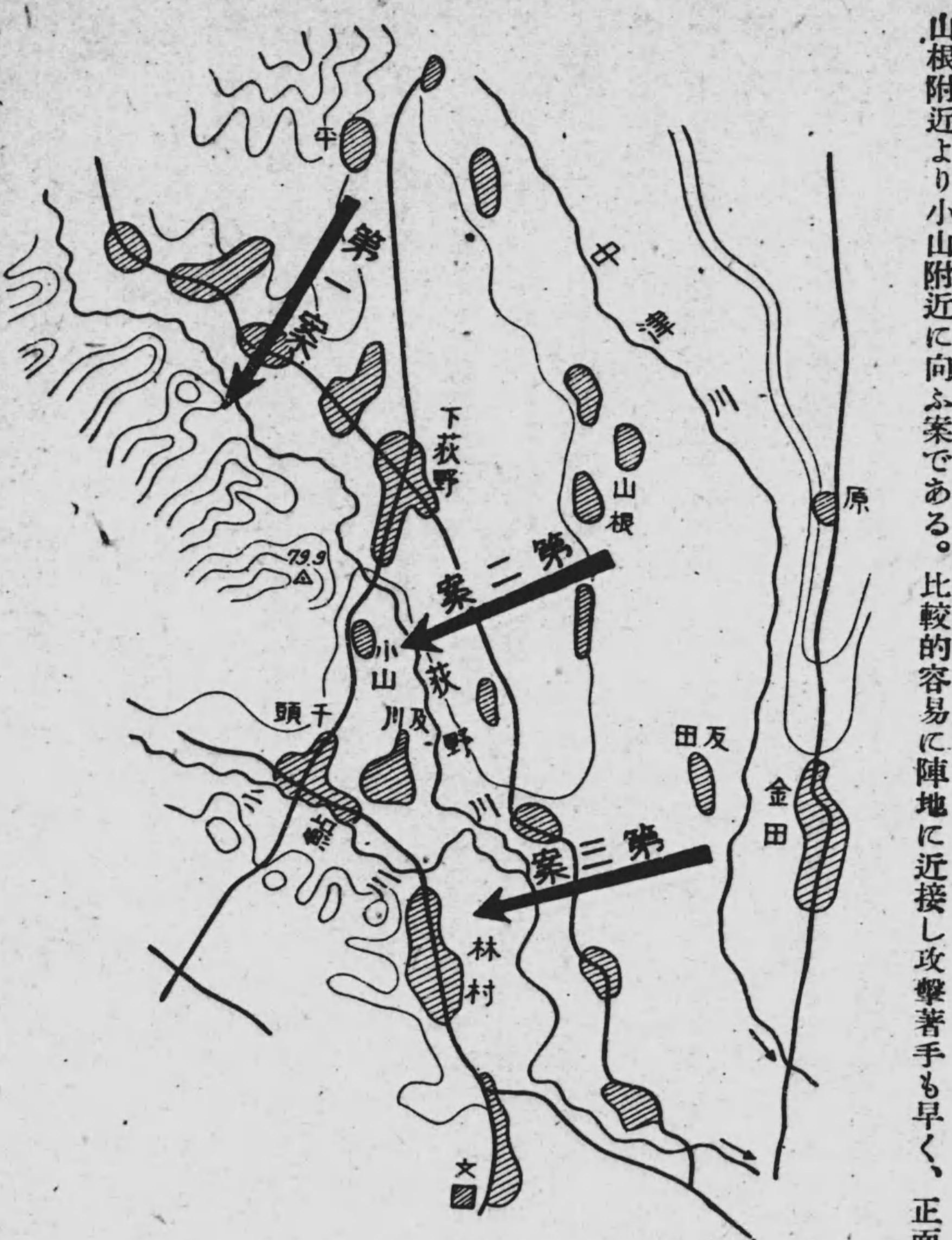
三、各考案に對する研究

第一 敵の主攻撃方向に對する判斷に就て

第一案

平附近より我が左翼たる山地帯に向ふ案である。敵主力が相模川通過を上依知、小澤の何れの橋梁に取つても、我に速かに近接するは才戸、平方面である。故に此の方面から重點を指向する本案は速かに攻撃に著手し得ると共に小山西北方高地を確實に占領した場合、我が陣地を一翼から崩してかかる利益を持つてゐる。然しながら小山西北方高地は可なり堅固であるから此の高地を確實に占領するには相當の時間を要し其の上可なりの犠牲を覺悟せねばならぬ。此の間防者にして厚木西方地區より北方に向ひ攻者の左翼をグン／＼攻撃して來たならば忽ち此の方面から陣容は瓦解し攻撃不成功になり

はせぬか。此の點考慮を要すのである。
第二案



山根附近より小山附近に向ふ案である。比較的容易に陣地に近接し攻撃著手も早く、正面攻撃の不利は免れ得ないが、左

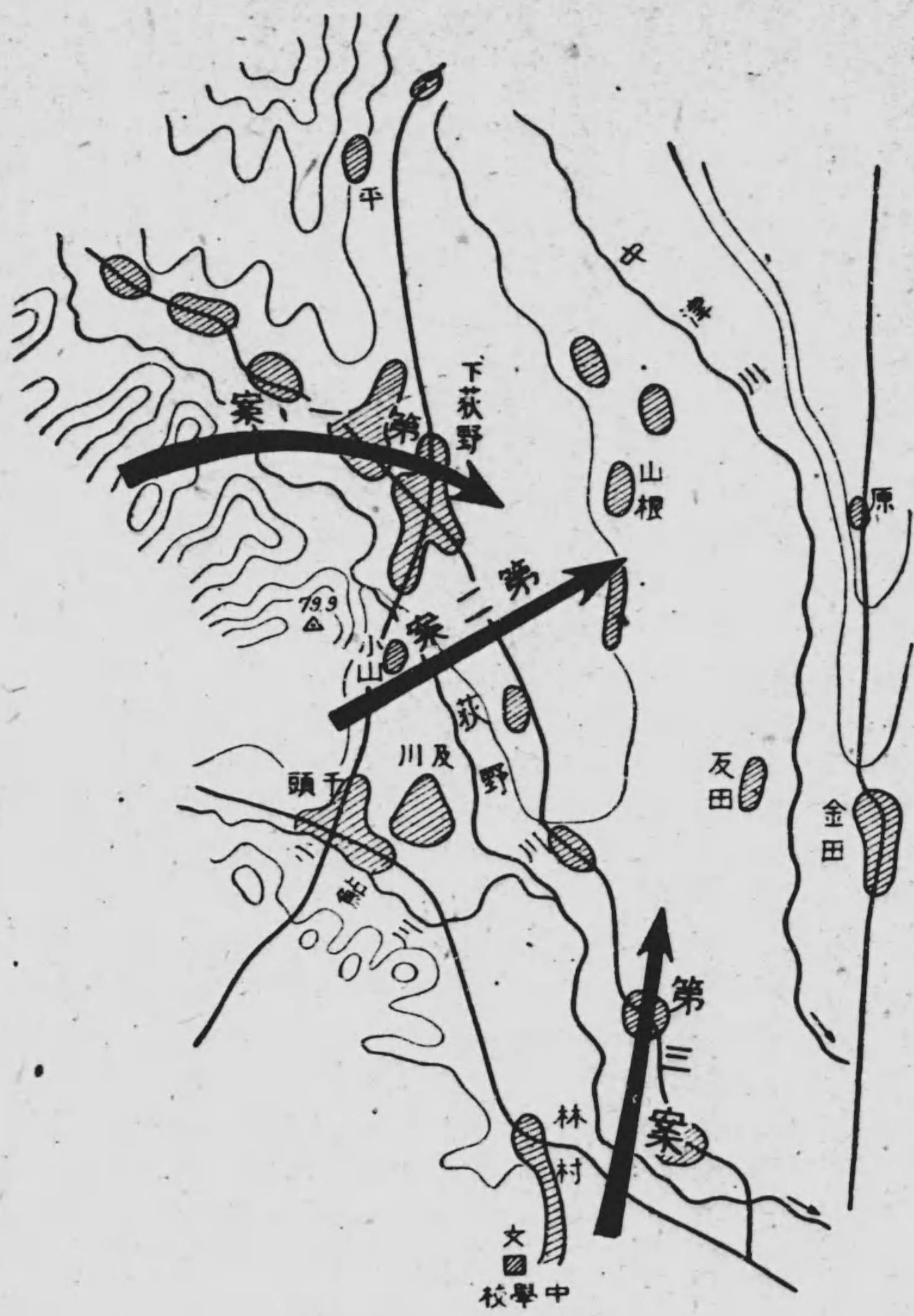
右よりの側防を受けること少く陣地の奪取も餘り困難でなく殊に小山西北方△79.9を奪取したならば全陣地を分断し得るの利益がある。故に攻撃を急ぐ場合敵の主攻撃の方向として先づ至當のものであらう。

第三案

反田附近より林村附近に向ふ案である。即ち思ひ切つて南方に下り我が右翼を衝かんとする案である。本案は主力を南方に移す爲時間を要し而も此の間敵陣地前を横行し其の上相模川の障碍を近く後方に

しながら戦闘するものであるから、防者にして北方から出撃して来た場合、忽ち其の退路を遮断せらるることとなるであらう。故に中央及北方に於て十分防者の出撃を防止し得る準備を爲し得たならば実行の可能性を有する一案と見ることが出来る。

以上三案の利害得失を見るのに第一、第二案は本日直ちに実行の可能性があるが、第三案は明日以後攻撃する場合に於て



始めて爲し得るものと判断することが出来る。支隊現下の状態に於ては敵の本日中に行ふべき攻撃を第一に顧慮し、之に應ずる戦闘準備を急務とする故敵情判断は前者を以て至當とすべく、就中第二案を以て敵の採るべき當然の策案と見ることが出来る。

第二 我が攻勢移轉の方向に就

て

第一案

我が左翼山地帯より下萩野方向に攻撃する案である。本案は敵の主攻撃方向が前記第二、

第三案の状況に於て殊に敵が下荻野以北に於て其の兵力薄弱なる場合には徹底的効果を期待し得るの利益を認めるが敵が果して此のやうな缺陷を暴露するであらうか。即ち敵にして平及其の西方高地に確乎たる據點を持つてゐたならば、其の出撃及爾後の行動は全く側防せられ挫折の危険ないとも限らない。加之左翼山地帯を下つて而も大部隊が右に方向變換を行ふと云ふことは敵前に於ては至難と云はねばならぬ。故に本案は相當考慮の餘地あるものと云はざるを得ぬのである。

第二案

千頭、小山附近より山根方向に出撃する案である。即ち陣地中央より其の儘前方へ突進せんとする案である。本案は作戰要務令第二部第二百七に在る「正面ヨリ攻撃ニ轉ズルヲ利トスルコト亦少カラズ」の状況であるが、敵の主攻撃方向が前記第一、第二案の場合陣地前で決戦を求めるとは原則の示す如く決して好んで採るべき方法ではないのである。蓋し單に正面衝突だけの爲、火力と突撃力とに依つて敵を壓倒するより外に手がなからである。故に此の方法は他に手段のない場合採用するのが通常とされてゐるのである。

第三案

中學校附近より反田方向に向つて攻撃に前進する案である。本案は攻撃して來る敵の側面に向つて攻勢に轉ずるもので、前記第二百七の前段に記述しある「有力ナル部隊ヲ以テ其ノ側背若クハ翼側ニ向ヒ包圍ヲ行フヲ最モ有利トス」に該當する状況である。此の原則は攻勢に轉ずる場合最も有利なる攻撃方向を示されたもので、成し得たならば此の原則に據るべきものである。本状況に於て防者が陣地正面に攻者の攻撃威力を拘束しある間、機を見て中學校附近から敵の側面に向ひ攻撃することは可能の事柄であり、而もよく原則に合致してゐるから、此の際正に適當なる考案と云ふことが出來やう。

第三 前進陣地、豫備隊の位置及兵力に就て

1、前進陣地に就て

平西方高地を前進陣地として占領してゐるものと然らざるものとがある。上依知、小澤方向から南下する敵に對し、我

が主陣地帯を林村から及川を経て小山西北方高地に互り占領するに方つて、平西北方高地を前進陣地として取らねばならぬことは殆ど議論の餘地はないと思ふ。此の點に著意なかつたもの相當あるは考へが足りないものと思ふ。

2、豫備隊の位置及兵力に就て

豫備隊の位置は爾後の使用を顧慮して決定すべきである。従つて出撃若くは攻勢移轉の出發點とも云ふべき位置に置くのが適當である。諸君の選定された位置は千頭、林村或は尼寺原等で概して此の目的に合してゐるのであるが、蔭蔽地のある此の地形に於て開豁地に暴露位置せしめてゐるものが多數あるのは考へねばならぬことである。是非當初は蔭蔽地内に入れ必要の際開豁地に出さしめることが必要である。

豫備隊の兵力は陣地守備の兵力に餘つたものを集めたものでなく、攻勢防禦即ち攻勢を主體とした此の種防禦に於ては是非建制部隊となし攻勢の威力を完全ならしめる如く決めねばならぬ。諸君の考案は色々に分れてゐるが一般に此の著意が不十分である。

四、原則

別紙要圖の通である。

說明

一、八王子方向に前進せる敵は本日十四時頃には我が陣地前に到着するであらうから、支隊は本日中でも敵の攻撃を受けることあるを覺悟し今から速かに之に對する防禦配備を爲すことが必要である。

支隊の占領する陣地は左翼は小山西方の山地帯であり右翼は林村附近で別に限界がないやうだが、相模川の障礙に依つて自然と決定せられることとなるのである。従つて敵が本日攻撃するとしたならば、其の攻撃方向は我が左翼方面か中央小山方面と思はれるが、前者は山地の爲地形比較的堅固であり又其の第一線を取つても山地の錯雜地に主力を入れることは却つて攻撃を有利ならしめないのに反し、中央小山方面は攻撃に方り十分歩砲兵の威力を發揚し又多少突出部ともなつて

ゐるから、速かに攻撃して成果を求めんとするには最も適當なる方向と判断することが出来やう。故に支隊の防禦配備は此の方面に重點を置くことが必要である。

二、我が攻勢移轉の方法は支隊が獨立部隊であり且左右兩翼に行動の餘地ある本狀況に於ては作戰要務令第二部第二百七前段の原則に従ひ一翼から敵の翼側に向つて行ふことが適當である。而して我が左翼山地方面から出撃するものは錯綜せる山地を通過し且平西方高地に在る敵から側防を受けて前進せねばならぬから、其の實行は頗る困難なるものがあるが、我が右翼方面から出撃するものは行動容易であるばかりでなく、直接敵の側面を衝き得ることが出来るのである。殊に我が一部隊にして金田を経て上依知方向に前進し敵の背後を脅威するときは敵に一大痛撃を與へ得るのである。故に本攻撃方向を以て狀況に適するものと断定することが出来る。

三、我が主陣地帯を確保する爲平西北方高地を前進陣地として占領し勉めて長く敵の前進を遲滞するのは全般の地形を一瞥して直ちに首肯し得られる所であらう。又我が攻勢移轉を有効適切ならしめる爲支隊の豫備隊の兵力を勉めて強大にし且之を攻勢移轉の發起點附近に配置するを可とするやうであるが、狀況の變轉圖られざる當初の時期から此の地に配置するは寧ろ過早と云ふべきである。故に此の豫備隊は最初は全般の關係上平山附近に置き、狀況の進展に應じて中學校方向に移動せしめるを以て適當とするのである。

四、主陣地帯の兵力部署及歩兵抵抗地帯の前縁は陣地全般の地形が自然と林村附近、及川及小山附近、山地帯と三分せられある關係と其の要度とに基き、建制を顧慮して所要の兵力を配置し、及川及林村に於ける歩兵の第一線は其の村縁に求めるのを適當とするのである。又砲兵は先づ敵を遠距離に支持すると共に敵主攻撃の方向及我が攻勢移轉の前方を十分火制することを主眼として其の陣地を決定すべきである。

警戒陣地の位置及出すべき部隊並に其の兵力は第一線大隊(右は第一線中隊)に其の準據を示すを以て足れりとし厚木北端は此の方面に對する敵の突進を防止し且攻勢移轉の際右翼據點として確保するの要あるを以て特に一部隊を以て當初から

占領せしめて置くことが必要である。

五、原則的説明並に注意事項

決戦を企圖する防禦に關しては出題の際示した如く作戰要務令第二部第九十の原則に従ふべきもので、其の戰鬪要領は同第二百四乃至第二百七明示の通である。諸君中此の原則に一通眼を通さぬ人もあるやう見受けられるが、成るべく一瞥した上で作業されんことを希望して置く。

以下諸君の作業に關係した主要な原則に就て少しく解説して置かう。

1、決戦防禦の意義に就て

本狀況の如く師團主力の到着が期待されないのに支隊は著しく優勢なる敵に直面せねばならぬときは、單なる防止を目的とする戰鬪では自滅に陥るから、勢ひ乘るか反るかを決戦を求めねばならぬのである。然るに彼我兵力の懸隔は到底對等の戰鬪を許さぬ故、ここに地形を利用し準備を周到にして決戦を企圖する防禦即ち攻勢防禦を取つたのである。諸君中不相變師團主力の到着を期待してゐるものがあるが、之は誤りであることを承知されたい。

決戦防禦は必ず攻勢に出ることが條件であることも亦知らねばならぬ。

2、決戦防禦の方式に就て

作戰要務令第二部第九十及同第二百七明示の如く攻勢移轉の方式に二つの別がある。而して敵の一翼に向つて攻勢に轉するものが最も有利であり、正面より攻勢に出るのは時として利とすることがある位のものである。然るに諸君中の多くが正面出撃案を採つたのは何か考へ違ひをしたのではなからうか。兩翼に限界がない場合には多くは一翼から攻勢に出るものと考へてよいのである。

攻勢移轉の時機は豫め計畫すべきものであることは原則明示の通である。

3、前進陣地に就て

平西北方高地を前進陣地として取ることは作戦要務令第二部第七十九に記述しある陣地前に於ける要點を過早に敵手に歸せしめないこと及敵の近接を困難ならしめる目的に合致するもので、本状況に於ては是非此の必要があるのである。前進陣地の占領は其の撤退が誠に難かしいもので、此の點に特別の注意が肝要であること原則明示の通である。本状況に於て平西北方高地を主陣地帯に入れた諸君もあつたが、かうなると陣地正面が支隊の兵力に比し著しく廣く、到底決戦防禦は成り立たなく逐次敵から切り崩されるのである。

4、各種注意事項

イ、敵情判断に就て

敵の攻撃を受ける時機を全く考へない案が大多数であるが適當でない。又敵の主攻撃方向を判断しないものが可なり多いが是亦不可である。防禦は敵の出方を考へ之を破推することが肝腎なのであるから、是非敵の出方は要圖上に明示しなければならぬ。之が爲敵の展開正面、重點方向、主要なる砲兵陣地、機甲部隊の行動等は其の豫想を描畫すべきものである。

ロ、豫備隊の兵力及位置

豫備隊の兵力小なるは決戦防禦に於ては適當でない。又此の部隊を混成の部隊とすることも同様である。豫備隊を最初から攻勢移轉發起の位置に置くことは考へもので、當初は全般の關係を顧慮して中央後附近に置き時機を見て所要の方面に移すべきである。

豫備隊は勉めて蔭蔽地内に置くべきであるに拘らず、全く敵の空中偵察に暴露して配置しあるもの相當多きに上るは遺憾と云ふの外ない。

ハ、陣地線の描き方に就て

陣地線即ち歩兵の抵抗地帯の前線は明確に圖示することが必要である。諸君中單に地域を描いたものもあるが之では陣

地占領にはならない。

陣地を従深に深く取つたものが相當あるが、本状況の如く僅々三、四時間の後敵が来る場合に於ては第一線に陣地を構成するのが漸くのこと之以上は困難であらう。

ニ、厚木北端の占領に就て

敵の南進を阻止し且攻勢移轉に方り右方の據點として厚木北端を占領することの必要は既に述べたのであるが、之が攻勢の爲支拂たるべき要地(作戦要務令第二部第二百七の末文参照)であることを承知されたい。

第二十二 中第一線タル歩兵大隊ノ防禦配備及攻勢移轉

想定

一、八王子方向ヨリ北進中ナル敵ニ對シ厚木附近ニ於テ決戰防禦ヲ企圖セル南軍N支隊（歩兵一聯隊、戰車隊（中型戰車若干）野砲兵一大隊ヲ基幹トス）ハ七月一日十時南方ヨリ尼寺原（厚木西北約四軒）ニ到着、直チニ陣地占領ニ著手ス

二、支隊ノ中第一線タルI/Iノ此ノ日十二時ニ於ケル態勢竝ニ同大隊長ノ知得セル支隊長ノ企圖及支隊ノ現態勢要圖ノ如シ

三、敵情其ノ他ニ關シ同大隊長ノ知ル所左ノ如シ

- 1、敵ノ兵力ハ約一師團（若干ノ機甲部隊ヲ有ス）ニシテ本日十二時頃ニハ相模川ノ線ニ達スルナラン
 - 2、戰場附近ニ於ケル森林及桑畑ハ丈低ク展望及射撃ヲ妨グズ上依知（厚木北方約八軒）及其ノ西北方小澤ニハ永久橋アリ相模川ハ厚木ヨリ上流ハ所々徒渉シ得ルモ同地ヨリ下流ハ不可能ナリ其ノ他ノ河川ハ水淺ク徒渉容易ナルモ其ノ兩岸ノ堤防ハ高サ一米以下ナリ
- 部落ハ一般ニ支那式ノ家屋ナルモ圍壁ヲ有セズ

第二十二問題

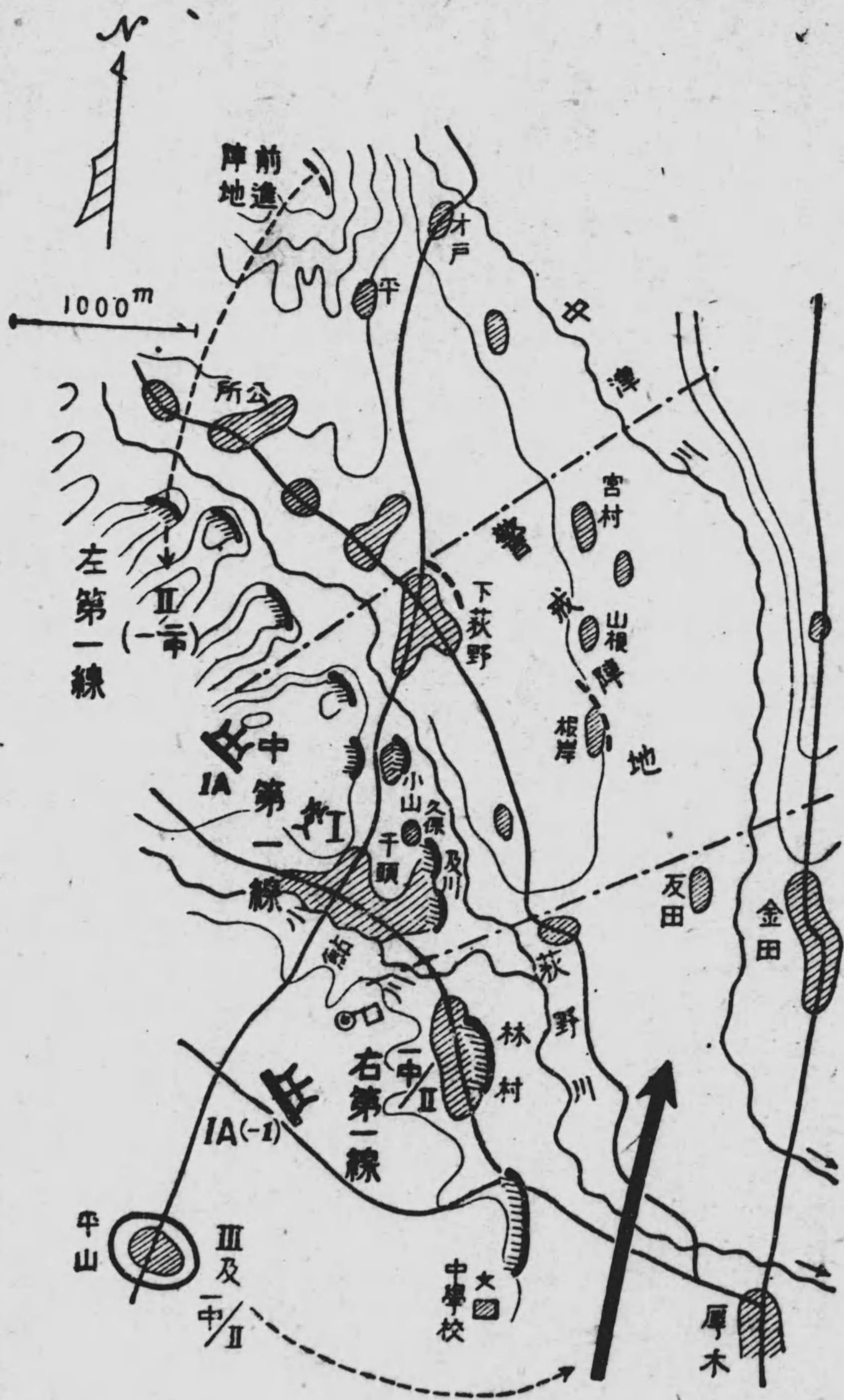
第一大隊ノ防禦配備竝ニ戰鬪指導要圖

說明

支隊防禦ノ中第一線大隊トシテ其ノ配備竝ニ戰鬪指導ヲ要求スルモノデアル。防禦配備ノ概要ハ既ニ示セル通デアルカラ其ノ細部ヲ記述シ殊ニ第一線中隊、警戒部隊、豫備隊ノ如キハ隊號ヲ明示サレタイ。戰鬪指導トハ支隊ガ攻勢移轉ニ際シ大隊ハ正面カラ當然出撃スルカラ其ノ部署、出撃要領等ヲ云フノデアツテ之ヲ圖示サレタイ。之ガ爲作戰要務令第二部第二百四乃至第二百七ニ就テ研究ヲ希望シテ置ク。

南軍N支隊態勢要圖

(ルケ於ニ時二十日一月七)



N支隊長ノ企圖

支隊ハ林村ヨリ及川、小山ヲ經テ其ノ西北方山地ニ互リ陣地ヲ占領シ機ヲ見テ攻勢ニ轉ゼントス

第二十二問題に對する講評竝に原案

一、狀況に對する觀察

- 1、八王子方向より南下中の敵に對し決戦を企圖せる南軍N支隊は十時尼寺原に到着し直ちに占領に着手せるものの、十二時には敵は既に相模川の線に達するから、後一時間したら我が陣地前に現出して來ることは明かである。そこで我は陣地占領に多くの時間がなく、敵は之に乗じて直ちに攻撃に着手するものと考へねばなるまい。
- 2、支隊長の企圖は陣地を占領して防禦はするが、機を見て攻勢に轉じ敵に殲滅的打撃を與へんとするものである。此の攻勢移轉は南方厚木と中學校との中間から敵の左側に向つてするもので、此の際支隊の中第一線たる歩兵第一大隊も亦當然攻勢に轉するのであるが、其の時機、方向及方法手段等が問題なのである。
大隊は支隊全般の態勢から見れば防止正面殊に敵主力の重點が指向せられる正面と判断せられるのである。されば大隊としては陣地占領に時間の餘裕が少い現狀況に於ても、出来る限り堅固に占領し且我が火器の威力を最大限に發揚して敵の猛攻を阻止し以て支隊全般の爲に攻勢移轉の動機を與へねばなるまい。
- 3、此の目的を達する爲地形と擔任正面幅とを觀るのに、左翼△799高地附近は據點として十分であるが、右翼は及川の部落が平地にあるだけで餘り堅固ではなく、中央、小山、久保附近は臺地と部落とがあつて陣地として工夫すれば相當堅固にも占領し得るやうである。此等をよく圖上に於て研究したとき、大隊は第一線に幾何の中隊を出し擔任正面にどう云ふ風に配備し警戒部隊の兵力は何處から幾何部隊出すべきか、豫備隊の兵力及其の位置は何處にすべきか等を決定し、次で大隊所屬の重火器部隊を如何に使用すべきかを考へ、ここに大隊の防禦配備を決定すべきであらう。
敵兵攻撃し來たならばどう云ふ風に戰闘して阻止すべきか、支隊攻勢移轉の動機を與へるには如何にすべきか、大隊の攻勢移轉は何時の時機にすべきか、其の方法手段、出撃方向等は豫め計畫し置くべきことではなからうか。

二、考案の種類

諸君の考案は多種多様であるが主要なる著眼に依つて區分すると次の如くである。

第一 第一線に出す兵力

第一案 二中隊のもの

第二案 三中隊のもの

第二 警戒部隊の兵力及出すべき部隊

第一案 一小隊のもの

第二案 二小隊のもの

第三案 第一線中隊より出すもの

第四案 豫備隊より出すもの

第三 攻勢の時機

第一案 支隊の攻勢に伴ふもの

第二案 我が陣地前に於て火力を以て敵を制壓した時機とするもの

第三案 機を見て攻勢に轉するもの

第四 攻勢の方向

第一案 小山北方より東方に向ふもの

第二案 及川方面より北方又は東方に向ふもの

第三案 久保方面より根岸方向に向ふもの

以下此等の各案に就て所見を述べやう。

三、各案に對する所見

第一 第一線に出す兵力

第一案

二中隊案である。本案は第一線に約半数の兵力を出し豫備隊に約半数を持たんとするもので、火力に依る期待よりも攻勢に出るとき機動力に依る期待を重視したものである。防禦に依りては此のやうに考へるのも一案であるが、本狀況の如く大隊の戦闘正面千六百米と云ふ相當の廣正面に二中隊を第一線に出すのでは其の火力至つて薄弱であるとも云へやう。此の薄弱火力を以て果してよく敵の猛攻を拒止し得るであらうか。支隊が如何に巧妙に厚木西側方面から敵の翼側に向つて攻勢に轉ずるとしても中第一線たる大隊が之に先立ち陣地を突破せられるやうでは何もならないのではないか。作戰要務令第二部第二百七に「何レノ場合ニ於テモ攻勢ノ支撐タルベキ地域ハ之ヲ確保シテ主力ノ攻勢ヲ容易ナラシメ云々」と示されあるは、大隊の如き攻勢の支撐を成す陣地は斷じて敵に突破されてはならぬことを教へてゐるのではなからうか。斯く見て來たならば本案の適當でないことは自ら會得し得られるであらう。

第二案

三中隊案である。本案は明かに第一線に重點を置き其の威力を重視した案である。敵の猛攻に對し此の廣い正面を確保する爲には第一線兵力の大であることは自然の要求と云はねばならぬ。然し初めから四中隊全部を出すことは大隊防禦戰鬥の本旨即ち獨立して防禦すべき本質上適當でないから、三中隊第一線となる譯である。但し地形、陣地線等を詳細に互つて研究したとき所要の修正を爲し防禦戰鬥の實行を最善たらしめねばならぬことは勿論である。

第二 警戒部隊の兵力及出すべき部隊

第一案

一小隊案である。警戒部隊の兵力を最小限に止めたいことは同意であるが、此の廣正面に一小隊を以てして敵情搜索、主

陣地帯掩護の任務(作戰要務令第二部第六十九參照)を完うし得るであらうか。極めて疑問とせざるを得ぬのである。殊に根岸及下萩野の二方面に出すことを考へたとき一小隊案の適當ならざるは自然と理解せられることであらう。

第二案

二小隊案である。前述の如く一小隊にして過小なれば二小隊とするは順序である。作戰要務令第二部第六十九第四項に警戒部隊ノ兵力ハ勉メテ之ヲ小ナラシムルヲ可トス」と示されある通必要の最小限を以てするのが適當であるとすれば、本狀況に於て根岸及下萩野に各小隊を派遣し之を以て満足すべきである。此の際警戒部隊に敵の攻撃遲滞其の他の任務を附課することは特に其の必要もなければ地形も適しない故考慮するの要はなからう。

第三案

警戒部隊を第一線中隊から出す案である。警戒部隊の戦闘と第一線中隊との戦闘が特に緊密なる連繫を要したり或は警戒部隊の兵力が半小隊程度で第一線中隊から出して其の中隊の戦闘力に大なる影響がないと云ふ場合に於ては本案のやうなものも成立するのであるが、本狀況は此のやうな關係がないから考へものである。

第四案

大隊豫備隊から出す案である。元來警戒部隊の任務は地區隊長(歩兵聯隊長或は旅團長が之に當つてゐる)の戦闘指導に係する所最も多いから、作戰要務令第二部第六十九第一項記述のやうに各地區から出すべきであるが、本狀況に於て全兵力が支隊である所から地區隊長の仕事は第一線大隊長が擔任することとなり、従つて警戒部隊は大隊豫備隊から出すのが適當となるのである。

第三 攻勢の時機

第一案

支隊の攻勢に伴ひ攻勢に轉ずる案である。本案は支隊全般の企圖に合致するもので、支隊の攻勢に伴ひ攻勢の支撐を成す

第一線が共に攻勢に出るのは至極尤もな攻勢時機と云ふべきである。故に本案には同意を表するのである。ただここに注意すべきは支隊の第一線たる大隊が攻勢の時機は支隊の攻勢に伴ふものであると限定し敢て積極的に敵兵撃滅の舉に出でないとしたならば、是は大なる誤りであることである。即ち大隊としては當面の敵に對し絶えず有效なる火力を以て其の攻撃力を破潰し状況に依りては適宜逆襲を爲し其の鋭鋒を挫き支隊全般の爲に攻勢移轉の好機を作爲せしめねばならぬことが大切なのである。

第二案

我が陣地前に於て火力を以て敵を制壓した時機に出撃する案である。本案は地區防禦に任じある大隊の當然爲さねばならぬ戦闘方式であるが、之を以て大隊の攻勢移轉の時機を決定するのは聊か專斷に失し却つて支隊全般の統制を紊すこととなりはせぬか。何となれば我が陣地前に於て火力を以て敵の攻撃を破潰した時機は確かに直前の敵を殲滅する好機には違ひなく大隊として出撃し之に一大打撃を與へることは戦術上當然の處置と云ふべきであるが、支隊の他の正面も亦同様であるかどうかは疑問であり、大隊だけが勢ひよくドシ／＼攻勢に轉じ前進して行つても他の正面が全く異なつた状況であるとしたならば、大隊は却つて敵の爲各個撃破せられることとなるからである。故に本案を以て大隊の攻勢移轉の時機と決めるのは一考の要があるものと云へやう。但し大隊の正面に來た敵が正に敵の主力であり之に對して眞に鐵槌的打撃を與へ大隊が適時の出撃を敢行して敵が徹底的損害を受けるやうな戦況が現れたならば、之は支隊の爲絶好の攻勢移轉の時機と見ることが出来、其の實行と相俟つて大隊亦ドシ／＼敵に向つて出撃を繼續すれば、此の出撃は支隊の攻勢移轉を誘發し且之と相伴ふもので正に理想的戦闘指導法と云へるのである。

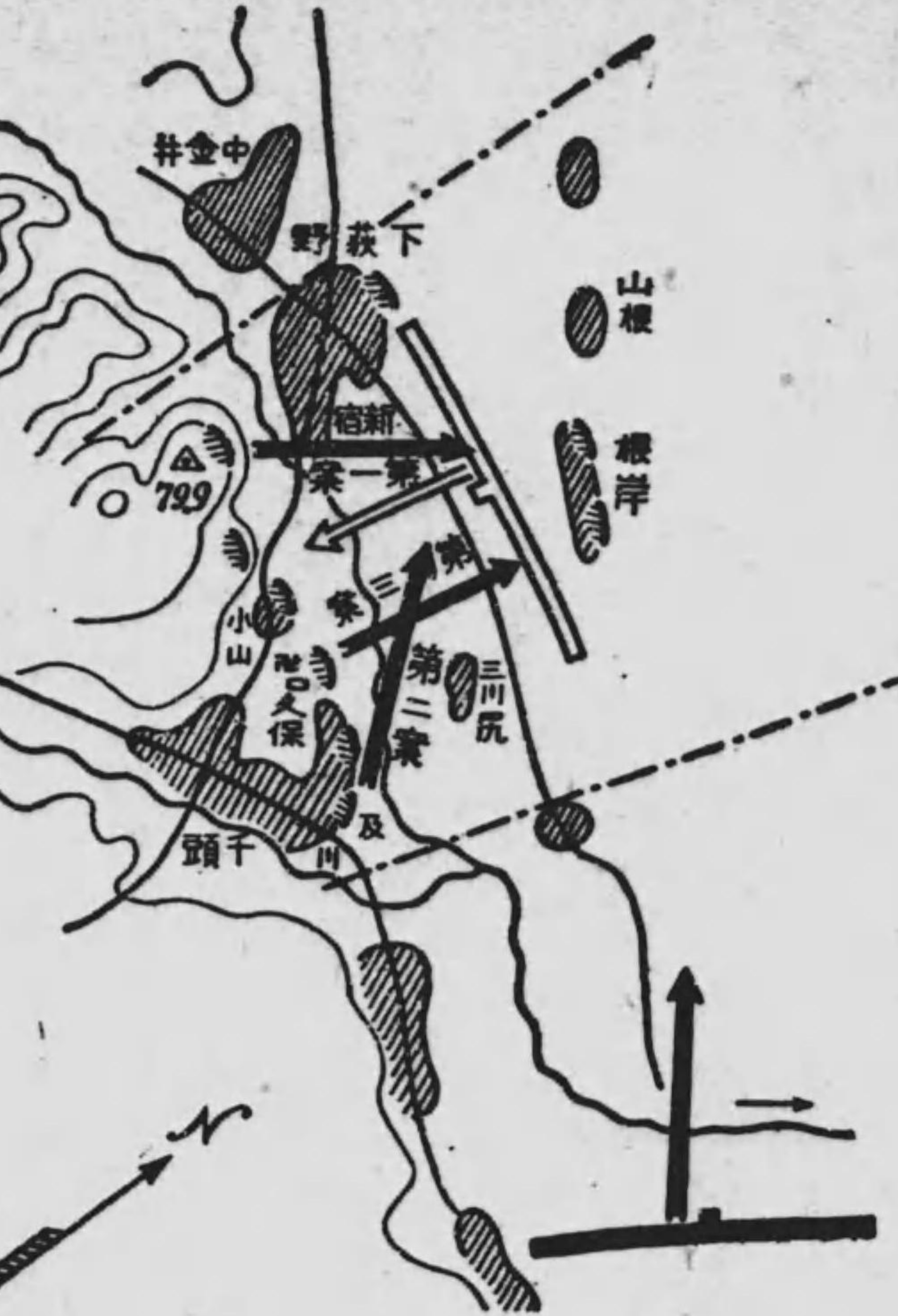
第三案

機を見て攻勢に轉ずるもの即ち豫め攻勢移轉の時機を概定することなく好機を看破して出撃せんとする案である。本案は一應尤もな考案であるが、第一線の部隊長としては果して如何なる時機が好機であるかは決し兼ねる故適當でなく、既述

の如く火力に依つて打撃を加へ要すれば局部的な出撃を敢行して敵の攻撃を防止し、其の全般的攻勢と一致せしめるのがよいのである。戦況の推移中出撃の好機を發見し適時局部的な出撃を爲すことの適當であることは多言を要しない所であるが、最初から此の種出撃を攻勢移轉の時機であると決めることは遂に好機がない場合に於ては不成立となるのであるから適當とは認められないのである。但し全般の指揮官に於ては戦況の變化に對する部署が第一線部隊長とは大分異なつて來るから此のやうな考へ方をする方が多くの場合却つてよいのである。

第四 攻勢の方向

第一案



小山北方より東方に向ふ案である。本案は南方より北方に向ふ支隊主力の攻勢移轉に對し前面の敵を挾撃する企圖を有するもので戰術的に尤もな一案である。然しながら大隊陣地の左翼方面は△729高地があり、攻勢に轉ずる部隊は敵の展望及射撃下に高地を下り且下狹野、新宿に據る敵を撃退して其の東方に進出せねばならぬ困難さは決して少いものではない。故に其の成功は寧ろ危ぶまれざるを得ないものがある。此の際幸我が左第一線大隊が順調に逸早く下狹野

北方地區に進出して來てゐたならば戦況は極めて有利であるが、そんなことは稀有であつて之をあてにすることは決して至當な處置とは云へない。故に本案には同意することが出来ないのである。

第二案

我が右翼及川方面より北方又は東北方に向ふ案である。及川方面は既に状況に對する觀察に於て述べたやうに平地であるから此の方面から攻勢に前進することは極めて容易である。然し此の地域から直ちに北方に向くことは三川尻に敵が頑張つてゐた場合側方から射撃せられ得策とは云はれない。故に此の方面から出るとすれば先づ三川尻に突進することが必要である。縦ひ支隊主力が南方より北方に向ひ攻勢に前進する場合に於てもさうである。ただ大隊が擔任する陣地の一翼から正面に對して直角に出撃することは小山の正面に敵主力の猛攻を豫想する本状況に於ては恰も廻はり行燈のやうになるのであるが、大隊は元來防止正面として敵の主攻撃を完全に破摧することが最も主要事項であるとすれば、此のやうな出撃は一考の要あるものと謂はねばなるまい。

第三案

及川の北側久保方面から陣地正面と直角に根岸方向に對して出撃する案である。本案は大體擔任正面の中央附近であり之を其の北方小山附近に比し出撃の際臺地を敵に暴露して下ることが少く而も及川方面の如く平地に在る久保の部落から前進に移り得るの利益がある。加之敵の來るべき主攻撃方面でもあるから、よく我が火器の威力を發揮して敵の猛攻を押さへ、一方南方よりする支隊主力の攻勢に呼應して破摧せる敵主力に向つて出撃することも出來、大隊の攻勢正面及攻勢方向は共に適當と認むべきものである。此の見地から本案には同意を表するものである。

四、原則

別紙要圖の通である。

説明

一、八王子方向より南下中の敵は十二時既に相模川の線に到達するから、支隊は本日當然其の攻撃を覺悟すべきである。而して其の重點は概して大隊の正面に指向せられるものと判断せられ、支隊の攻勢は南方より敵の左側に向つて指向せんとしてゐる關係上、大隊は正に支隊決戦防禦に於ける攻勢の支撐たるべき役目を果さねばならぬ。従つて作戰要務令第二部

第二百七明示の如く此の地域は儼乎として之を確保し、主力の攻勢を容易ならしめるやうにすることが必要である。

大隊の防禦配備は以上の要求に基き一方其の擔任正面の相當廣き現況に鑑み三箇中隊を第一線とし重火器の主力を擧げて之に協力し、以て豫想する敵主力の猛攻を拒止することが適當である。従つて豫備隊は一中隊を以て満足し、警戒部隊は大隊の擔任正面幅と配備すべき地域の地形とを顧慮して二小隊となし、之を當初餘り用のない豫備隊から出すのを以て可とするのである。而して之に與へる任務は警戒部隊本來の任務たる搜索及掩蔽に止めることが適當であらう。

二、大隊に於ける戰團指導の第一は擔任正面の確保に在るから、一般防禦戰團の要領に従ひ我が陣地前線に中央附近に濃密なる火網を構成する如く配備し、其の威力に依つて敵の攻撃力を破摧し、積極的に支隊の攻勢移轉に對し發動の好機を與へるやうにすることが肝要である。此の間大隊が陣地確保の目的を以て逆襲又は出撃を爲すことは當然のことであるが、常に全般の状況を稽へ、濫りに他方面に連繫なき出撃等から孤立戰團となり、敵の爲各個撃破せられるやうなことがあつてはならない。

三、大隊攻勢移轉の時機は以上の見地から支隊の攻勢移轉の時機を相伴はしめることが適當である。尤も戰團の經過中敵の攻撃頓挫したり或は敵の過失を發見したときは巧みに之に乗じて支隊の攻勢移轉を誘發するやうにせねばならぬが、何れにしても攻勢移轉の爲出撃するに方つては先づ火力を以て敵の攻撃を十分破摧することが緊要である。此の際漠然と好機の到來を待つて攻勢に轉ぜんとするが如きは多くは好機を逸するに至るものであつて、此等の決心は寧ろ最高指揮官に於て決すべき事柄と云ふべきである。

四、攻勢移轉の爲大隊重點の指向は左翼の高地方面、中央の臺地方面、右翼平地方面の三種類あるも、敵主力を徹底的に撃滅することを重視し中央より右翼に互り我が展開容易にして前進に便なる地域より陣地正面と直角方向に取るのが最も適當である。斯くするときは一面に於て支隊の攻勢方向と相俟つて敵を挾撃することの利益をも收め得るのである。

五、原則的説明並に注意事項

1、攻勢移轉と逆襲とに就て

攻勢移轉とは防者が決戦の目的を以て攻勢に轉ずるを謂ふのであつて、行動其のものは純然たる攻勢である。逆襲とは防者が陣地保持の目的を以て攻撃動作を取ることを謂ふのであつて、之が實施の時機は攻者が陣地前に於て其の攻撃動作頓挫したとき或は陣地に肉薄し又は陣地内に侵入したときに於て行ふものである。故に逆襲は其の目的を達したならば固有の陣地に引き上ぐべきものである。出撃と謂ふのは單に攻勢に出ると云ふ意味で出撃部隊が決戦の目的を持つてゐると否とは問はないのである。

攻勢移轉は右のやうに決戦の目的を持つてゐるから最高指揮官に於て其の實行の時機を指令されるものであつて、各級指揮官は當面する敵に對し之を破摧し要すれば逆襲に依つて陣地を保持し、其の效果に依つて最高指揮官に攻勢移轉の好機を提供するやうに心掛けねばならぬものである。而して各級指揮官が攻勢移轉を爲す場合は通常逆襲と同様な形式に依つて攻勢に移ることとなるものである。

攻勢移轉の方式は作戰要務令第二部第二百七の如く敵の側背若くは翼側に向つて包圍を行ふ如く實施するか或は陣地前に於て敵に損害を興へたる時機に於て正面より攻撃に轉ずるがよいのである。前者を機動に依る攻勢移轉、後者を火力に依る攻勢移轉と謂ふてゐる。本狀況に於て支隊全般は機動に依る攻勢移轉であるが、第一大隊の取るものは火力に依る攻勢移轉なのである。

2、注意事項

イ、攻勢移轉の時機を明示すべし

本問題の研究に於て攻勢移轉の時機を明示しないものが多數あるが、決戦を企圖する防禦に於ては各級指揮官に於ても此の點は明瞭にして置くことが必要である。

ロ、防禦主線を明示すべし

防禦の要圖に於て主陣地帯の前縁即ち防禦主線を明示しないものがあるが適當でない。單に部隊の存在位置を示しただけでは防禦配備の要圖とはならないことを承知されたい。

ハ、要圖と方針とは一致を要す

要圖に描かれた事項と特記されてゐる方針とが不一致であるのは適當でない。又本狀況に於ける要圖としては單に敵の方向を示す矢印のみを以て敵を示したのでは無意味であり、是非敵の攻撃して來る隊勢を判斷し之を圖上に描くことが必要である。何となれば之が基礎となつて防禦配備が決まるからである。

ニ、敵前の側方移動は不可なり

攻勢移轉の場合に限らず何れの場合に於ても部隊が敵前近距離に於て暴露して側方に移動することは不可能である。諸君中隊部隊の移動、第一線の前進等に此等が平然と描かれてゐるのがあるが注意すべきことである。

第二十三 遠方ニ追撃目標ヲ選定スル狀況ニ於ケル支隊ノ追撃部署

想定

一、八王子方向ヨリ前進シ伊勢原北方山地東西ノ線ニ陣地ヲ占領セル敵ニ對シ秦野方向ヨリ前進セル南軍A支隊(歩兵一聯隊、野砲兵一大隊ヲ基幹トス)ハ八月一日早朝ヨリ攻撃ヲ開始シ苦戰ノ後夕刻ニ至リ漸ク敵主陣地帯ト判斷セラルル北高森ヨリ龍散寺西南方高地ヲ經テ九澤附近ニ互ル陣地ヲ奪取セシモ敵ハ尙其ノ後方一帶ノ陣地ヲ固守シ依然頑強ナル抵抗ヲ持續ス

二、支隊長ハ日没後概ネ現在ノ態勢ヲ以テ夜ヲ徹シ明朝攻撃ヲ再開スルニ決シ銳意之ヲ準備ニ努力シアリシガ夜半三時ニ至リ突如第二大隊長ヨリ前面ノ敵兵今曉一時頃ヨリ逐次北方ニ退却ヲ開始セルコト及搜索隊長ヨリモ敵ノ歩兵部隊今朝二時小野

一 尼寺原厚木西北方約三杆(道)ヲ續々北方ニ向テ退却中ナルノ情報ニ接シ直チニ敵ヲ追撃スルニ決ス

三、今二日三時頃ニ於ケル支隊ノ態勢概ネ別紙要圖ノ如ク同時頃迄ニ支隊長ノ知得セル敵情、地形要圖所載ノ如シ

第二十三問題

A支隊追撃部署要圖

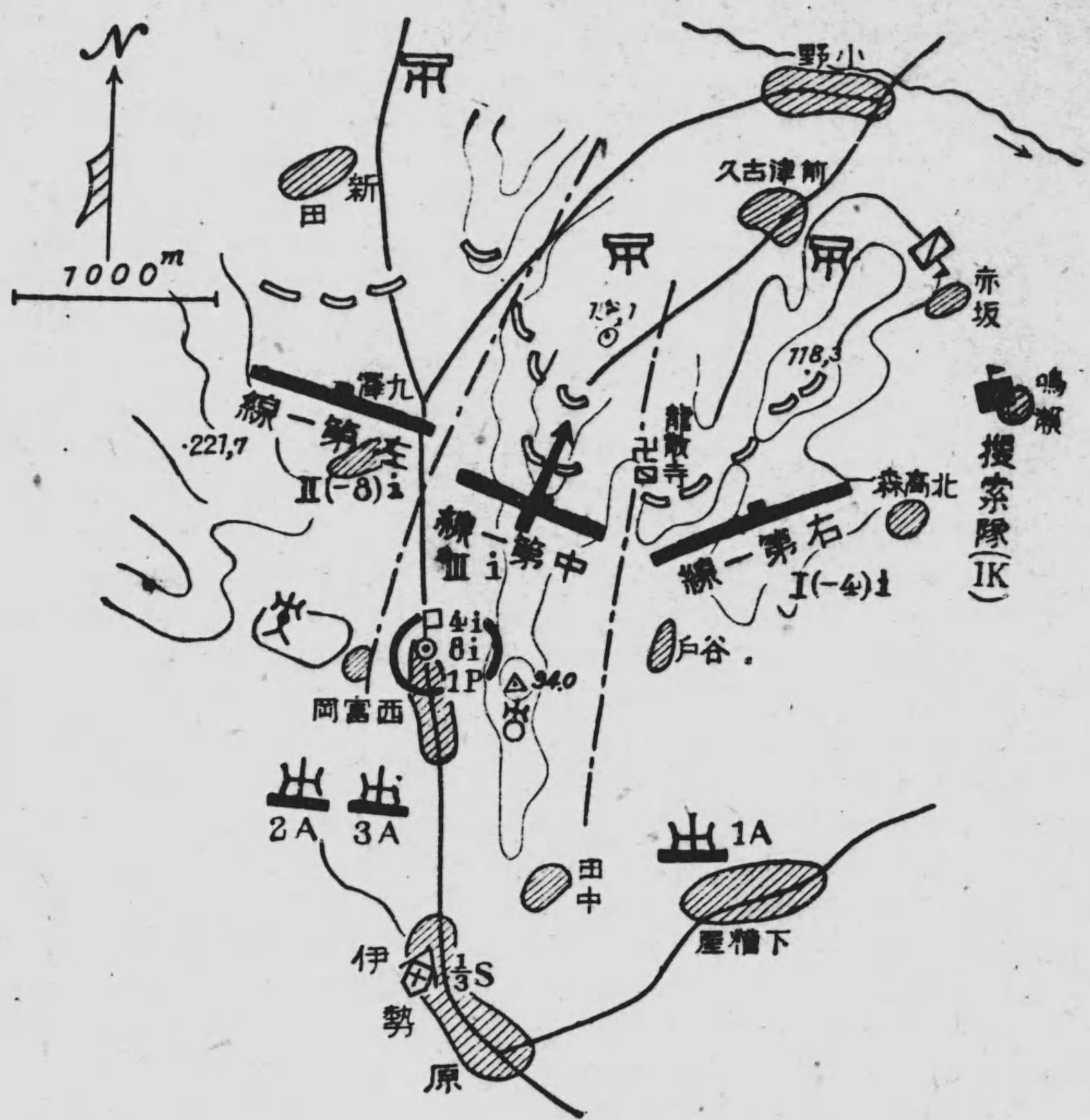
方針及部署ノ概要

說明

本問題ハ從來多ク經驗セラレタ追撃狀況ノ初動ヲ現示シ研究セントスルモノデアアル。一日夜支隊ハ終日戰鬪ノ後可ナリ疲勞シテキルガ敵ハ戰況不利ト見テ潰亂ニ先ダテ後圖ヲ策スル爲退却ニ移ツタモノデアラウ。其ノ疲勞程度ハ決シテ我ヨリ少イト云フコトハ言明出來ナイガ志氣ニ於テ著シク劣ツテキルコトハ確カデアアル。故ニ支隊ハ此ノ際斷々乎トシテ猛烈ナ追撃ヲ爲シ敵ヲ潰滅ニ導カネバナラヌ。之ガ爲全般ノ地形ヲ觀察シ如何ニ軍隊ヲ部署シ指導スベキデアルカ。作戰要務令第二部第四篇追撃ノ部ニ就テ研究サレタイ。

伊勢原附近A支隊態勢要圖

(ルケ於=時三日二月八)



敵情

敵ノ總兵力歩兵約三千内外、戰車若干、野砲十數門ナルガ如ク戰車數臺ヲ破壊セリ

友軍

我方損害約三百五十ナルモ志氣極メテ旺盛

地形

片點線路ハ野砲ノ通過ニ適スルモ實線路ハ所々修理ヲ要ス
相模川ハ厚木上流ニ於テ所々徒涉場アリ上依知及小澤(共ニ厚木ノ上流)ニ永久橋アリ

第二十三問題に對する講評並に原案

一、狀況に對する觀察

1、夜半三時直ちに追撃に決した南軍支隊長として此の際如何なる部署を取るべきであらうか。作戰要務令第二部第二百十六に明示してある通、速かに追撃隊を編成して追撃に任せしむべきか、それとも第一線部隊に追撃地域を指定し且所要に應じ軍隊區分を變更して敵を急追せしむべきか。要は逃げかけた敵に對し完勝を収める爲徹底的打撃を與へるやう部署することが緊要である。然らば此の際敵は果してどう云ふ風に退却して行くであらうか。そして我が部隊は今どう云ふ隊勢に在るであらうか。先づ此の邊からして考へて來ることが必要であらう。

2、現在の第一線部隊に追撃地域を指定して押すとしたならば何れの線に向つて押すべきであらうか。此の際の効果はどうか。又其の後は如何にすべきか。次に縦隊を以てする追撃に移るとしたならば追撃隊を編成すべきであらうか。それとも全部隊が追撃に任すべきであらうか。此の際追撃目標は何處に選定するを適當とするか。近くてよいか、遠方の方がよいか。地形上何處に於て敵に大打撃を與へ得るか。又之と追撃目標との關係はどうか。

3、縦隊追撃に移るとして何れの道路を利用するを可とするであらうか。二縦隊か三縦隊か。又各縦隊に屬する部隊の兵力、編組は如何に定めるを至當とするか。迂回部隊を差遣すべきかどうか。足の早い搜索隊を如何に使用するを適當とするか。此等各事項に互つて一通の研究を爲しよく之を圖上の地形に照合したとき、ここに考案が決定せられるのである。

二、考案の種類

諸君の採つた考案は猛烈なる追撃行動に出ることには一致してゐる。然しながら其の部署は前記の觀察に於て示した事項に互つて全然區々雑多である。例に依り主要なる着眼を基礎として分類すると次の如くなる。

第一 追撃初動の部署

第一案 其の儘攻撃を繼續し次で縦隊追撃に移るもの

第二案 直ちに縦隊追撃に移るもの

第二 追撃目標

第一案 戰場に近く概して愛甲、小野の線のもの

第二案 尼寺原若くは中津川の線のもの

第三案 上依知附近相模川の線のもの

第四案 上溝若くは橋本附近のもの

第三 追撃隊編成の有無

第一案 追撃隊を編成せざるもの

第二案 同編成せるもの

第四 縦隊追撃の爲の部署

第一案 主力を伊勢原—小野—中津道、一部を石田(伊勢原東北方約三軒)—厚木—上依知道に前進せしめるもの

第二案 主力を石田—厚木—上依知道、一部を伊勢原—小野—中津道に前進せしめるもの

右兩案共更に一部を西方の諸道路を小澤(上依知西北方約五軒)若くは川尻に進めたものがある。

以下此等の各案に就て所見を述べやう。

三、各考案に對する所見

第一 追撃初動の部署に就て

第一案

其の儘攻撃を繼續し次で縦隊追撃に移る案である。本案は追撃一般の狀況に據つたものであるが、現況は果して之が適當

であるかどうか。現在は夜半である。戦闘は既に中止の姿であり、各級指揮官は明朝よりの戦闘準備を爲してゐるのである。此の状況に於て新に戦闘を再開することは謂はば全線を擧げて今から夜襲に移らんとするもので、到る所敵に衝突し混亂に陥ることは當然と見ねばならぬ。斯くして後改めて縦隊追撃に關する命令を下さんとするも連絡容易ならず時は刻々と過ぎて追撃遅延するに到ること明かである。故に今から戦闘を繼續し次で追撃に移らんとするは全く現況に適せざる案と云へやう。

第二案

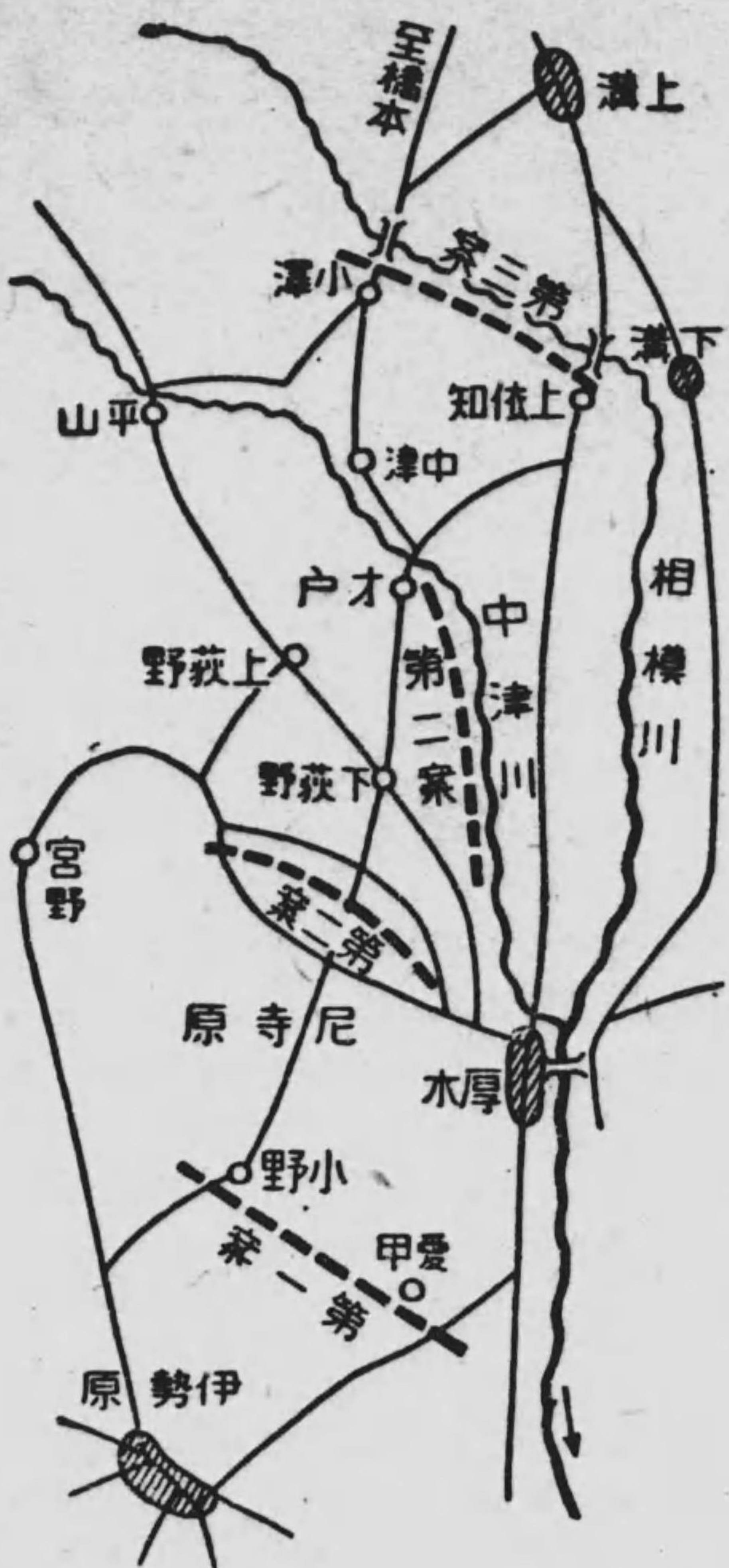
今から直ちに縦隊追撃に移らんとする案である。現在敵は既に逃げかけてゐるのであるから、直ちに之に觸接して追撃の實行に移らしめると共に將來の縦隊追撃を考慮して夫々必要な事項を命令することは此の際既述の如く是非必要である。故に本案に對し同意を表するのである。但し命令下達に方つては事急を要する事項を先づ速かに傳達して實行に移らしめ、

引續き追撃に關する所要の命令を傳達することになるのである。

第二 追撃目標に就て

第一案

戰場に近く概して愛甲、小野の線に取る案である。現に退却行動に就てゐる敵に對し、今直ちに戦闘を再開して戰場近くに之を捕捉し得るやうな地障があれば、多少の混亂も覺悟の上で、遮二無二此の線迄押すもよからうが、地障として取り



立てて言ふ程のものもない此の附近の地形に於ては、此等の近距離目標は意味を爲さないものである。故に本案は適當とは認められない。

第二案

尼寺原若くは中津川の線に取つた案である。尼寺原は愛甲、小野の線より稍、遠いが所謂五十歩百歩の處であり且地障として見るべきものもない故適當とは認められない。

中津川の線即ち才戸附近を目標とし此の附近に於て敵に殲滅的打撃を與へんとする案は地形上見るべきものがある。即ち小野―才戸道を退却する敵の縦隊に對し我が追撃部隊が厚木―下荻野道に突進し或は宮野―上荻野道方面より才戸西方高地に進出したならば、ここに殲滅的打撃を與へ得る可能性があるからである。然しながら敵が此のやうな行動を我に許すや否やが疑問である。敵は恐らく此のやうな機會を與へない爲厚木及宮野方面に夫々一部隊を出して我が急追を阻止すると共に小野―下荻野道を退る縦隊はグン／＼後方に後退することとなるであらう。さうすれば我れが此の附近で敵を捕捉することは難かしく殊に之迄の距離も近い故此處で敵を一網打盡と云ふことは先づ期せられまいが、某程度の捕捉は大いに努めるの要あるものと思はれるのである。

第三案

上依知附近相模川の線に取つた案である。本案は中津川の線と大同小異の感があるが、距離上稍、遠く又相模川の障碍程度は中津川に比し一段と強く、従つて此の線に於て敵を捕捉することは中津川のものに比し遙かに確実性が多いものと云へるのである。ただ此の線も亦追撃の爲には尙過近の憾みもあるが、支隊が此の線を超えて上溝附近に出ると云ふことは敵に却つて反撃の好機を與へるもので、此の點は特に注意せねばならぬことである。故に支隊の取るべき第一次の目標としては此の線を以て適當とするのである。論者或は此の線は實際戰場より近く此の附近にて敵を捕捉するは至難であると。一應尤もな言であるが、退却する軍隊の後方は想像以上の混雜あるのが通常であるから、此の附近迄急追すれば相當の效

果は求め得るであらうと云ふことが言へるのである。

第四案

上溝若くは橋本附近に取つた案である。追撃目標として作戦要務令第二部第二十五第二項明示の如く遠方に求めたもので、主旨としては異存のない所である。然しながら相模川は所々徒渉場あるとは謂へ、何と云つても障碍たる價値は之を認めねばならぬ。故に之を輕舉渡河することは有爲の敵に對し反撃の好機を與へること必至である。従つて追撃隊は之が渡河に方り少くとも其の先頭を統制し慎重の態度を以て臨むことが是非必要であると云へるのである。此の見地から本案には同意し兼ねるのである。

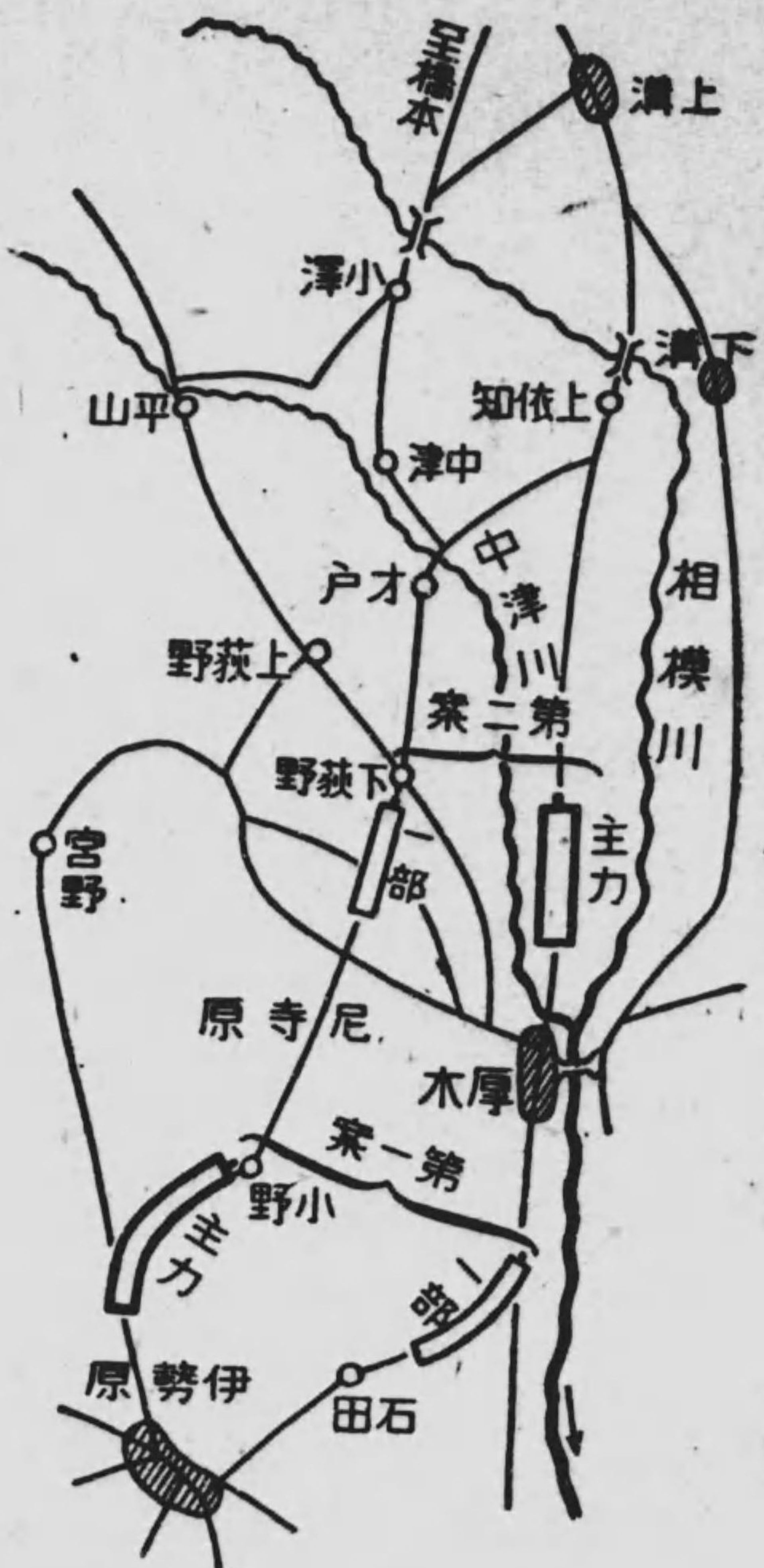
第三 追撃隊編成の有無に就て

第一案

追撃隊を編成せざる案即ち支隊全部を擧げて追撃する案である。追撃の状況に於て本案を取ること素より當然ではあるが、追撃隊を編成するものに比し部隊の氣分に於ては相當の懸隔あるものと見ねばならぬ。本案は一般追撃の状況に於ける支隊の行軍態勢であつて追撃其のものよりは戰備を嚴にする所に重點があるのである。従つて慎重を要する追撃の状況に於ては此の主旨に従ふを可とするのであるが、本状況の如く一刻も速かに敵に追ひ付き之に喰つてかからんとする場合に於ては聊か不適當と言はざるを得ない。故に同意を表することが出来ないのである。

第二案

追撃隊を編成し急追せんとする案である。速かに敵に急追し敵に喰つてかからんとする状況に於ては速かに進出し易い部隊を以て追撃隊を編成し他に何等の拘束を受けることなく一意敵に向つて追撃せしめるのが適當である。之が追撃隊編成の必要なる所以であつて、本状況に於ても進出し易い部隊を以て追撃隊を命じ斷乎急追せしめるのが適當であり、之が追撃本然の姿とも云へやう。而して支隊長としては所要の兵力を直接指揮掌握し必要の道路を追撃隊の後方に在つて前進し



其の推進威力たらしむべきである。

第四 縦隊追撃の爲の部署に就て

第一案

主力を伊勢原—小野—中津道に、一部を石田(伊勢原東北約三軒)—厚木—上依知道に前進せしめる案である。即ち敵主力縦隊の退却を豫想する本道に我亦主力を進めんとする案であるが、之で果して敵を捕捉し得るであらうか。距離が遠ければ既述の如く敵の退却滯滞に乗じて之

に追付き敵に痛撃を與へられないこともなからうが、其の効果は側方より背後に廻つて敵に痛撃を加へるものに比すれば、微弱と云はざるを得ないであらう。ここに尙一考の餘地が存するのである。

第二案

右と反對に主力を石田—厚木—上依知道に、一部を伊勢原—小野—中津道に前進せしめる案である。本案に對し敵も亦石田—厚木—上依知道に有力なものを退却せしめたならば、結局に於て同じことであらうと云ふ論もあるが、現在の陣地全般と道路網との關係を一瞥したならば、敵が此の方面に有力な部隊を支分しやうとしても、それは側方移動となり其の行動は難かしいのである。そこに我は付け込むと共に厚木以北に於て西北方及北方に走る道路は丁度敵退却縦隊の側方若くは側背に出易いこと明瞭であるから追撃部隊としては此の方面に勉めて有力なる部隊を進ましめることが緊要となるのである。尙此の際伊勢原—小野—中津道に一部隊を出すことの必要は敢て論ずる迄もないことであらう。

右の外伊勢原—小野—中津道より西方の山地に一縦隊を進ましめる案が多数ある。此の方面亦敵に對し迂回するに適當するか、勿論其の必要を認め同意を表するのである。

四、原 案

別紙要圖の通である。

説 明

1、支隊前面の敵は確實に退却に就たものと判断し得るから、支隊は機を失せず直ちに追撃に移り敵を退却途上に捕捉し之を殲滅するやう努力することが緊要である。現在支隊は明日に於ける攻撃を準備中である。第一線各隊は確實に敵と觸接してはゐるであらうが、全正面に於て現に戦闘實行中であるとは考へられない。假りにさうであるとすれば、それは獨斷追撃に移つた爲敵と衝突してゐるものであると云へやう。故に支隊が直ちに全線を擧げて攻撃前進に移ることは改めて夜襲を決行することであつて、準備不十分の夜襲を招くことを考へたならば、此の動作の不適當であるは多く論ずる迄のこともないと云へやう。即ち本狀況に於て支隊が攻撃を再興するは當を得たものではなく、要は第一線各隊に對し現況に應じ或る部隊は敵線を突破し或る部隊は敵の退却に尾して突進する等之に適當するやう命令することが必要なのである。之が即ち追撃行動に移るべきを命ずることである。而して一旦之を命じ部隊を手裏から手放したならば夜間のことではあり爾後部隊に對し容易に現況に即した適切な命令を下し得ないから、此の際將來をも見透した所要の件をも併せ命令し置くことが必要である。

2、追撃に移つた支隊は敵を退却途中に於て捕捉するに努めねばならぬ。伊勢原附近より八王子附近に至る間の地形を大觀するの右に適した地障と云つたものはないが、才戸附近或は上依知、小澤附近は多少此の要求に適し得るものと云へやう。蓋し才戸附近は西方に山地がある外中津川に沿ふて厚木附近より才戸附近に突進する道路があり、又上依知、小澤附近は共に相模川の障壁を目前に控へる要地であるからである。之に對し愛甲、小野の線或は尼寺原は共に現戰場より至近

の距離であり而も何等地障ない爲到底敵を捕捉するには適しないし、上溝、橋本附近は距離相當遠く、作戰要務令第二部第二百十五の勉メテ遠キ地點ニ之ヲ選定スルモノトスの主旨に合するものであるが、相模川の障壁を輕舉超越して前進せねばならぬ戰術上の不利あるを免れない。是敵に對し反撃の好機を與へるからである。故に支隊としては相模川の線に目標を取り、此の線に至る間に於て勉めて多くの敵を捕捉殲滅する著意を以て追撃に移るを可とするのである。

3、本追撃に方り支隊全部を擧げて追撃すること素より當然であるが、追撃部隊には他を顧みることなく遮二無二敵に追付き或は側方より退路に迫つて敵に喰つてかかるやう仕向けることが緊要である。之が爲追撃隊を編成し放膽なる行動を取らしめるがよい。斯くして此等の部隊は多くの道路を利用して退却する敵に殺到せしめ、支隊長自らは所要の兵力を掌握して主要道路を追撃隊の後方に在つて前進し適時追撃隊に支援を與へるが適當なのである。

4、追撃隊の進路は敵の退路を基礎として考へるの要がある。伊勢原—小野—中津道は敵陣地の眞直後方のものであるから、敵は恐らく主力を以て此の道路を後退するものと判断し得るのである。然し此の道路に追撃隊の主力を進ますことは、數多の小地障に依つて却つて急追を妨害せられる處が多いから、十分其の目的を達し得られないのに反し、東方厚木方面に通ずる道路を前進せしめるときは厚木—下狹野道、厚木—原(厚木北方約三軒)—上原(原西北方約三軒)及厚木—上依知道方面より敵主力縦隊の側面に迫り得る機會が屢、あることを發見し得るのである。故に本狀況に於ては宜しく此の方面に追撃隊の主力を使用すると共に其の一部を伊勢原—小野—中津道に進ましめるを可とするのである。

尙西方山地方面伊勢原—宮野—上狹野道及上狹野—平山—久所道も亦退却する敵縦隊の側方に迫り得る進路であるが、山地にして小部隊の抵抗と雖も忽ち前進を遲滞せられる故、我れ亦小部隊を支分するを可とするのである。以上各追撃隊は其の任務に稽へ多くの火力部隊を附することが肝要である。

搜索隊は其の決速を活用して厚木橋梁に依り相模川左岸に進出し下溝(上溝東南方約五軒)方向に前進して敵の當麻附近に於ける後退を遮斷するに努めしめるを可とするのである。

五、原則的説明並に注意事項

1、追撃の初動に就て

退却に移らんとする軍隊は其の企圖を敵に察知せしめない爲め夜暗を利用することになるのである。此の際に於ける追撃は多くの場合退却行動の相當進捗した時期に於て行はれることとなるから、既述の如く通常當初から縦隊追撃の部署を取ることもなるのである。之に反し晝間敵を陣地から撃退し之を敗走に陥らしめた状況に於ては、第一線部隊は作戰要務令第二部第二十四に依り獨斷直ちに追撃行動に移るべきものであるが、然し師團長は此の行動を放任してはならない。即ち同第二十六に依つて追撃隊を編成して追撃に任せしめるか或は追撃中の第一線部隊に所要の命令を下して敵を急追せしめることとなるのである。此の邊の軍隊指揮は可なり難つかしいが、大體前記の如き経過を取るものである。

2、追撃目標を遠距離に取ることに就て

追撃目標は作戰要務令第二部第二十五に依り「容易ニ敵ヲ捕捉シ得ル場合ノ外勉メテ遠キ地點ニ之ヲ選定スルモノトス」となつてゐる。遠方迄敵を急追したならば敵に追付き通常大打撃を與へ得ることとなるのであるが、追撃部隊と離隔して整然と退却する部隊所謂隨意退却の部隊は追撃部隊の無暴なる突進に對しては却つて有效なる反撃を加へることあるを知らねばならぬ。即ち退却部隊が既に退却を終り次の準備を完了しある所へ、追撃部隊が既に疲労しきつてフラクとなつて到着したとしたならば、ここに勝敗は戦はずして明かであらう。此のやうな戦例は相當多いのであるから追撃だからと云つて遠距離に目標を求め、無暴に突進することは慎まねばならぬのである。

3、注意事項

イ、現況を明かにすることに就て

現在の状況を明確に認識することの注意不十分の爲、「戦闘を繼續し愛甲、小野の線に敵を壓倒殲滅せんとす」と云ふ案が少くなかつたやうに思はれる。想定を熟讀し思ひ違ひのないやうな注意を望む。

ロ、砲兵の所屬不明のものが多し

追撃隊には是非火力の主體たる砲兵を配屬することが必要である。然るに諸君中砲兵が追撃隊に屬してゐるのか、單に同行してゐるのか其の邊の不明のもの甚だ多いのは注意を要することである。

ハ、山地方面に支分せる兵力に就て

此の方面の支分兵力多きに過ぎるものが少くない。山地は小部隊の抵抗に依つても大部隊は直ちに其の行動に支障を來すものであるから、大兵力は必ず平地方面に用ひ山地は戦闘の爲の據點に利用するやう著意するの要がある。

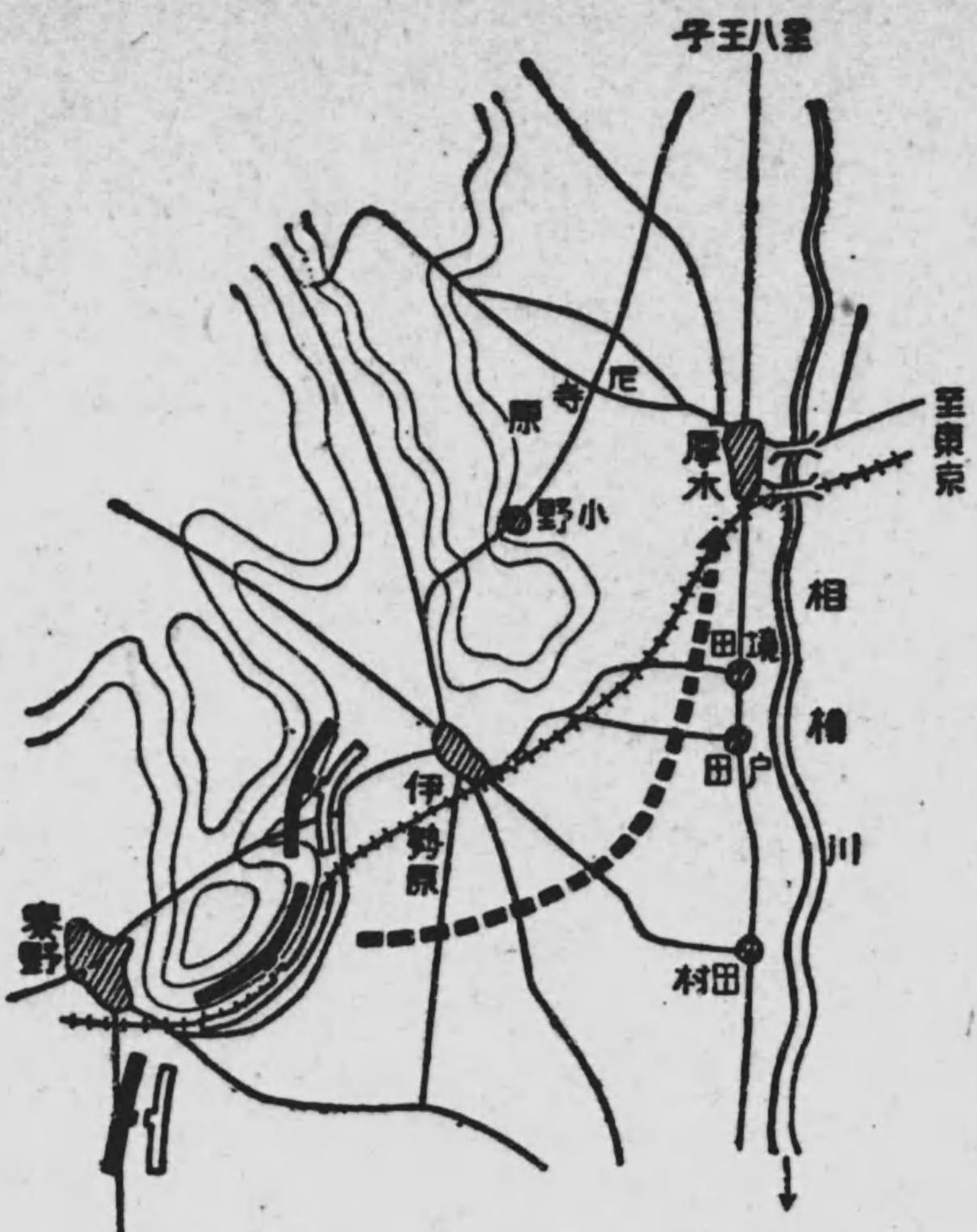
ニ、搜索隊の用法に就て

快速部隊である搜索隊の追撃に於ける任務は特に重要である。全般の地形を大觀して厚木附近から相模川左岸に移し敵の退却妨害に當らしめる考案が適當である。諸君中に本案が僅々五名であつたのは遺憾と云はねばならぬ。

第二十四問題に對する講評並に原案

一、狀況に關する觀察

1、敵の兵力は相當のものであるが、今朝來旅團の熾烈なる攻撃に依り打撃を受け夜に入るを待つて退却を開始したのであり、ここに旅團の追撃となつた譯である。
扱今より追撃となれば是非とも敵を捕捉殲滅するやう更に大努力せねばならぬが、一體如何に處置すべきであらうか。敵の逃げて行くのを後から跟随したのでは何もならない。少くも之に追付いて喰つてかからねばならぬが、然し出来れば側方から速かに敵の退路に迫り、其の退却を遮斷し否應なしに之を殲滅すれば更に上の上である。



2、彼我全般の態勢を觀るのに出題の際述べた如く、敵の攻撃正面は其の退路と直角方向に曲つて居り、退却する敵としては先づ東方に退り次に北方に方向變換せねばならぬ。此の行動は敵に取つては誠に困難なことであるが、旅團としては此の弱點を最も有効適切に捉へ敵をして兜を脱がしめるやう仕向けることが肝要である。然し果して此のやうなことが出来るであらうか。
3、此の附近一帯の地形を觀ると秦野東方高地は北方に向つて一連の山地を成し、伊勢原北方高地も亦同地より北方に互つて一帯の高地脈を成形し、此の間に伊勢原平地、東方に厚木

平地が展開されてゐる。而も其の東方は相模川の大障碍が河流してゐるのである。そこで現在地より八王子及東京方向に退却する敵は如何なる部署に依つて此等の地形を克服し旅團の追撃を阻止しつゝ退却するであらうか。之に對し我は如何なる方途に依つて敵の企圖を水泡に歸せしめ追撃の目的を達すべきであらうか。

二、考案の種類

諸君の考案は問題が單純のやうに思はれた爲か大同小異であるが、之を左の如く分類することが出来る。

第一 追撃一般の方針

- 第一案 現在の隊勢を以て概して東方に敵を追撃し戸田(厚木南方約四軒)以南相模川に壓迫撃滅せんとするもの
- 第二案 概して同様なるも特に其の左翼の追撃部隊を東北方に進出せしめ敵を厚木以南相模川に壓迫撃滅せんとするもの
- 第三案 同様にして更に之に引續き北方上依知、小澤の相模川の線に追撃せんとするもの
- 第四案 最初より上依知、小澤の相模川の線に追撃せんとするもの

第二 追撃部署

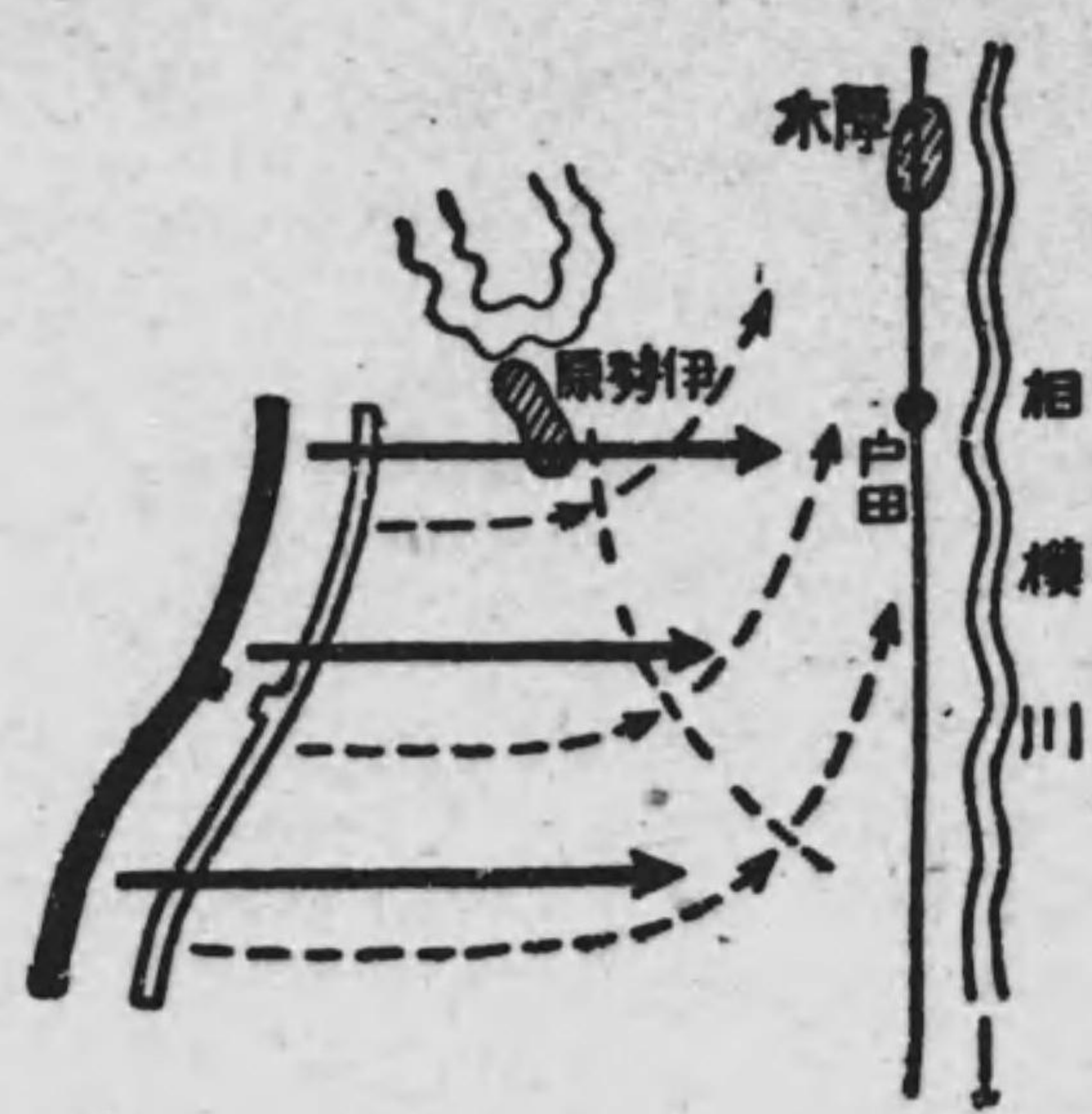
- 第一案 概して現在の部署を以て追撃せんとするもの
本案中旅團長に於て新に若干部隊を控置するものがある
- 第二案 同様なるも途中速かに重點を左方に移し追撃せんとするもの
- 第三案 最初より重點を左方に移し追撃せんとするもの

以下此等の各案に就き所見を述べやう。

三、各考案に對する所見

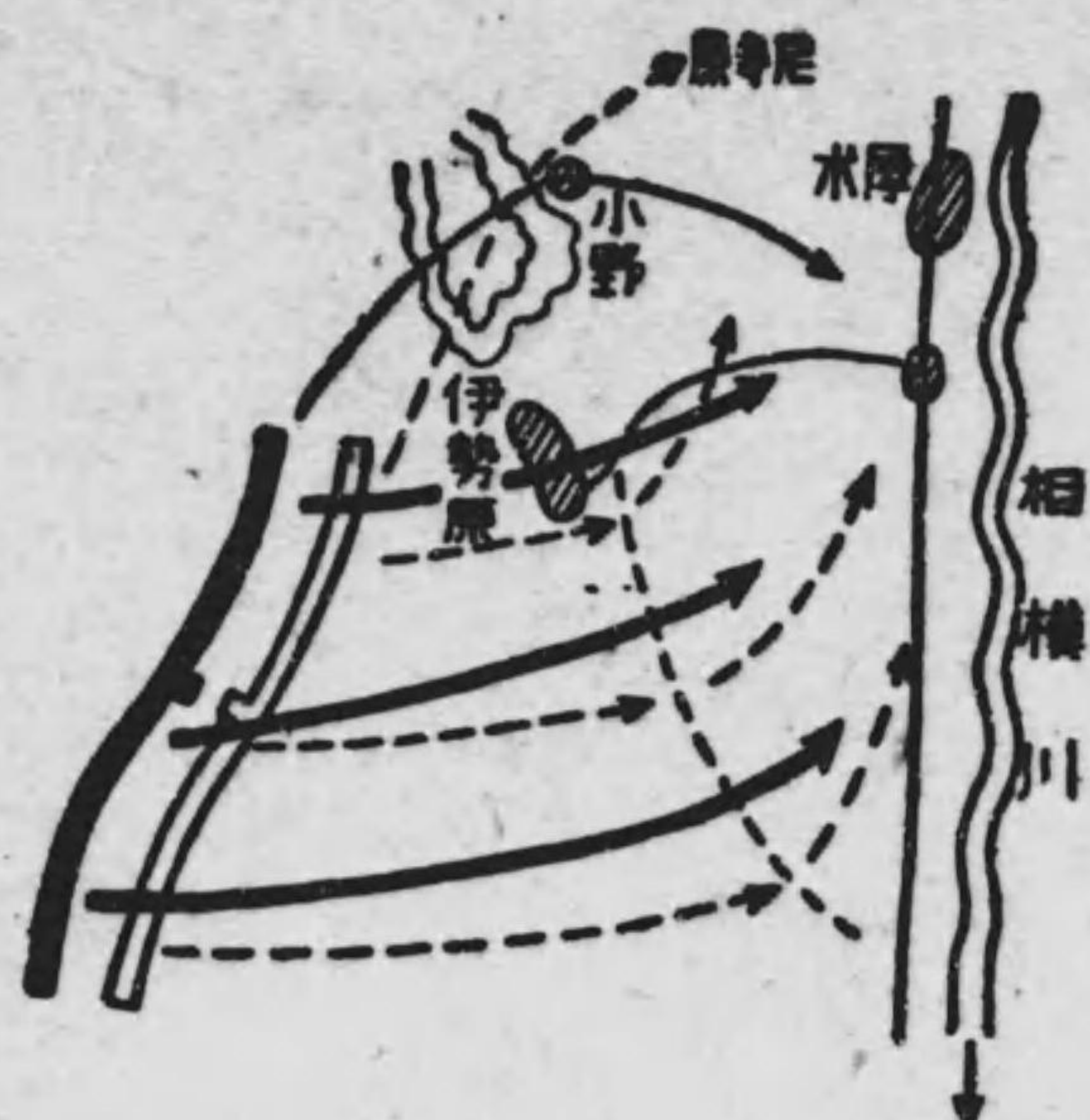
第一 追撃一般の方針に就て

第一案



現在の隊勢を以て概して東方に敵を追撃し戸田以南相模川の障碍に壓到殲滅せんとする案である。本案は追撃に移る動作最も簡単容易であり、各部隊に追撃地區を示すだけでよいのであるが、敵を後から追ひ駆ける爲特に之に喰つてかかる如く急速の歩度を取らない限り敵に打撃を與へることは難かしく、又敵にして伊勢原以東に於て北方に退路を變換するとき、我が左翼部隊が敵の先頭を餘程上手に押さへざる限り通がしてしまふ處が多分にある。此等歩度の急速及敵の先頭を押さへることは夜間而も單に敵の後を追及しただけでは實行に於て可能性が薄く結局掛け聲のみで終ることとなりはせぬか。蓋し我が左翼部隊が伊勢原北方山地以南を追撃するのでは敵縦隊の先頭を押さへることは事實に於て至難であるからである。さうすれば決心は雄大だが實行は之に伴はぬと云ふこととなるのである。

第二案



前案と概して同様であるが、特に其の左翼の追撃部隊を東北方即ち伊勢原―小野―尼寺原道方向に進出せしめ、敵を厚木以南相模川の障碍に壓迫殲滅せんとする案である。本案は旅團全般としては前案と同様に概して東方に追撃するものであるが、ただ左翼部隊が機敏に伊勢原北方山地を通過して厚木西方地區に進出し側方から退却する敵縦隊の先頭を押さへ、之に依つて敵主力の退路を遮断し之を厚木以南相模川の障碍に壓倒殲滅せんとするものである。前案に比し速かに側方から退路に迫る所に特長があり一點非難の打ち處がないのである。ただここに考へねばならぬことは左方に進出する部隊の實行性である。勿論無人の境を征くやうなことはなく途中執拗なる敵の抵抗を

豫期するのであるが極力之を打開排除して速かに厚木西方に進出すれば、ここに輝かしい榮光を求め得られるのであるから、之を單に敵の後方を尾行するに比すれば其の勞力も大であらうが確かにやり甲斐があり、従つて實行性が出來て來るのである。故に出題者の同意する所である。

第三案

前案と同様であるが之だけで満足することなく、更に引續き北方上依知、小澤の相模川の線に追撃せんとする案である。猛烈果敢なる追撃の實行から見至極尤もな考案であるが、厚木以南に於て敵に徹底的打撃を與へたとすれば、更に北方へ追撃することは單に其處迄地歩を獲得したと云ふだけで大した効果はないのである。苟も厚木以南に於て完全に敵を撃滅すべく努力せんとせば全旅團が之に全力を集中することが肝要である。然るに一方に於て此の方に努力し、一方に於て北方に追撃せんとするは所謂二兎を追ふ者一兎を得ずの譬の如く戦勝を不徹底ならしめることとなるものである。故に厚木以南に於て敵を潰滅することに全力を盡くし目的を達したならば、次に新なる部署を立てて北方に前進することとなるのが自然である。従つて本案には同意することが出來ないのである。

第四案

最初から上依知、小澤の相模川の線に目標を取り追撃せんとする案である。本案は豫想する敵の退却方向に於て追撃目標を戦術上の要線たる相模川に求めたもので、目標に到着する迄の間に於て敵に打撃を與へんとする意志であらうが、現在に於ける彼我の態勢に即應した追撃部署としては甚だ物足らないのである。即ち敵が現在の正面から北方に九十度の方向變換をする其の機會に乗せんとする著意に於て特別の考慮を運らすことなく、單に敵の後方を追及して上依知、小澤に到らんとするものであるからである。果して此の方法で敵を追撃し目標線迄進出した所で幾何の効果を獲得し得るであらうか。得る所は單に土地を領有するだけに過ぎないであらう。是追撃に於て屢々行はれる缺陷を如實に示したものと云へや。故に同意し得られないのである。

第二 追撃部署に就て

第一案

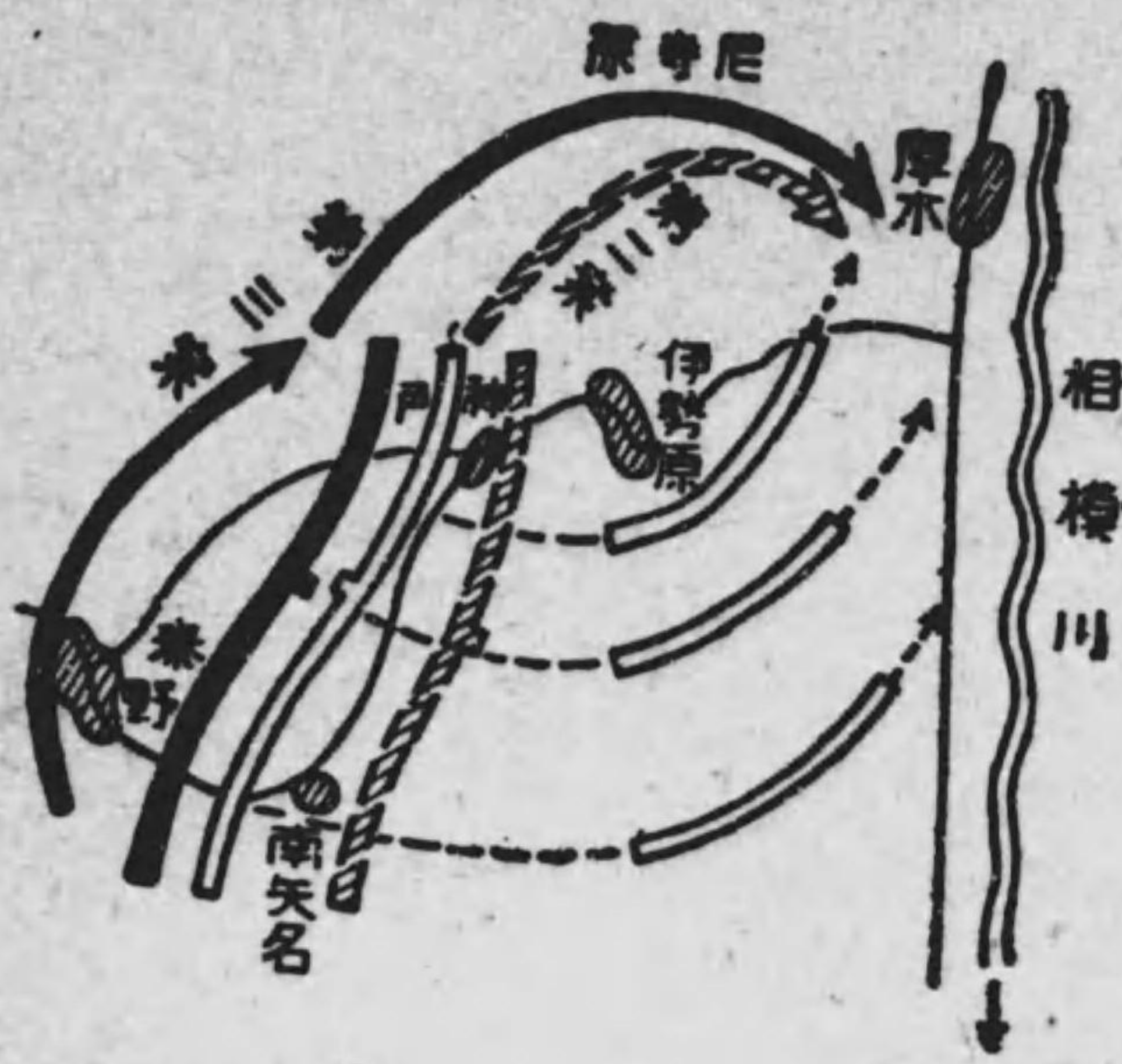
概して現在の部署を以て追撃せんとする案である。中には此の際旅團長に於て新に若干部隊を控置し直接掌握せんとするものもある。本案は部署として最も簡単であり追撃せよと號令するものに過ぎない。單に敵を東方に追撃するとか或は上依知、小澤の線に追撃するとか、と云ふ敵の後方を其の儘追及するだけならば之で結構であるが、苟も退却する敵の側方より其の先頭に出で退路遮断を實施せんとする部署としては全然成り立たないものである。故に本状況に對して適切とは云へないのである。

第二案

概して右と同案であるが途中速かに重點を左方に移し追撃せんとする案である。本案は前案の不利とする退路遮断の不實行を醫する點に於て注目し値する良案であり確かに實行性に富み状況に依つては敵に一大痛撃を與へ得るものである。即ち敵が東方より北方に方向を變へんとする時期に於て後方部隊を伊勢原附近より小野を経て尼寺原附近に進出せしめ厚木附近に於て退路を遮断せんとするものであるからである。然しながら此の北方進出部隊は敵が神戸附近を放棄し且追撃の第一線部隊が自由に神戸—南矢名道を横行し得る時期に至らなければ神戸以北に進出し得られぬから、尼寺原附近到着は可なり遅れ、従つて敵の退却が餘程遲滞したときでない限り其の目的を達することは出来ないものである。故に主旨としては賛意を表するが、尙研究の餘地があるのである。

第三案

追撃開始と同時に重點を左方に移し追撃せんとする案である。前案と異なる所は重點



を左方に移す時期が早い點である。即ち追撃の決心と共に右翼隊より成るべく多くの兵力を抽出し、秦野附近を経て善波峠若しくは其の北方山地より現在の左側支隊方面に移動せしめ、一方全線を擧げて追撃に移るものである。本案に依れば、現在の第一線が追撃に移ることは前記諸案と變りはないが、左方移動部隊は第一線の追撃に關係なく速かに左側支隊の後方に到着し引續きより伊勢原西北方地區及小野を経て尼寺原に進出し得るから、縦ひ途中で敵の抵抗があらうとも第二案に比し速かに尼寺原に到着し得ることは明白である。論者或は左側支隊の位置に到る迄多くの時間を要するならんとの説もあらうが、此の進路は既に左側支隊の通過した所であり所要の案内者を附すれば夜間と雖も容易に到達し得るものと云へやう。故に本案に依つて左側支隊方面の兵力を増強し、要すれば現在の左側支隊を其の儘對戦せしめ、新移動部隊を以て直路尼寺原に進出せしめ之より厚木附近に前進して敵の退路を遮断したならば、追撃の効果はここに百パーセントを獲得することが出来るであらう。故に本案は本状況に於ける追撃部署として適切なるものと云はざるを得ないのである。

四、原案

別紙要圖の通である。

説明

一、今朝來旅團と決戦を交へた敵は逐次東方に壓迫せられ今や夜暗を待つて退却行動に移ることとなつたのである。目下に於ける敵狀を觀察するに、敵は攻撃の重點を我が右翼金目川以南に指導してゐるやうであるが、一方我が左側支隊に對し攻勢急なるものがある。此等の狀況は畢竟敵が其の退却を順調ならしめる爲其の右翼である神戸附近の部隊を強化し同地附近を確保せしめ、之を軸として左翼、中央と云ふ順序に逐次東北方に後退し、次で北方に方向を變へんと企圖するものではあるまいか。是敵の後方には相模川の大障碍横はり其の退路は厚木を経て八王子及東京方向に在るからである。

二、旅團の追撃は此の際躊躇することなく速かに實行に移り敵に殲滅的打撃を與へねばならぬ。之が爲單に現在の隊勢から東方又は東北方に押すだけでは結局敵の後方に跟隨するに止り之に痛撃を加へることは覺束ないのである。どうしても側

方から速かに敵の退路に迫り、出来れば之を遮断して袋の鼠たらしめ、以て我が軍門に降らしむるか或は殲滅せられるかの窮境に陥らしめることが肝要である。

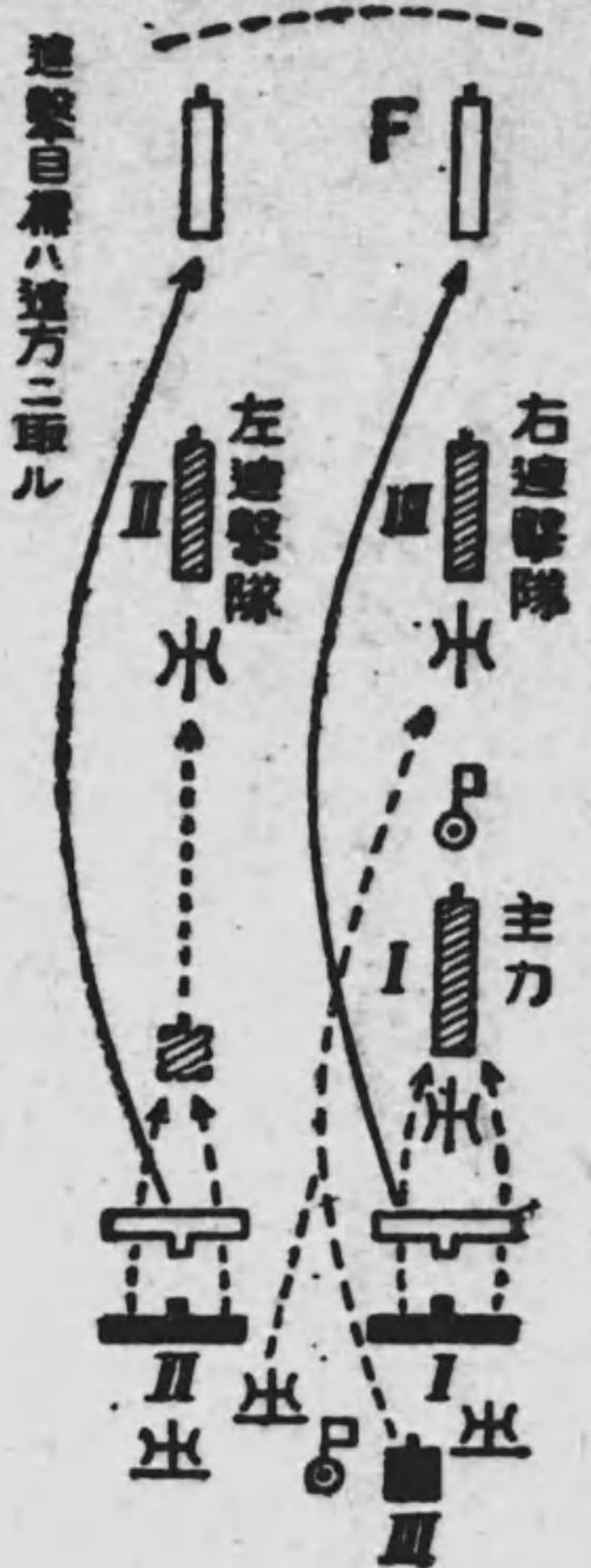
三、彼我の態勢と地形全般の状態とを觀るに敵の後方相模川は大障碍を成してゐるから、追撃軍としては是非とも敵を此の障碍に壓迫し撃滅するやう追撃部署をして之に副はしめることが必要である。

然るに敵は其の右翼部隊方面を軸とし北方に旋回して此の危局より脱逸せんとするのであるから、旅團は敵の軸とする其の右翼部隊を最も速かに破砕し捷路を経て東北方に前進し退路遮断の策に出づることが最も適切であると言へるのである。幸旅團は今朝歩兵第二聯隊第三大隊の主力を以て善波峠北方地區を経て前進せしめ、敵の右翼を攻撃してゐるのであるから、現在の右翼隊から有力なる一部隊を抽出して速かに同方面に轉進せしめ旅團の重點を同方面に保持し要すれば神戸附近の敵を破砕した後速かに伊勢原西北方地區及小野を経て尼寺原に進出せしめ、之より更に厚木附近に前進して敵の退路を遮断することは現下の状況に於て最も機宜に適した處置と云ふことが出来るのである。而して以上の轉進行動は既知の地形なる故暗夜と雖も實行の可能性十分であり、一度左側支隊の位置に到着した後の行動は全く當時の状況に依るも、伊勢原北方山地に於て敵の抵抗に會することは之を豫期せねばならぬのである。之が爲成るべく多くの兵力を必要とするが、現在に於ける右翼隊兵力の著しき減少は我に危険を及すことがあるから、其の邊適當に考慮を要すべく、又尼寺原附近到著後敵の退路遮断を的確ならしめる爲には有力なる砲兵を必要とするや明かである。以上の見地から移動兵力は歩兵聯隊長の指揮する歩兵約一大隊、聯隊砲隊及山砲兵一中隊と爲すを適當とするのである。

本狀況に於て現在の隊勢を以て全線一齊に追撃に移り途中有力なる一部隊を以て南矢名―神戸道より伊勢原西北方地區及小野を経て尼寺原に進出せしめ退路遮断に任せしめるも亦一案たるを失はないのであるが、差遣の時期本案に比し著しく遅延するから適當とは認め難いのである。

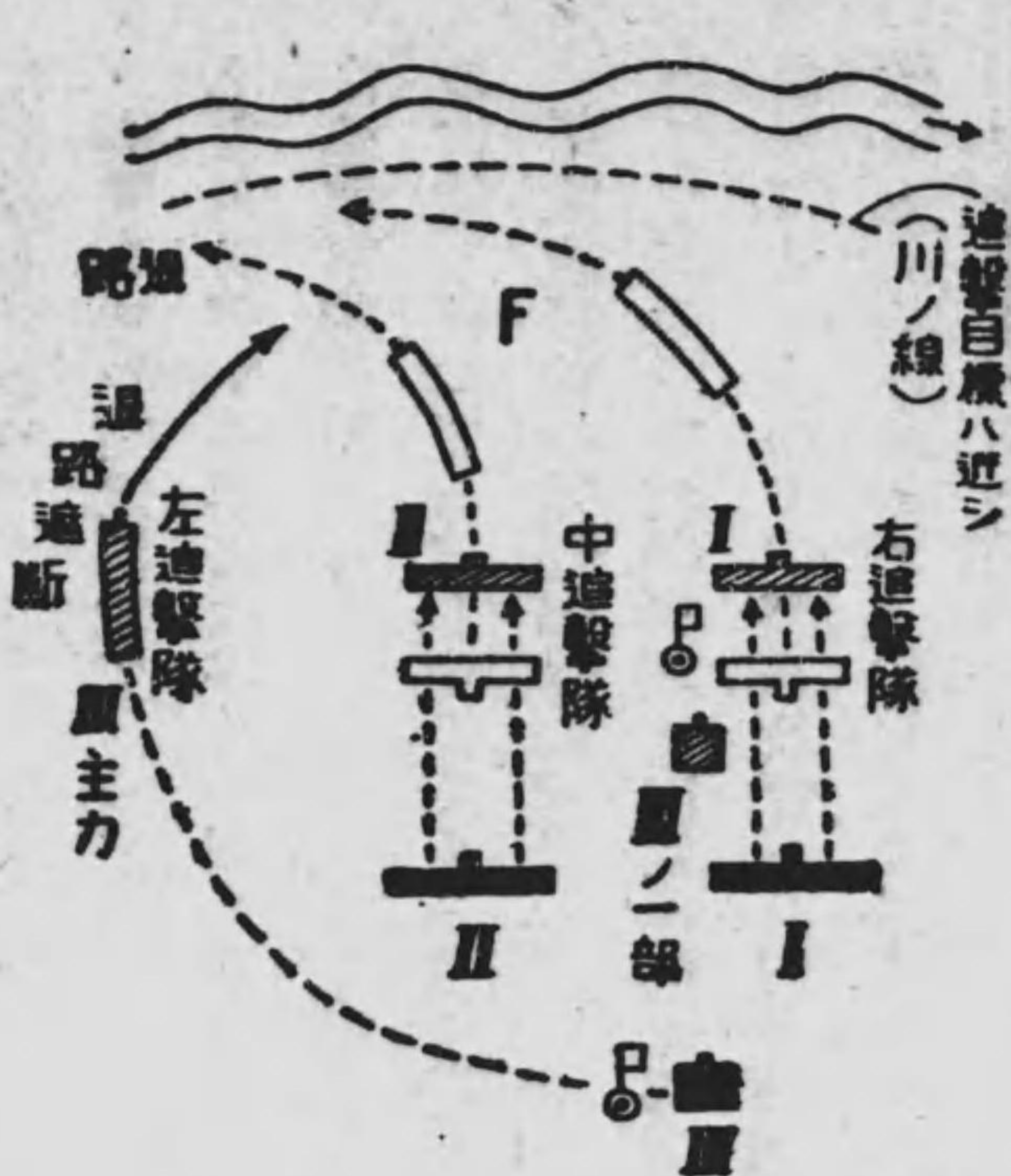
五、原則的説明並に注意事項

第一ノ方式



1、追撃指導の二方式に就て
作戦要務令第二部第二百十六に明示されてあるやうに追撃指導には二つの方式がある。第一は既に第一線部隊が追撃に移つてゐる際、師團長が比較的集結し且進出に便なる部隊を以て追撃隊を編成して追撃に任せしめ現に追撃中に在る各部隊をして秩序を整へ更に前進するの準備を爲さしめ機を失せず縦隊を区分して追撃せしめる方式であり、第二は既に追撃に移つてゐる第一線部隊に對し追撃地域を指定し且所要に應じ軍隊区分を變更し敵を急追せしめる方式である。

第二ノ方式



第一の方式は一般の状況に於て實施する方法で、概して敵の後方を跟隨して行く縦隊追撃の形式であるが、第二の方式のものは敵の退却に尾して追撃に移つた第一線を驅つて其の儘モウ一押しで敵に大打撃を與へんとする形式である。故に前者は新に任命された追撃隊が既に追撃中にある第一線部隊を追ひ越して追撃することとなり、後者は現在の第一線部隊が其の儘第一線となつて追撃するものである。此の際第一線に對し右(左)追撃隊の名稱を附し又軍隊区分を變へることがあるのである。本狀況は全然第二の方式に屬するもので、現に軍隊区分を變更し、部隊の名稱をも變へたこと既述の通である。此の方式に依る追撃はモウ一押しで効果を擧げんとするものであるから、追撃目標も近距離であり、軍隊区分も餘り變更されない

のが通常である。

2、追撃地域の指定に就て

追撃を指導する爲には多くの場合各部隊に追撃地域を明確に指定する必要がある。其の方法に二つの示し方がある。第一は追撃部隊に對し「某―某道に沿ふ地區を追撃し」と示し第二は追撃地域の境界を示す方法である。當時の状況に依り何れの方法を取つても宜しいのである。又特に此の指定を必要としない場合には勿論其の要はないのである。

3、高級指揮官の直轄部隊に就て

追撃に方つて高級指揮官は所要の直轄部隊を手裡に掌握し追撃部隊の後方に前進することが通常である。其の兵力は一に状況に依るもので、將來新なる企圖を豫期する場合には比較的大兵力を要するも、單に不時の事變に應ずる程度なれば少數で足りるのである。本状況に於ては追撃の効果を左追撃隊方面の活動に期待してゐる故少數なのである。

4、左追撃隊方面の威力に就て

本状況に於ける追撃の効果は一に左追撃隊の活動に待たねばならぬから、此の方面に多くの兵力を移動することが必要である。夜間此の移動は敵の顧慮ある場合に於ては極めて困難であるが、我が陣内即ち敵の顧慮なき場合は決して困難とは言へないのである。ここに同じ移動でも敵の顧慮有無に依つて其の難易に格段の差異あるを承知されたい。

5、注意事項

イ、方針と處置との一致に就て

諸君の多くが敵を相模川の障碍に壓倒し殲滅すると方針に明示しながら、處置を見ると全く之に副はないのが大部分である。本状況に於て敵はどうしても北方厚木に向ふであらうと判断したならば、是非之を拘束するやう處置せねばならぬ。然るに單に敵の後方を尾行して行くのでは方針と不一致と云ふべきであらう。特に注意の要がある。

ロ、追撃の爲特殊の考案に就て

諸君の中少數のものは敵を伊勢原西南方鈴川河畔に包圍殲滅せんとし或は伊勢原東南方平塚附近の海岸に壓迫殲滅せんとしてゐる。前案は敵が戰場から後退しない場合には成り立つが、状況にあるやうに退却し始めた敵に對しては不可能であらう。後案は眞に我が左翼方面の攻撃及追撃が強勢であつて敵を全然北方へ遁がさない場合に於て成り立つが、現在の状況に於ては左側支隊が却つて受動に立つてゐる位だから到底難かしいことであらう。考案は状況を基礎とし實行性のあるものでなければならぬ。注意を要するものである。

第二十五 持久ノ任務ヲ受ケタル歩兵大隊長ノ決心

想 定

- 一、秦野附近ノ戦鬪ニ勝利ヲ得タル西軍混成旅團ハ敵ヲ追撃シ九月一日十八時其ノ兩縱隊ノ歩兵先頭ヲ以テ下愛甲(厚木西南方約三軒)、小野(下愛甲西北方約二軒)ノ線ニ達シ休止ス
 - 二、此ノ時旅團長ハ信ズベキ諜者ノ言ニ依リ敵ノ有力ナル一部隊(砲ヲ有スル少クモ歩兵一聯隊、戰車ノ有無不明)ハ大山街道(東京―厚木道)ヲ西進中ニシテ本一日十二時頃多摩川ヲ通過シツツアルノ情報ニ接シ主力ヲ以テ今夜直チニ現在地出發平塚東方橋梁ヲ經テ厚木東方國分附近ニ前進シ此ノ敵ヲ攻撃スルニ決シ歩兵第二聯隊第一大隊長ノ指揮スル部隊ヲシテ旅團主力ノ轉進ヲ掩護セシム
 - 三、歩兵第二聯隊第一大隊長ハ此ノ日十九時伊勢原北端附近ニ於テ前項要旨ノ命令ヲ受領ス此ノ頃迄ニ同隊長ノ敵情其ノ他ニ就キ知ル所左ノ如シ
 - 1、前面ノ敵ハ其ノ兵力歩兵約六大隊、砲約三十門ヲ有シ秦野西方ニ於ケル敗戦ノ後一部ヲ以テ厚木附近ニ主力ヲ以テ尼寺原(厚木西北方約三軒)附近ニ退却シ目下同地附近ニ於テ部隊ヲ整頓シツツアルガ如シ
 - 2、此ノ日旅團ノ損害ハ敵ニ比シ輕少ニシテ其ノ志氣極メテ旺盛ナリ
 - 3、相模川ハ厚木以南ハ徒涉困難ナルモ其ノ以北ハ所々徒涉場アリ厚木、平塚東方、上依知ニハ夫々永久橋アリ
 - 四、歩兵第二聯隊第一大隊長ノ指揮スル部隊左ノ如ク、目下伊勢原北端附近ニ集結ス
- 歩兵第二聯隊第一大隊
聯隊砲及速射砲各一中隊

第二十五回

歩兵第二聯隊第一大隊長ノ明日ノ爲決心及處置ノ概要

說 明

本問題ハ歩兵大隊ガ如何ニシテ主力部隊ノ轉進掩護ヲ爲スベキカデアル。前面ノ敵ハ敗戦後退却セルモノデアアルガ其ノ戦力ハ然程低下シテハ居ラヌデアラウ而モ其ノ兵力ハ大隊ニ比スレバ極メテ優勢デアアル。ソコデ敵ガ我が旅團ノ轉進スルコトヲ知ツタ場合如何ナル動作ニ出ルデアラウカ又知ラナカツタラドウカ。此等ノコトヲ考ヘタトキ大隊長ハ果シテ如何ナル決心、處置ヲ以テ任務解決ニ當ルベキデアラウカ。要スルニ本研究ハ時間ノ餘裕ヲ得ントスル持久戦(作戰要務令第二部第五篇持久戦ノ部参照)ニ屬スルモノデ其ノ決心及處置ハ難カシイノデアアルガ指揮官トシテノ決心問題ノ一トシテ提供シタ次第デアアル。十分考ヘラレンコトヲ望ンデ置ク。

第二十五問題に對する講評並に原案

一、狀況に關する觀察

1、前面の敵は敗退せるもので既に旅團の追撃から離脱し整頓中であるから、ここに追撃を中止せば戦力を恢復することは明かであり、而も其の兵力は略々旅團と匹敵し大隊に比しては遙かに優勢である。

旅團は今夜暗を利用して南方平塚迄後退し之より相模川左岸に進出し更に北進して敵増加隊を奇襲せんとするものである。敵にして此の企圖を知り得たならば全力少くも有力なる一部を以て南方に突進し來り旅團の行動に一大妨害を加へるや必至のことであらう。

2、大隊が旅團の轉進掩護を命ぜられたるは實に此の危機に即應せしめんが爲である。然らば此の際大隊は如何にして任務を達成すべきであらうか。某地に陣地を占領して敵の突進を防止すべきか。或は敵の此の行動實行に先だち斷乎一撃を加へて其の企圖を水泡に歸すべきか。考案は色々あるであらうが之と地形との關係はどうか。

更に敵にして我が轉進を察知し一部を現在地に殘し主力を以て厚木附近より相模川左岸に進出するやうなことはないか。あるとしたら之に對し如何に處置すべきか。又敵にして全力を擧げて堂々と攻撃して來た場合、大隊は縦ひ精銳とは云へ劣弱な兵力を以て如何にして優勢なる敵を邀へ討つべきか。此の際の戦闘を考へたとき、大隊が廣正面に漠然と陣地占領をしてゐたら忽ち一蹴を免れ得ないであらうことを思はしめるのである。斯く見て來たならば此の際大隊の取るべき行動は誠に難かしいと云はねばならぬ。果して如何なる考案が適當であらうか。

二、考案の種類

諸君の考案は攻撃、防禦、準備陣等全く千差萬別である。然し之を大別すると概ね次の如くなる。

第一案 現在地附近に準備陣を取るもの

第二案 全力又は主力を以て攻撃せんとするもの

第三案 防禦せんとするもの

其の一 高松山及其の東南方高地線に陣地を占領せんとするもの

其の二 小野南方高地より其の東南方高地線に陣地を占領せんとするもの

其の三 前記二陣地の線に於て逐次防禦を爲さんとするもの

尙其の他に變つた案もあるが、後に紹介することとする。以下此等の諸案に就て利害其の他を研究して見やう。

三、各案に對する所見

第一案

現在地附近に準備陣を取らんとする案である。即ち大隊の主力を現在地附近に其の儘集結し置き、一部隊を小野及下愛甲方向に出して敵の動靜を搜索せしめ、敵の出様に依つて我が態度を決定せんとする案である。此の種考案は大部隊に於ては時として行はれるものであつて、暫く狀況の推移を見た上で爾後の決心を爲さんとするとき一時取られる態勢である。敵の出様が解らない現狀況に於て實際如何にせばよいか見當が付かぬとせば、此の態勢も一應尤ものやうに思はれるのであるが、敵にして我が旅團主力が南方に出發した直後小野―伊勢原道及厚木―平塚道をドシ／＼南進して來たらば大隊は如何に處置すべきであらうか。ただ部隊を集結してゐるだけではどうすることも出來ず。急に戦闘を爲さんとしても、それは恰も不期戦と同様、否、一步誤れば敵から奇襲を受けると同様の醜態を招くこととなりはせぬか。ここに大なる危険性が包藏せられるものと見るべきであらう。故に本案は狀況眞に右すべきか左すべきか今暫く狀況の推移を待つてからでなければ見當が付かぬと云ふとき、始めて取るべき態勢であつて、既に任務が明確であり敵の出様に依つて一步遅れば危機を招くと云ふ狀況に在つては適當でないことが解るであらう。故に相當考へた案ではあるが同意を表することが出來ないのである。

第二案

大隊の全力又は主力を以て主として尼寺原の敵を攻撃せんとする案である。既に敗退せる敵であるから今の中に早く一撃を加へたならば、或は之を潰亂に導き得ることも出来やうし、少くも相當の動搖を興へ明日我に向つて攻勢に出ることを不可能ならしめる利益あるものとして取つた案であらう。御説御尤もであるやうだが、果して此のやうな期待を齎し得るであらうか。大隊が今から小野を通過して尼寺原に出る迄に敵と衝突することなしと誰が言ひ得るであらう。小野北方愛名附近で敵と衝突したとき首尾よく之を突破し得たとしても、尼寺原に出た後敵情を搜索し然る後之を攻撃せんとすれば夜はそろそろ明けんとする頃ともなるであらう。一小隊以下の部隊が敵中を潜つて前進し敵主力に對して威赫的な夜襲を試みんとすることは不可能でもあるまいが、一大隊程度の部隊を以て此のやうな行動を取することは實際に於て至難と云ひ得るのである。又縦ひ拂曉頃に於て奇襲を爲し得たとしても、其の後我が兵力の寡少であることは所詮彼の知る所となるから、一時戰勢有利であつても忽ち攻守處を異にし、爾後餘程巧妙なる作戰に出でない限り逐次苦況に陥り、重要な大隊本來の任務をも放棄せざるを得なくなりはせぬか。本案の實行洵に勇壯の觀あるが、ここに大なる苦惱の伏在するを看過す譯には行かないのである。故に本案には同意し兼ねるのである。

第三案

防禦せんとするもの即ち防勢に依つて任務を達せんとする案である。前記二案にして思はしくないとしたならば本案に依らざるを得ないのである。防禦案なるもの決して好んで採るべきものではないが、状況之を必要とするならば防禦の決心亦止むを得ないと云はねばならぬ。吾人は勇猛果敢なる攻撃精神發揮の反面に於て、難境に善處して立派に任務を遂行するの智能を發揮せねばならぬことを強調したのである。

其の一 高松山及其の東南方高地線に陣地を占領せんとする案である。本案は現在敵主力のある尼寺原を前方にして左翼を高松山の要衝に托し恩曾川の谷地を隔てて敵を眼下に見下ろす形勝の陣地であつて、正面幅亦持久目的を有する大隊の兵力に概適し殊に敵にして一部を尼寺原附近に残置し主力を擧げて厚木附近から相模川左岸に移動するやうな状況に際して

は直ちに攻勢に轉じ得る等狀況全般の觀點から正に適當なる陣地線と云ひ得るのである。然しながら之が實行は果して可能であるかどうか。ここに疑問が存在するのである。追撃中にある兩縦隊の先頭が十八時下愛甲、小野の線に到達し休止したのであるから、其の北方である本陣地の地域内に敵の後衛なり陣地占領掩護隊なりがゐないとは言明し得ないのである。故に敵にして此の地に占據し在るとしたならば、時は既に夜暗でもあり之を蹴破して恩曾川河谷に進出することは決して容易のことではないのである。幸敵の存在なく大隊が豫定の陣地附近に到着し得たとしても、此の地は所謂生地であつて敵方に對し間違なく陣地を占領することは頗る困難であると云ひ得るであらう。即ち全く敵に關する顧慮ない場合に於ては先づ之を爲し得るであらうが、然らざる限り此の行動は至難の域を脱し得ないのである。翻つて尼寺原附近に退却し部隊整頓中なる敵主力の現況を判断するに、尼寺原中央[○]附近若くは同標高點北方三百米の谷地附近に於て部隊を整頓するとき、其の後衛若くは集結掩護の部隊を玉川(下愛甲、小野北側の小流)左岸の臺地線(船子、長谷、小野東北方高地の線)に配置するは當然の事であつて、此のやうな判断は戰術の一端を承知してゐるならば、縦ひ情報がなくともさう考へるのが至當なのである。果して然らば本狀況に於て本案を採るは實際上至難であると云ひ得るのである。若し夫れ大隊にして下愛甲及小野を経て前進し陣地を占領しある敵を攻撃中、戰況豫想通發展せず之を力攻せば多大の損害を思はしめ之より後退せば爾後の收拾計られざるに於ては、大隊は遂に重要な任務の遂行を放棄するに止らず潰滅の悲況に陥らんとも限らざるに至るであらう。

以上の理由に依り本案は遺憾ながら同意を表することは出来ないのである。

其の二 小野南方高地より其の東南方高地線即ち下愛甲附近より小野南方高地に互る線に陣地を占領せんとする案である。本案は前記其の一に比し後方に退つた陣地であつて陣地其のものの價値は前案より遙かに乏しいのである。殊に敵にして一部を前方玉川左岸の臺地に殘置し主力を以て厚木附近から相模川左岸に移つた場合に於て我は先づ以て當面の敵陣地を攻撃せねばならぬ厄介があるのである。然しながら旅團の追撃縦隊の先頭が既に下愛甲、小野に達してゐる現況に於ては、

それ以南の地區は明かに友軍の勢力範圍に屬し、縦ひ敵が玉川左岸の臺地に在つても確實に陣地を占領し得ることが出来るのである。之を敵の存否不明なる玉川左岸の地區に前進して陣地を占領するに比すれば、其の難易の程度は到底問題とならないのである。次に敵が旅團主力の南方後退を察知し急遽南方に向け突進を開始した場合、大隊が此の行動を阻止する爲取るべき陣地は前案も本案も共に大差はないが、陣地を確實に占領し且長時間保持する點は寧ろ本案の陣地を以て優つてゐると見るべきであらう。何となれば陣地占領に方り敵の妨害を顧慮することなく、落付いて著手し得るばかりでなく、敵主力より遠く離隔しある利があるからである。

抑、本狀況に於て大隊が任務達成上最も考慮を要するは何であらうか。言ふ迄もなく旅團の後退を知つて突進して來る敵に對し、確實に之を阻止することである。之が爲には間違なく陣地を占領し得ることが先決事項であつて、敵が他の方面に移動するに際し之を牽制するが如きは第二義的のものであらねばならぬ。此の見地に立つて前案と本案の陣地とを比較校量したならば確かに本案を以て有利であると云ふことが出来るのである。以上の理由からして本案は概して出題者の同意を表するものである。

其の三 前記二陣地の線に於て逐次防禦を爲さんとする案である。本案は考へ方に依つて種々に分れてゐる。即ち大體は其の一の陣地に於て防禦し次で其の二の陣地に移つて防禦する文字通の逐次防禦のもの、最初から兩陣地に兵力を二分して配置し逐次に防禦するもの、大隊の主力を以て其の二の陣地を占領し一部を以て其の一の陣地を占領せしめ逐次に防禦するものである。此の第三のものは一般防禦に近く概して其の二の案に似てゐるが、前二者は純然たる逐次防禦に屬するものである。此の種防禦は往々にして各個擊破の害に陥り又有爲なる敵は前方陣地に在る友軍の退却に尾して容易に第二の陣地に近接し、あつさり攻略せられる處が多いのである。殊に本狀況に於ては兩陣地共其の正面幅可なり廣いが、限界がない爲優勢なる敵に對しては迂回に依つて忽ち後退を餘儀なくせられ、逐次防禦の特長を發揮することは不可能である。故に本案は適當とは認められないのである。

四、原案

別紙要圖の通である。

說明

一、前面の敵は旅團と戰鬪の後敗退せるものであるが、既に戰鬪を離脱し隊伍を整頓中である以上、ここに更に一大打撃を加へない限り相當戰鬪力を恢復することは必然であらう。而して旅團は今や新狀勢に對處する爲前面の敵に對する處置を放棄し夜暗を利用して轉進せんとするのであるから、敵にして旅團の新行動を察知するときは直ちに之に乗じ南方に突進し來ること亦判斷するに難くないのである。然しながら我が旅團にして既に厚木東方地區に進出し新來の敵と交戦するときは、前面の敵も亦其の方面に移動することありと考へられるのである。

二、大隊の任務は必ずしも防禦を要求してゐない。然しながら攻勢に依つて解決せんとしたならば、本夜直ちに前進し尼寺原に敵主力を攻撃せねばならぬ。今之が實行を検討するに、小野東北方玉川左岸の臺地には當然敵の後衛又は掩護部隊在るものと考へられるから、大隊は先づ此の敵を蹴破して尼寺原の入口平山附近に進出し敵主力の狀況を確めた後攻撃に著手せねばならぬこととなる。此等の行動は其の實施決して容易であるとは言はれず、可なりの努力と時間とを要するや言を俟たないのである。故に最も順調に經過したものととして明拂曉頃敵主力を攻撃し得る位であつて、此の場合に於ても間もなく天明となる結果は、縦ひ相當の成功を見ても忽ち兵力の寡弱を看破せられ、爾後の行動に多大の危殆を招くや明かである。況んや攻撃の遅延する狀況に於てをやである。然し此の際に於ける大隊の犠牲が旅團主力の行動に重大なる好影響を齎すとせば敢て不可ではないが、本狀況に於ては之が爲却つて旅團の背後連絡線を敵に蹂躪せられ旅團の生存を危険ならしめること大であるから適當とは認められないのである。

然らば暫く現在の態勢を繼續的的確なる敵情を得て決心するとしたならば如何。敵にして依然現在地に停止し或は更に後退するに於ては何等支障を來さないものであるが、旅團の移動を察知し直ちに南方に突進し來らんか、何等準備なくして之

を邀撃することは兵力の懸隔上忽ち一蹴の悲況に陥る虞ありと云はねばならぬ。

以上の論旨は結局に於て攻勢及現状繼續案の適當ならざるを示すものであつて、此の際大隊はどうしても地形を利用し敵の突進を防止するの策に出でざるを得ないのである。但し敵にして他に轉進の状況を發見するに於ては機を失せず陣地を棄てて突進し之を牽制するの要あるや勿論である。

三、現在地附近に於て敵の南進を防止する目的を以て全般の地形を観察するに、高松山を左翼の據點とする恩曾川南方臺地の線は尼寺原に對し陣地として各種の利益を有し申分のないものであるが、敵の存在を否定し得ない未知の地形に進入し夜間陣地を占領せんとすることは至難であつて、其の實行性は極めて薄弱である。故に旅團の安危を一手に引受けんとする大隊現下の状況に對しては遺憾ながら不適當であると斷ぜざるを得ないのである。

之に反し玉川南方下愛甲より赤坂を経て岡津古久附近に互る線は、陣地其のものゝの價値に於て前者に比し劣つて居り、殊に敵の移動に對し直ちに之を牽制すること不十分なのであるが、大隊の最も重視せねばならぬ敵の突進に對する防止力に至つては前者と大差ないばかりでなく、其の陣地は我が勢力範圍に在る爲殆ど敵に關する顧慮なくして陣地を占領し得べく、而も此處に到る距離僅少なる故、夜間と雖も其の行動然程難事でなく、其の實行性に至つては殆ど問題とならないのである。

故に大隊は下愛甲より岡津古久に互る玉川右岸臺地に防禦陣地を占領し敵の前進を阻止するを以て適當とするのである。尙此の際敵にして一部を以て厚木―岡田―平塚道を南下するに於ては機を失せず一部を以て敵の側面に對し攻勢を企圖するが、敵が其の優勢を發揮し且眞面目なる攻撃を實施するに方つては適時前岡津古久を中心とする圓形の陣地に立籠る(專守防禦)ことあるを考慮し置くの必要があるのである。

五、原則的説明並に注意事項

1、持久戦の方法に就て

持久戦に就ては作戰要務令第二部第五篇に示されてあるが、以下若干説明して置かう。

持久戦は決戦を目的とせず時間の餘裕を得んとするとき又は敵を牽制抑留せんとするとき行ふ戦闘である。多くは優勢なる敵に對して術策を要するのであるから難かしく、一般に守勢に立つのであるが必要に應じ攻勢を取ることがあり時として全滅を覺悟せねばならぬこともある。

本狀況に於て輕擧に攻勢を取れば忽ち兵力の劣弱を看破せられて失敗を招く虞多く、單に玉川右岸臺地に北面して陣地占領するだけでは、時として敵は同川左岸の臺地の一部を置いて大隊を牽制し、有力なる部隊を以て竊かに相模川右岸厚木―岡田―戸田道を南下して直接旅團主力の轉進を妨害することあるを考へて置かねばならぬ。即ち此の方面に對しては搜索隊と連絡して狀況を明かにすると共に此のやうな企圖があるならば聯隊砲を以て射撃し狀況に應じ歩兵部隊を以て敵の側面を攻撃するやう部署せねばならぬのである。

2、廣正面防禦に就て

大隊の採つた防禦陣地は正面實に三軒に達し一大隊の兵力に對しては過廣である。狀況上此の正面を占領せねばならぬから止むを得ずかうなつたもので廣正面防禦に屬するものである。故に敵の急激なる突進に對しては之を抗拒し得るのであるが、優勢なる兵力を展開し眞面目なる攻撃に對しては十分之を阻止することは困難である。従つて此のやうな狀況に際しては適時其の兵力を陣地の左翼山地方面に纏め同地を最後迄確保し優勢なる敵を牽制するの策に出るやう考慮して置かねばならぬのである。廣正面防禦は此のやうな狀況に於て發生するものであることを承知されたい。

3、準備陣に就て

本研究第一案に就て尙少しく申して置く。準備陣と云ふのは所謂高等統帥に於て用ひられる一種の準備姿勢であつて、小部隊に在つて次の行動を準備する爲部隊を一地に集結するものと似てゐるのであるが、用兵上の要求から來たもので其の主旨を異にしてゐる。小部隊が此のやうな姿勢を濫りに取るときは本狀況に於て研究したやうに敵に機先を制せられるこ

とが多いから十分注意せねばならぬ。

4、注意事項

イ、想定を熟讀することに就て

狀況に於て示した旅團長の企圖は現在の態勢から南方に後退し平塚(現在は平塚市)に出で其の東方相模川の橋梁を渡り爾後概して同川に沿ひ左岸を北進して國分附近に前進せんとするものである。然るに諸君中旅團は小田原急行電鐵線に沿ひ厚木東方に進出するものと思ひ込んで作業してゐるものが相當數あるのは了解に苦しむ所である。かかる設想の下に厚木中學校附近或は林村附近に陣地を占領し又は攻撃動作に出でたのは全く研究の價値がないのである。十分注意されたい。

ロ、明朝陣地を占領せんとする案に就て

此のやうな考案は戦機と云ふことを考へないものである。夜暗は軍隊に取つては大いに利用すべき時期である。休養も必要だが戰術的要求は絶対に輕視してはならない。本狀況に於ては明朝迄に陣地占領を終つてゐることが是非必要な要求であつて、時間の空費は意外な失敗の基であることを銘記されたい。

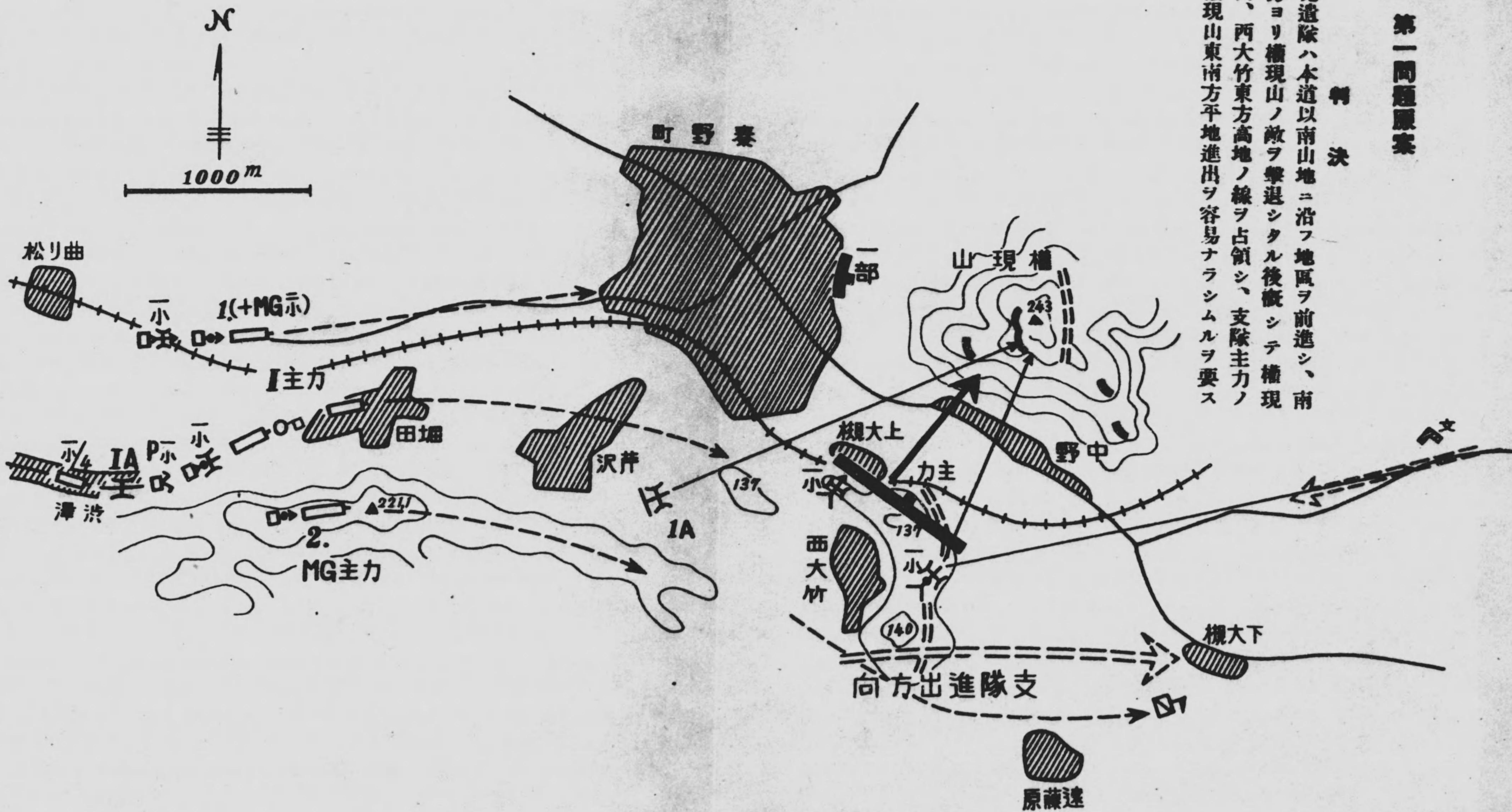
先遣隊ノ狀況判斷要圖

(十一月一日一十時於ケル)

第一問題原案

解決

先遣隊ハ本道以南山地ニ沿フ地區ヲ前進シ、南方ヨリ權現山ノ敵ヲ擊退シタル後概シテ權現山、西大竹東方高地ノ線ヲ占領シ、支隊主力ノ權現山東南方平地進出ヲ容易ナラシムルヲ要ス



二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



第一區圖

此圖係根據... 繪製... 比例尺... 說明...

第一區圖



第一區圖
比例尺

圖要ク基ニ心決ノ長隊支爲ノ撃攻

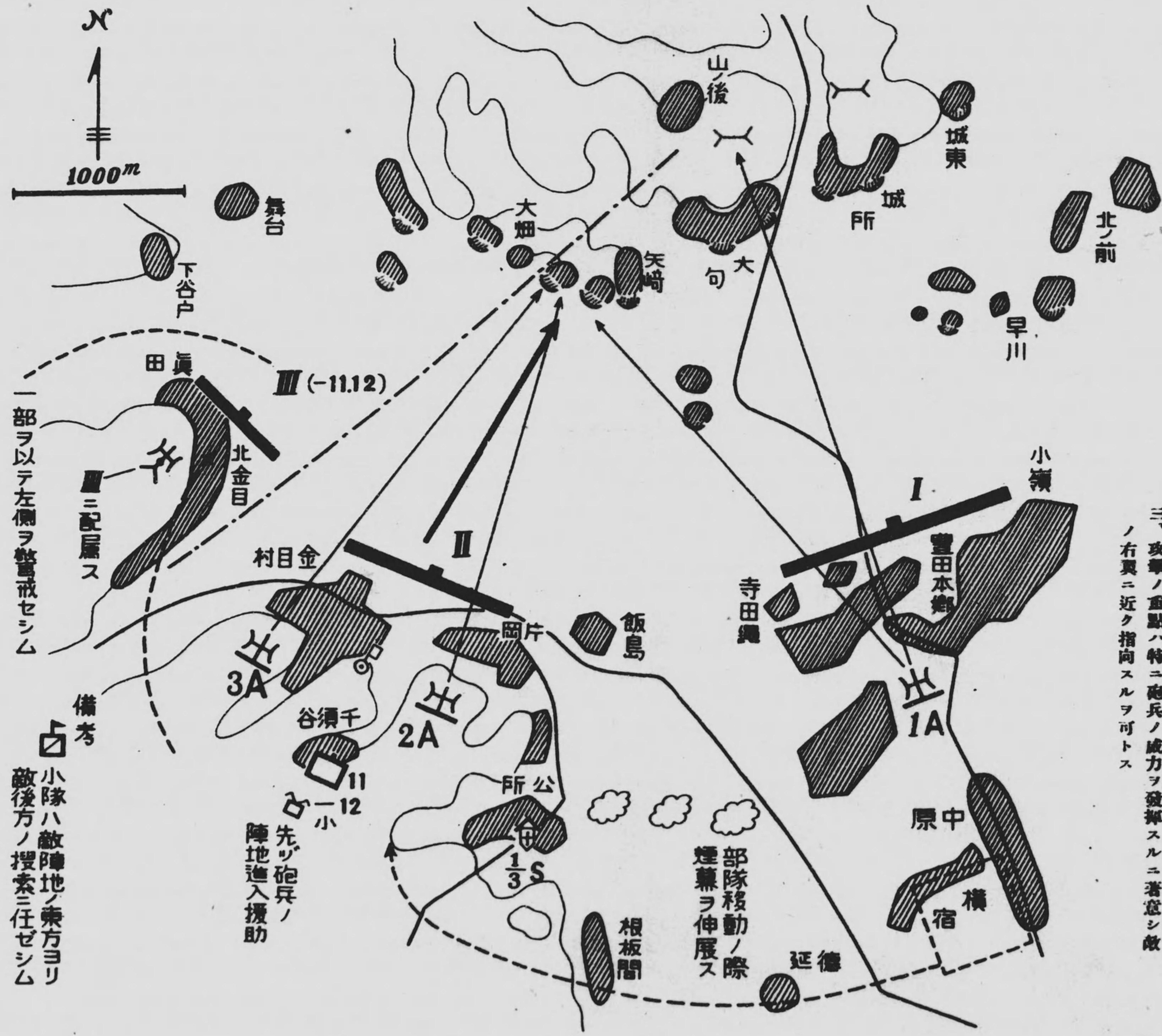
(ルケ於ニ半時五十日一月二十)

第二問題原案

決心

支隊ハ今ヨリ直チニ小嶺、寺田、片岡、金目村、眞田ノ線ニ展開シ前面ノ敵ヲ攻撃セんとス
 攻撃ノ重點ハ金目村ヨリ大畑ニ指向ス

- 理由ノ骨子
- 一、前面ノ敵ハ増加隊ノ到着ニ先ダチ之ヲ撃破スルヲ要ス
 - 二、支隊ハ既ニ得タル情報ニ依リ兵力及時間ノ關係上直チニ攻撃ヲ開始シ本日中ニ成果ヲ求ムルコトヲ得
 - 三、攻撃ノ重點ハ特ニ砲兵ノ威力ヲ發揮スルニ著意シ敵ノ右翼ニ近ク指向スルヲ可トス



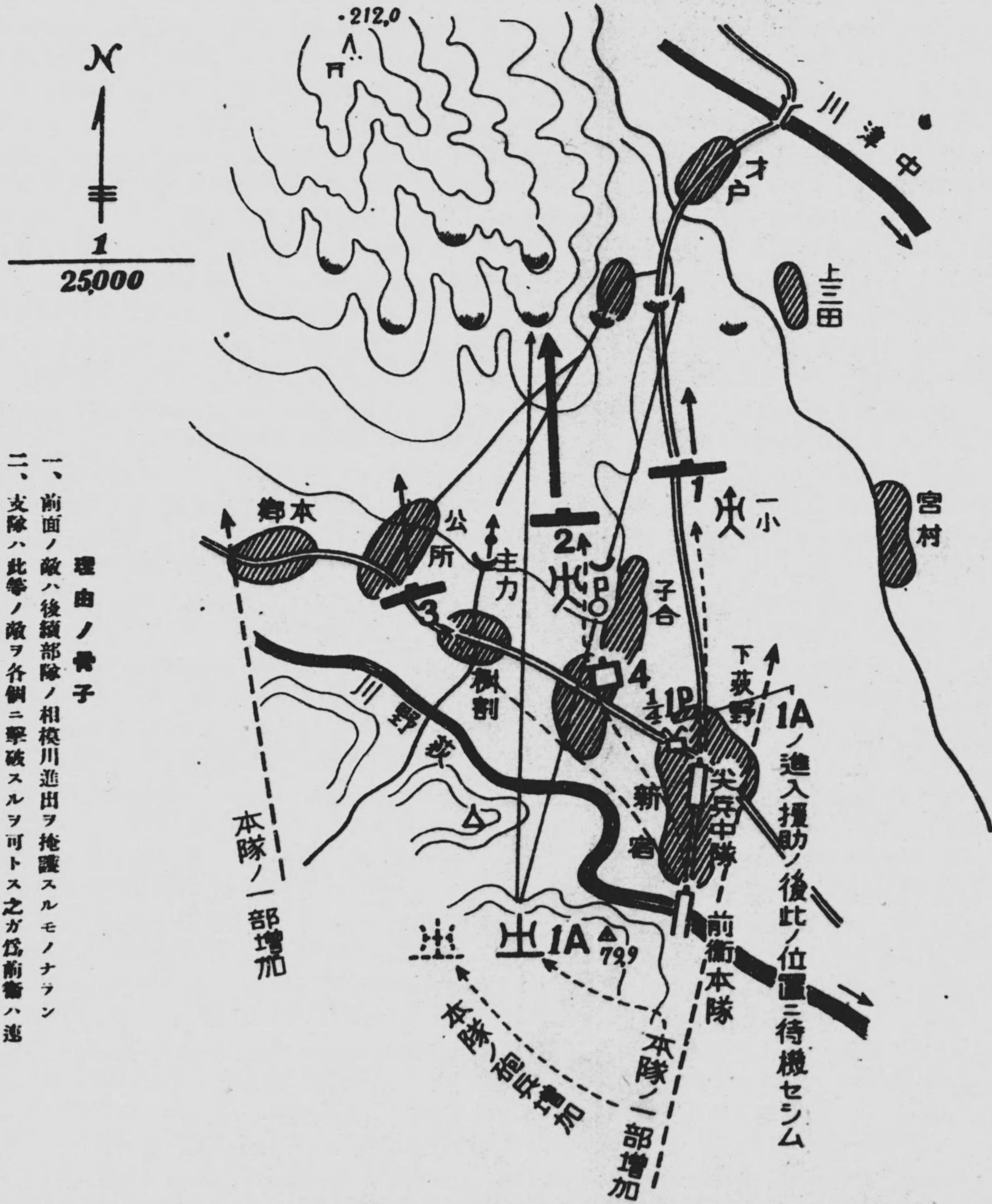
一部ヲ以テ左側ヲ警戒セシム

備考
 小隊ハ敵陣地ノ東方ヨリ敵後方ノ搜索ニ任ゼシム

先ヅ砲兵ノ陣地進入援助

圖要心決官令司衛前隊縱左近附平

(ルケ於ニ時九日一月三)



- 理由ノ骨子
- 一、前面ノ敵ハ後續部隊ノ相模川進出ヲ掩護スルモノナラン
 - 二、支隊ハ此等ノ敵ヲ各個ニ擊破スルヲ可トス之ガ爲前衛ハ速カニ前面ノ敵ヲ擊攘シ中津川左岸ニ據點ヲ占ムルヲ要ス
 - 三、前面ノ敵ヲ攻撃スルニハ速カニ成果ヲ求ムル爲逐次展開ニ依リ本道方面ニ重點ヲ指向スルヲ可トス

第三問題原案

決心

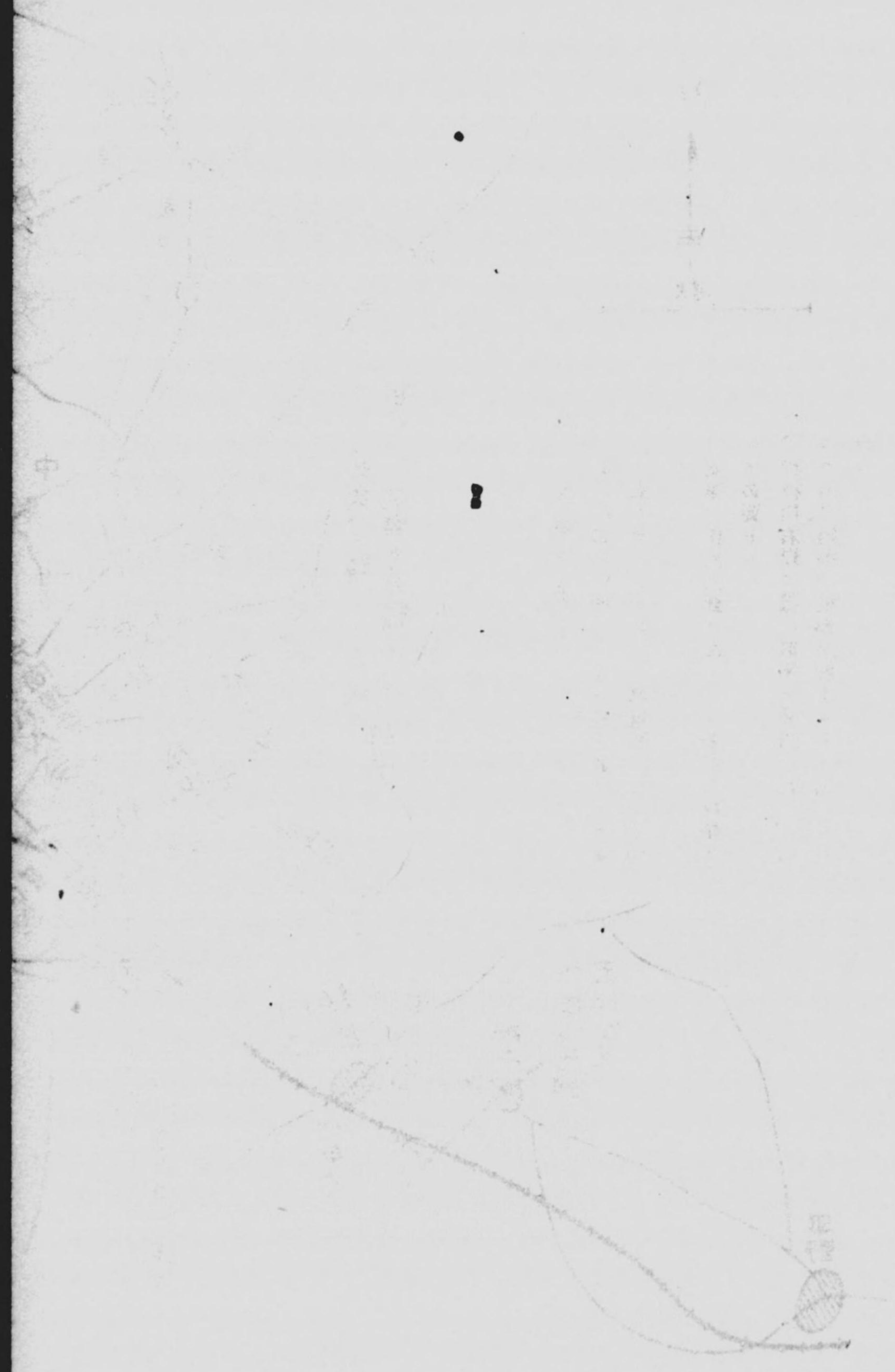
前衛ハ獨力ヲ以テ速カニ前面ノ敵ヲ擊攘シテ中津川左岸裏地ニ進出セントス之ガ爲逐次展開ノ要領ニ依リ重點ヲ本道方面ニ保持シ速カニ攻撃ス

處置

要圖所載ノ外支隊長及右縱隊長ニ決心ヲ報告及通報ス

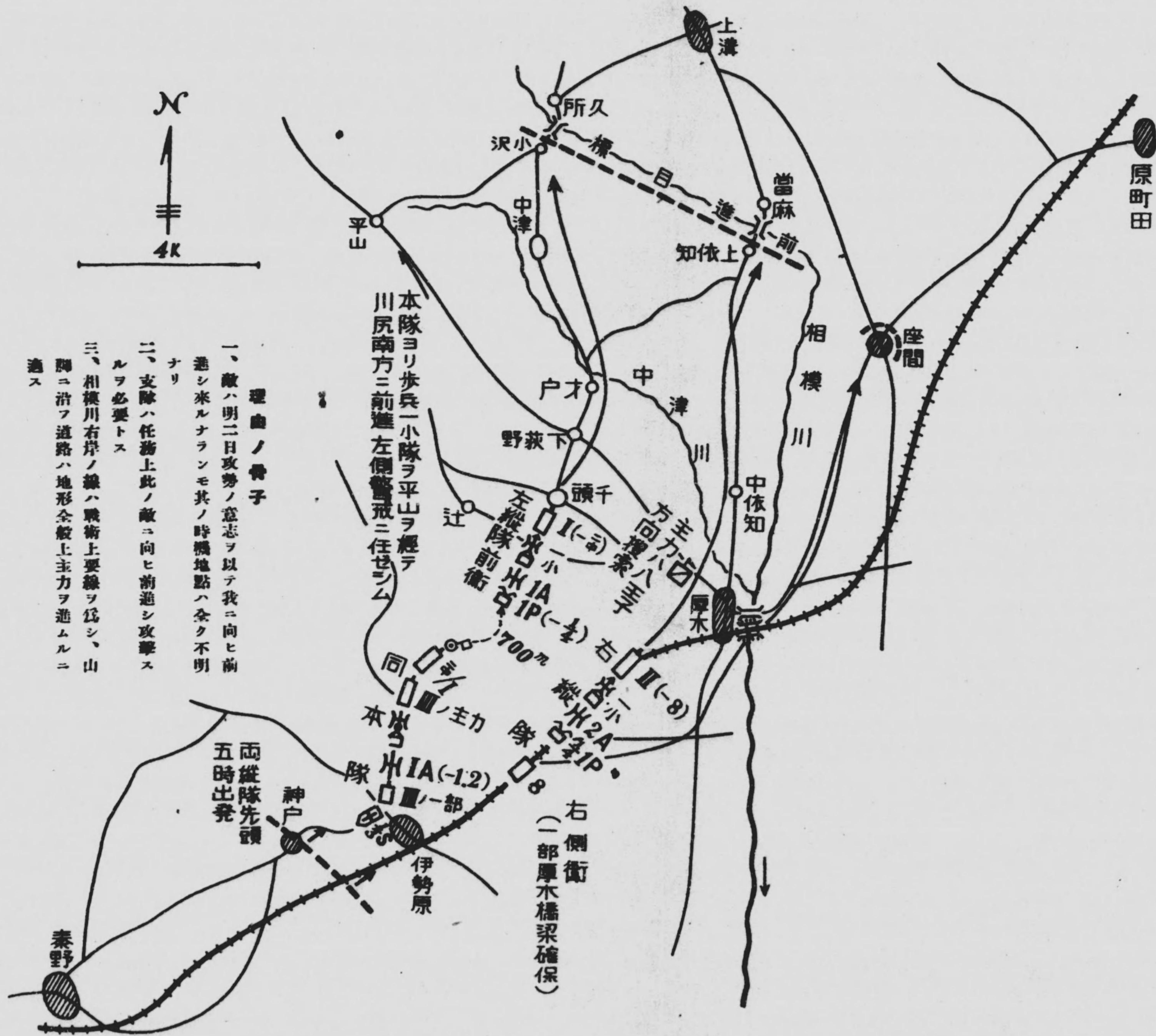
河内國地圖
此圖係根據舊圖繪成，其間山川、城郭、聚落、道路、以及地形、物產、風俗、習慣、等項，均經詳加考證，務求盡善盡美，以資參考。其間有誤，尚祈鑒察。

河内國地圖



支隊長ノ決心及處置要圖

(明一月二日ノ爲)



第四問題原案

決心

支隊ハ明二日早朝出發、攻撃ノ目的ヲ以テ二縱隊トナリ主力ヲ以テ伊勢原——千頭——小澤道ヲ、一部ヲ以テ伊勢原——厚木——上依知道ヲ上依知、小澤ノ線ニ向ヒ前進セントス

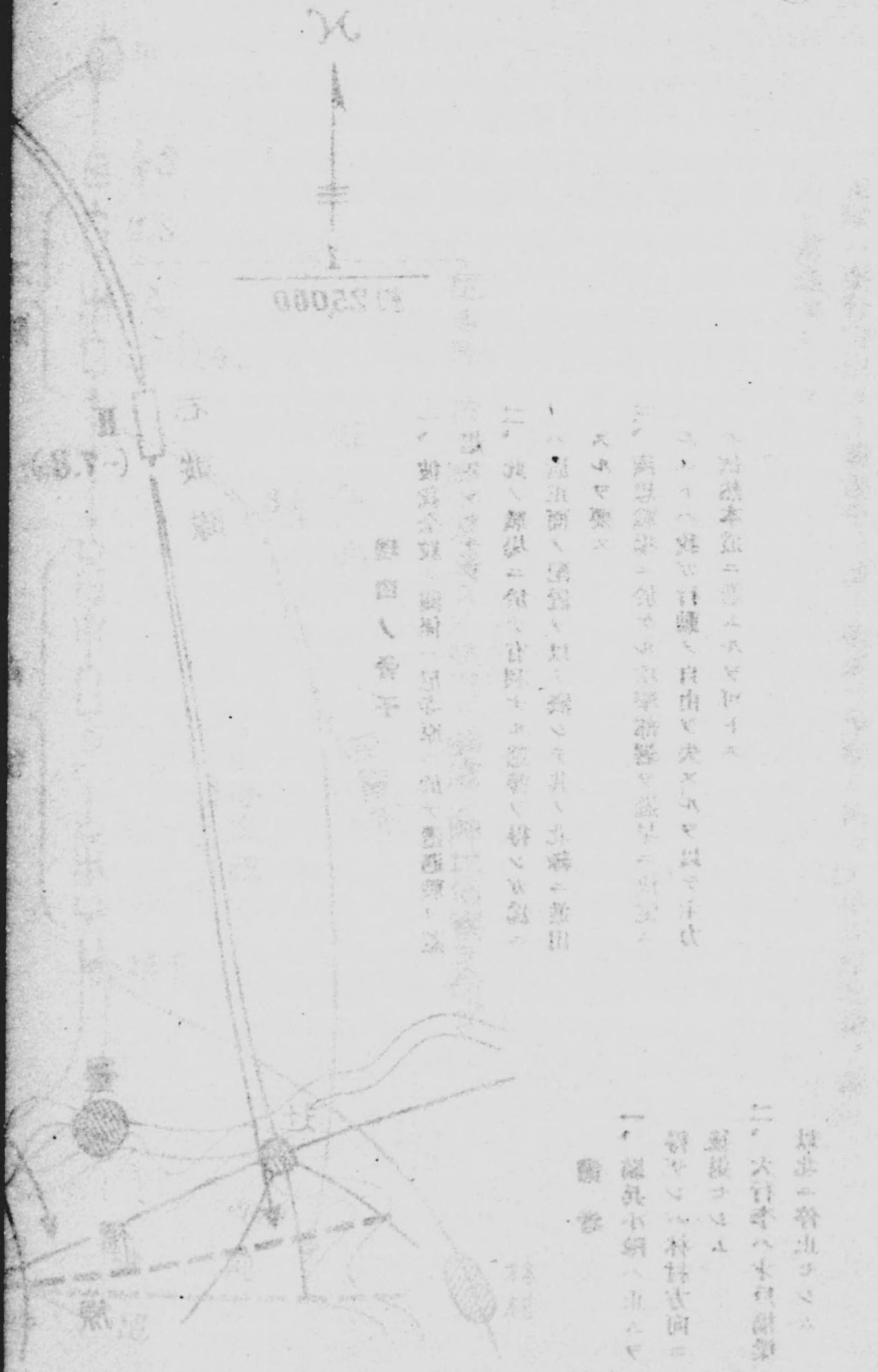
- 理由ノ骨子
- 一、敵ハ明二日攻勢ノ意志ヲ以テ我ニ向ヒ前進シ來ルナランモ其ノ時機地點ハ全ク不明ナリ
 - 二、支隊ハ任務上此ノ敵ニ向ヒ前進シ攻撃スルヲ必要トス
 - 三、相模川右岸ノ線ハ戰術上重要線ヲ爲シ、山脚ニ沿フ道路ハ地形全般上主力ヲ進ムルニ適ス

兩縱隊先頭
五時出發

右側衛
(一部厚木橋梁確保)

本隊ヨリ歩兵一小隊ヲ平山ヲ經テ川尻南方ニ前進左側警戒ニ任セシム

左隊 小隊 1A (-1.2) 700m
右隊 小隊 2A 3A 4A 5A 6A 7A 8A
主力 隊 8 (一部厚木橋梁確保)

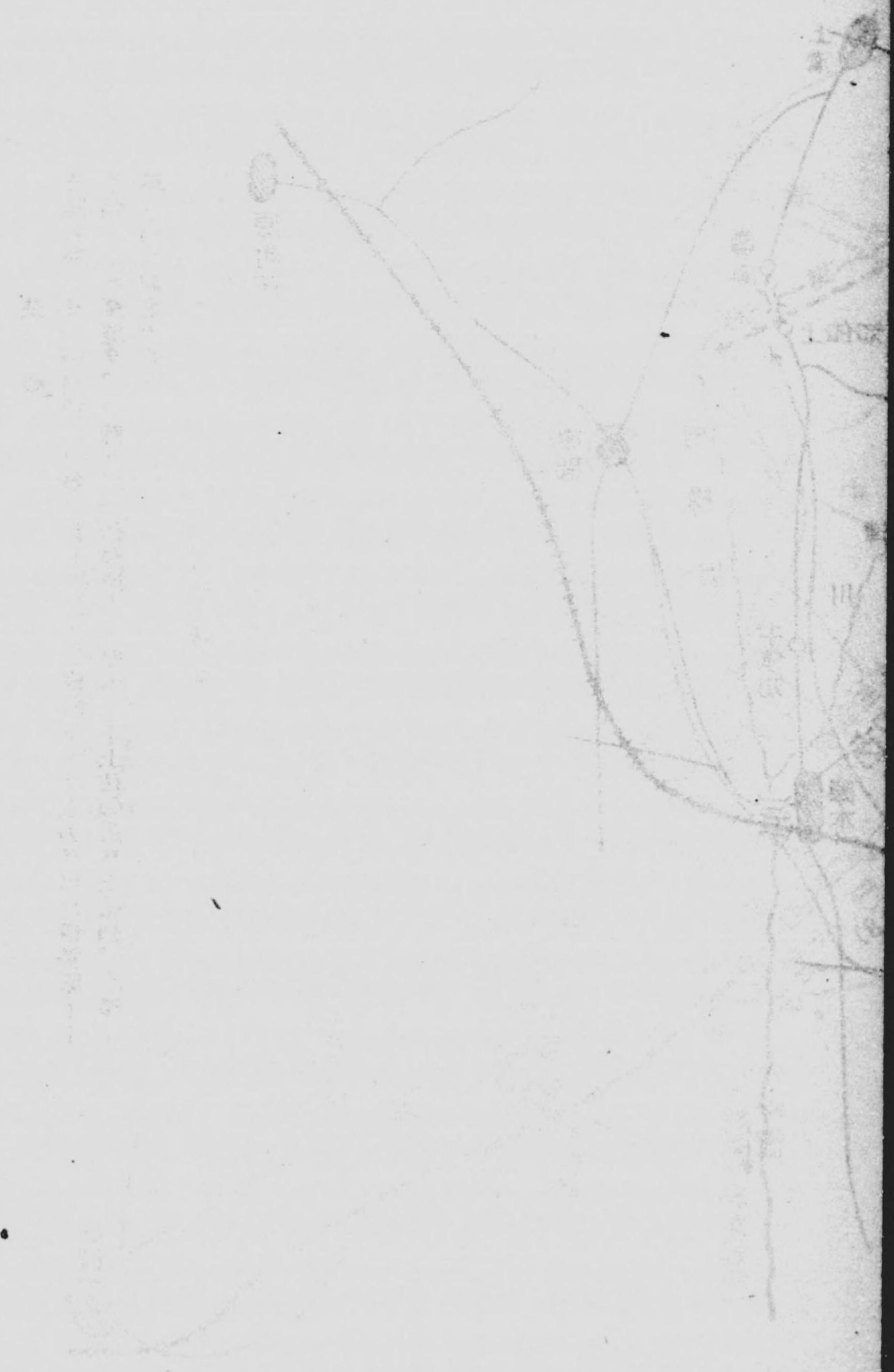


第五回遊覽

一、本道本館ニ於テモヤリ
 二、本道本館ニ於テモヤリ
 三、本道本館ニ於テモヤリ
 四、本道本館ニ於テモヤリ
 五、本道本館ニ於テモヤリ
 六、本道本館ニ於テモヤリ
 七、本道本館ニ於テモヤリ
 八、本道本館ニ於テモヤリ
 九、本道本館ニ於テモヤリ
 十、本道本館ニ於テモヤリ

一、本道本館ニ於テモヤリ
 二、本道本館ニ於テモヤリ
 三、本道本館ニ於テモヤリ
 四、本道本館ニ於テモヤリ
 五、本道本館ニ於テモヤリ
 六、本道本館ニ於テモヤリ
 七、本道本館ニ於テモヤリ
 八、本道本館ニ於テモヤリ
 九、本道本館ニ於テモヤリ
 十、本道本館ニ於テモヤリ

第六回遊覽



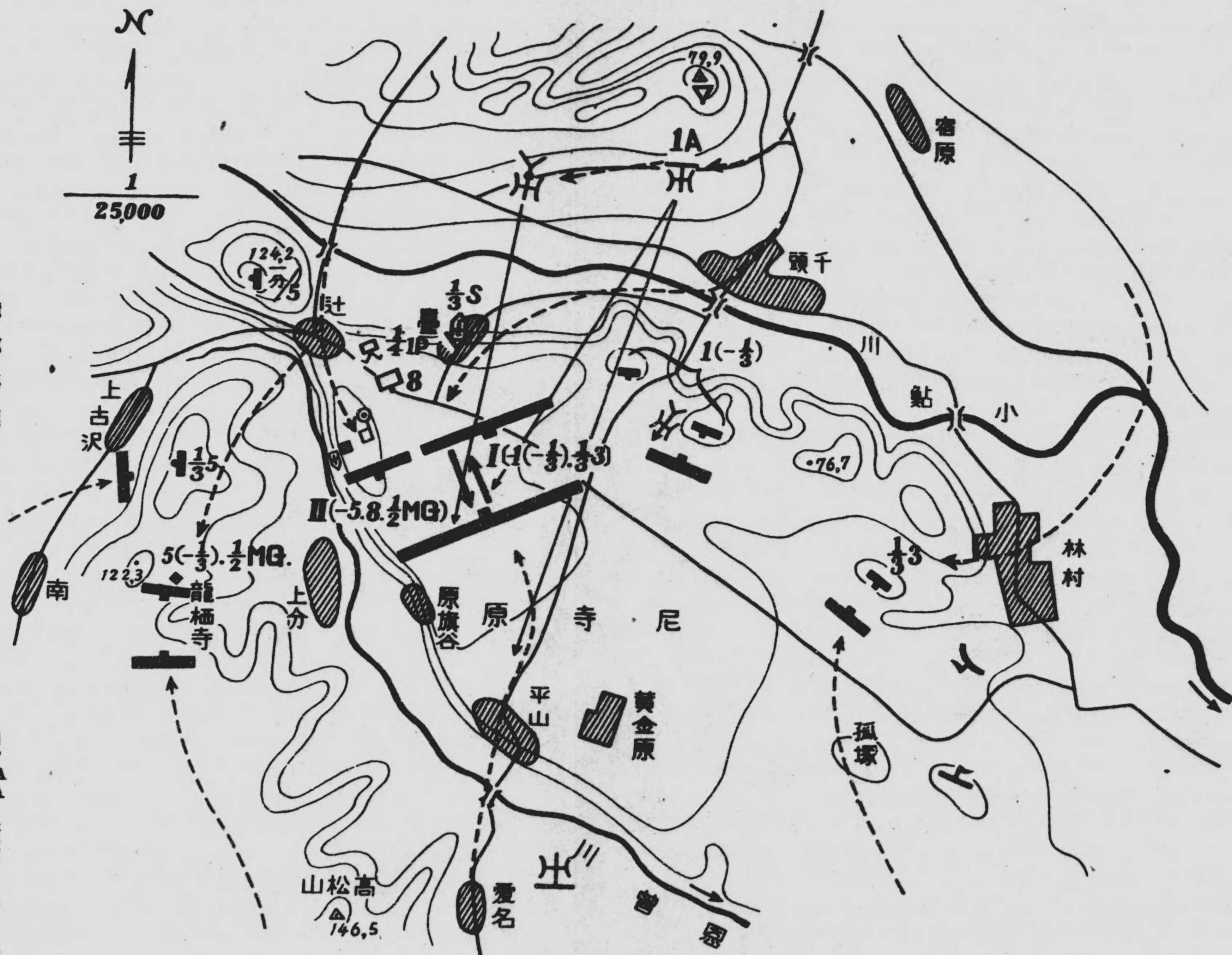
圖要開展擊攻隊支D軍北原寺尼

(ルケ於二頃時二十日一月四)

第六回題原案

方針

支隊ハ速カニ一部ヲ以テ龍柄寺附近ノ高地ヲ確保スルト共ニ重點ヲ臺ヨリ平山方向ニ指導スル
如ク病院高地ヨリ其ノ東北方ノ稜線ニ逐次展開シ前面ノ敵ヲ攻撃ス



指導要領

- 一、前衛 一部ヲ以テ千頭西南高地確保、主力ヲ以テ臺南方高地占領
- 二、右縦隊 一部ヲ以テ龍柄寺高地占領、主力ヲ以テ病院高地占領
- 三、其ノ他ノ主力 臺南方稜線ニ逐次展開シ、戦間ニ參與ス
- 四、RiA TA A等要圖ノ如シ但シPハ先ヅRiA及Aノ陣地進入ヲ援助ス
- 五、TAハ速カニ尼寺原ニ現出スル敵ノ戦車ヲ撃滅ス

地圖要圖

第 1 頁



比例尺
1:5000

說明
一、本圖係根據地形測量資料繪製，其比例尺為 1:5000。
二、本圖之等高線係以 5 公尺為間距繪製，其最高點為 100 公尺。
三、本圖之河流係根據地形測量資料繪製，其流向為由北向南。
四、本圖之建築物係根據地形測量資料繪製，其位置與形狀均與實際相符。

地形測量資料

地形測量資料

說明
一、本圖係根據地形測量資料繪製，其比例尺為 1:5000。
二、本圖之等高線係以 5 公尺為間距繪製，其最高點為 100 公尺。
三、本圖之河流係根據地形測量資料繪製，其流向為由北向南。
四、本圖之建築物係根據地形測量資料繪製，其位置與形狀均與實際相符。

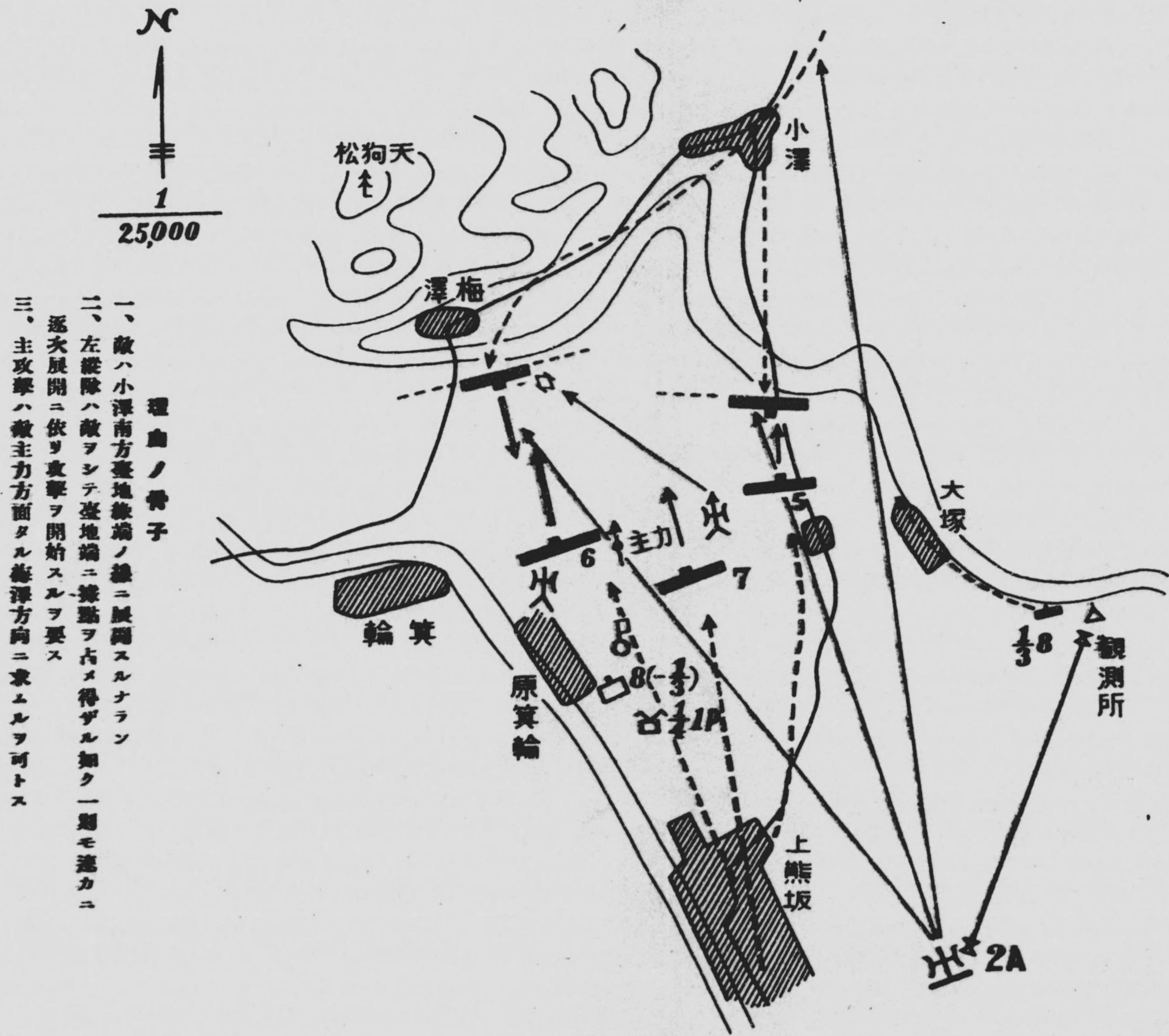


地形測量資料

第 1 頁

左縦隊ノ決心及處置要圖

(三月一日十時於ル)



- 理由ノ骨子
- 一、敵ハ小澤南方臺地線端ノ線ニ展開スルナラン
 - 二、左縦隊ハ敵ヲシテ臺地端ニ據點ヲ占メ得ザル如ク一則モ速カニ逐次展開ニ依リ攻撃ヲ開始スルヲ要ス
 - 三、主攻隊ハ敵主力方面タル梅澤方向ニ求ムルヲ可トス

第七問題原案

決心

左縦隊ハ小澤南方臺地ニ現出スル敵ニ對シ速カニ逐次展開ニ依リ攻撃セントス
決戦方面ハ上熊坂ヨリ梅澤ニ向フ方面トス



此圖は、大坂城の防禦地圖を示す。城の構造、丸の配置、及び周囲の地形を詳細に描き出している。城の中心には本丸があり、その周囲には二重丸、三重丸が設けられている。また、大津、大船などの重要な施設も示されている。

大坂城の防禦地圖

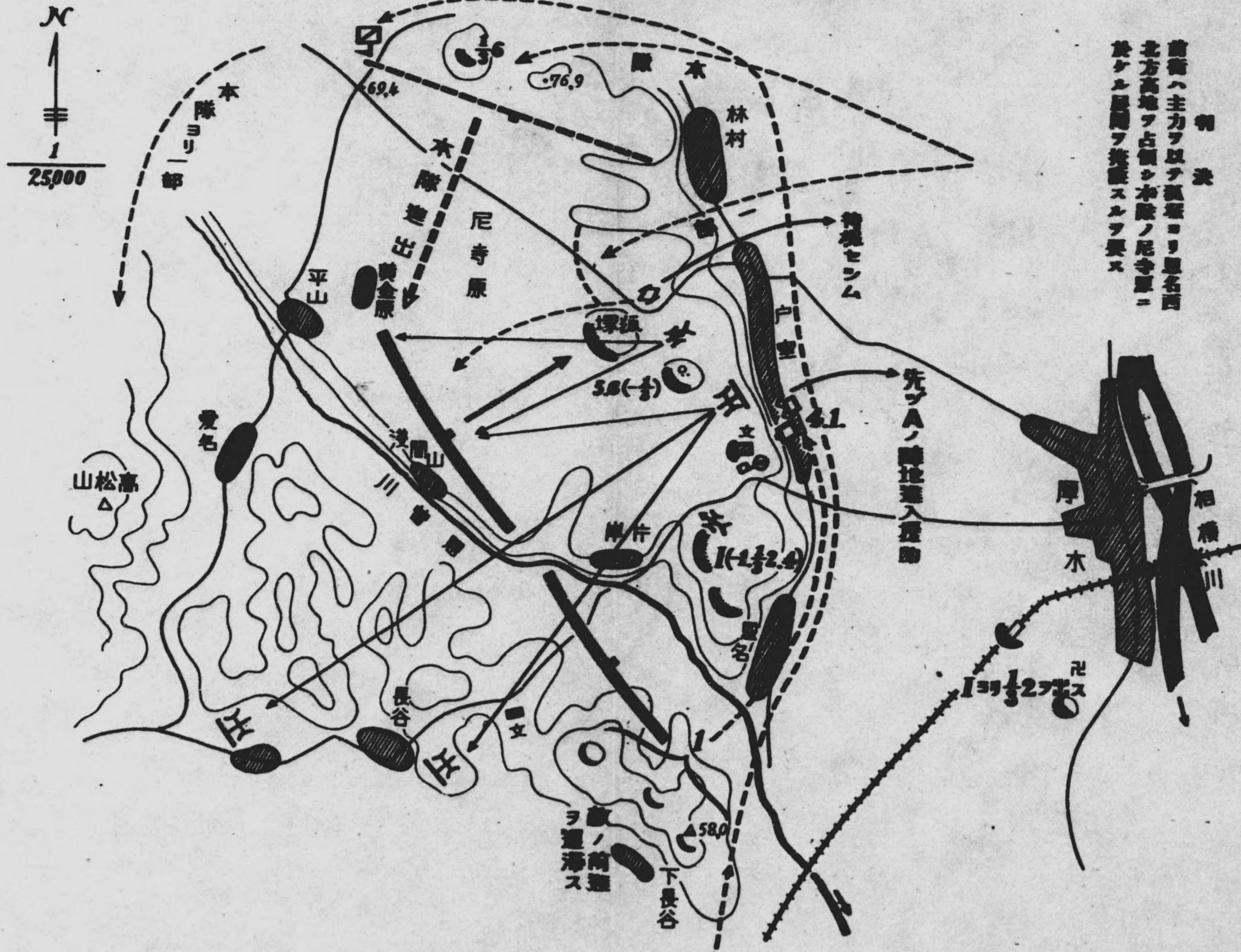


此圖は、大坂城の防禦地圖を示す。城の構造、丸の配置、及び周囲の地形を詳細に描き出している。城の中心には本丸があり、その周囲には二重丸、三重丸が設けられている。また、大津、大船などの重要な施設も示されている。

大坂城の防禦地圖

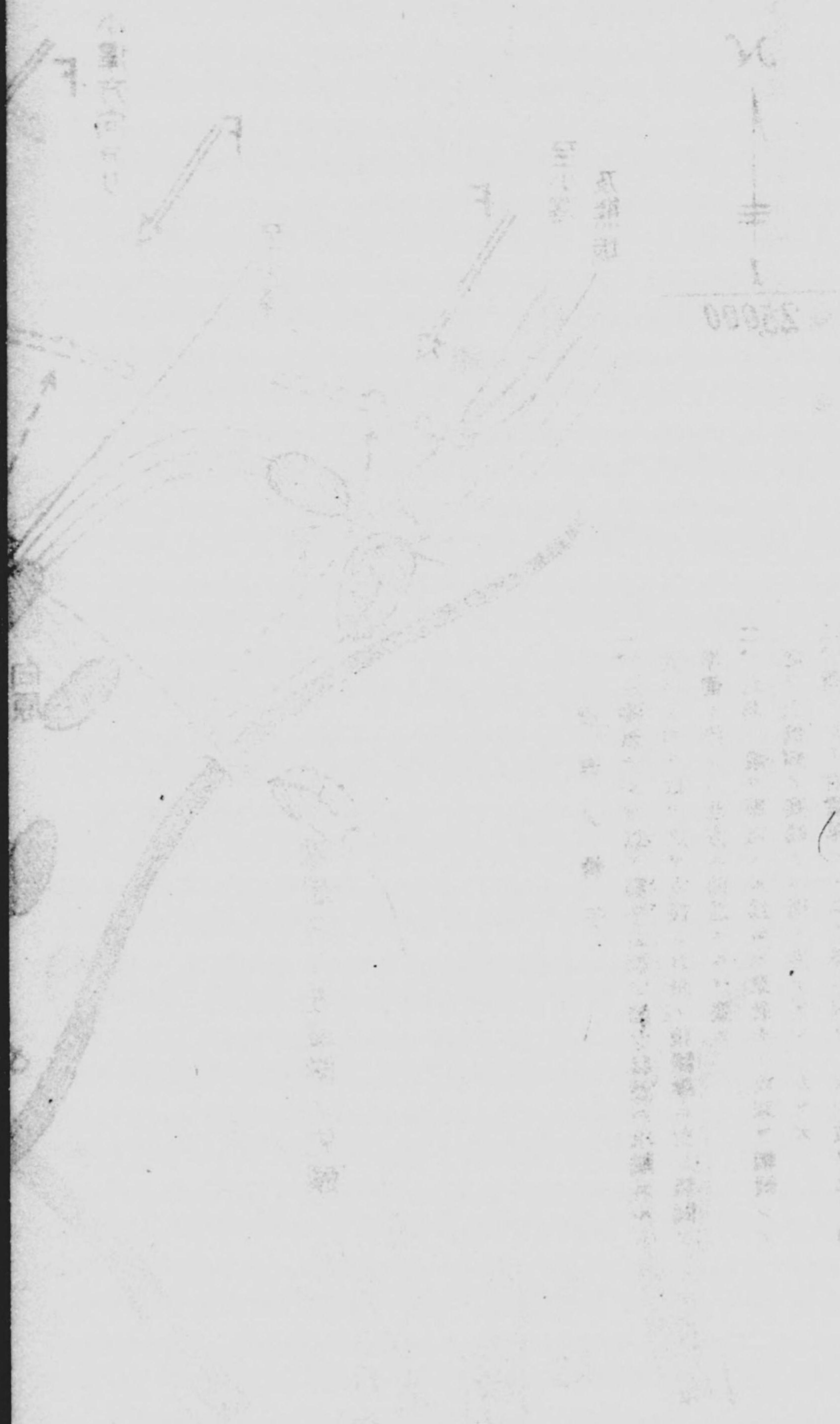
前衛隊展開掩護要圖

(五月二十日午後時於ル)



第八回原案

前衛隊ハ主力ヲ以テ孤軍ヨリ原野西
北方高地ヲ占領シ本隊ノ尼寺原ニ
於テル尾陣ヲ掩護スルヲ要ス

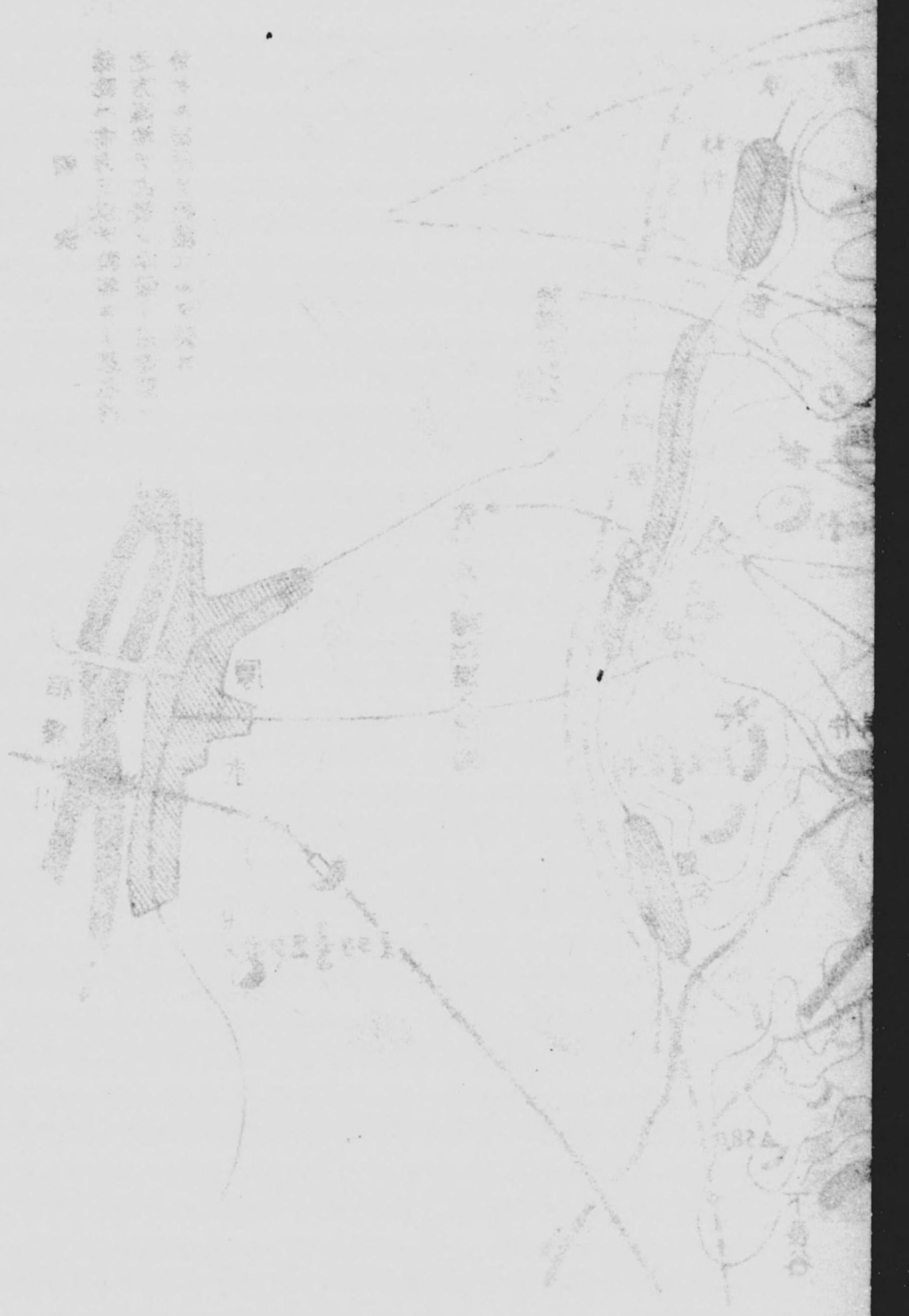


第九回 共済会
 本回は、共済会の組織と、その活動の中心地である、
 共済会本部の所在地、及びその周辺の交通網を、
 詳細に調査し、その結果を、この地図に、
 反映させた。この地図は、共済会の活動範囲を、
 明確に示すとともに、その周辺の交通網を、
 詳細に調査し、その結果を、この地図に、
 反映させた。この地図は、共済会の活動範囲を、
 明確に示すとともに、その周辺の交通網を、
 詳細に調査し、その結果を、この地図に、
 反映させた。

第九回 共済会

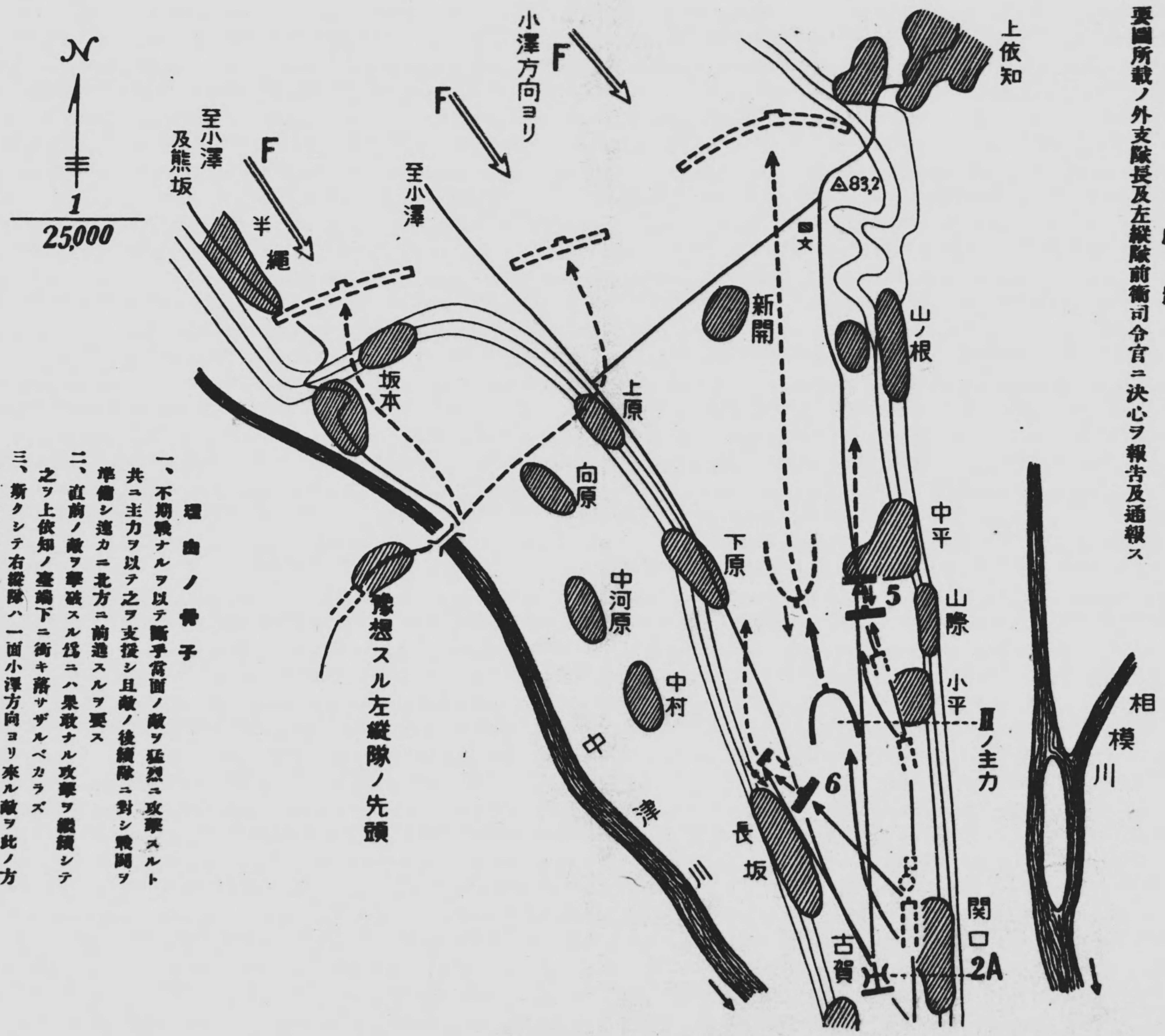
1:25000

第九回 共済会



第九回 共済会
 本回は、共済会の組織と、その活動の中心地である、
 共済会本部の所在地、及びその周辺の交通網を、
 詳細に調査し、その結果を、この地図に、
 反映させた。この地図は、共済会の活動範囲を、
 明確に示すとともに、その周辺の交通網を、
 詳細に調査し、その結果を、この地図に、
 反映させた。

圖要心決ノ長隊縦右ルケ於ニ時十



決心
 右縦隊ハ直チニ尖兵中隊及右縦隊本隊ノ先頭中隊ヲ以テ夫々中平及長坂ノ敵ヲ攻撃セシムルト共ニ本隊ノ主力ハ
 近ク敵ト遭遇ヲ豫期シ本道西方地區ヲ横廣ノ隊形ヲ以テ北進シ、敵ヲ攻撃シテ速カニ上依知西南臺地端附近ニ進
 出セントス

第九問題原案

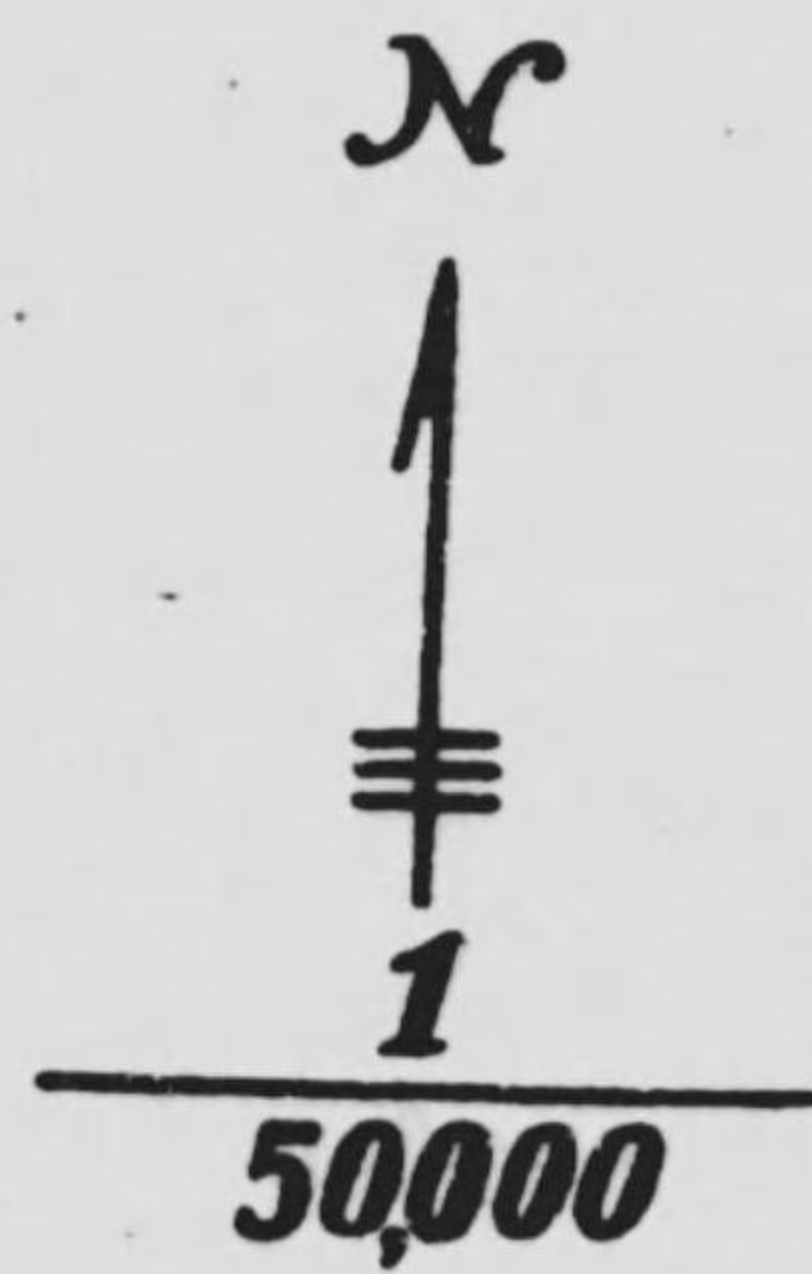
要圖所載ノ外支隊長及左縦隊前衛司令官ニ決心ヲ報告及通報ス

- 理由ノ骨子
- 一、不期戦ナルヲ以テ斷乎富面ノ敵ヲ猛烈ニ攻撃スルト
 共ニ主力ヲ以テ之ヲ支援シ且敵ノ後縦隊ニ對シ戦闘ヲ
 準備シ速カニ北方ニ前進スルヲ要ス
 - 二、直前ノ敵ヲ擊破スル爲ニハ果敢ナル攻撃ヲ繼續シテ
 之ヲ上依知ノ臺端下ニ衝キ落サザルベカラズ
 - 三、斯クシテ右縦隊ハ一面小澤方向ヨリ來ル敵ヲ此ノ方
 面ニ牽制シ支隊ノ主力タル左縦隊ヲ上原及坂本北方地
 區ニ進出セシメ有利ナル戰鬥ヲ爲サシムルヲ可トス

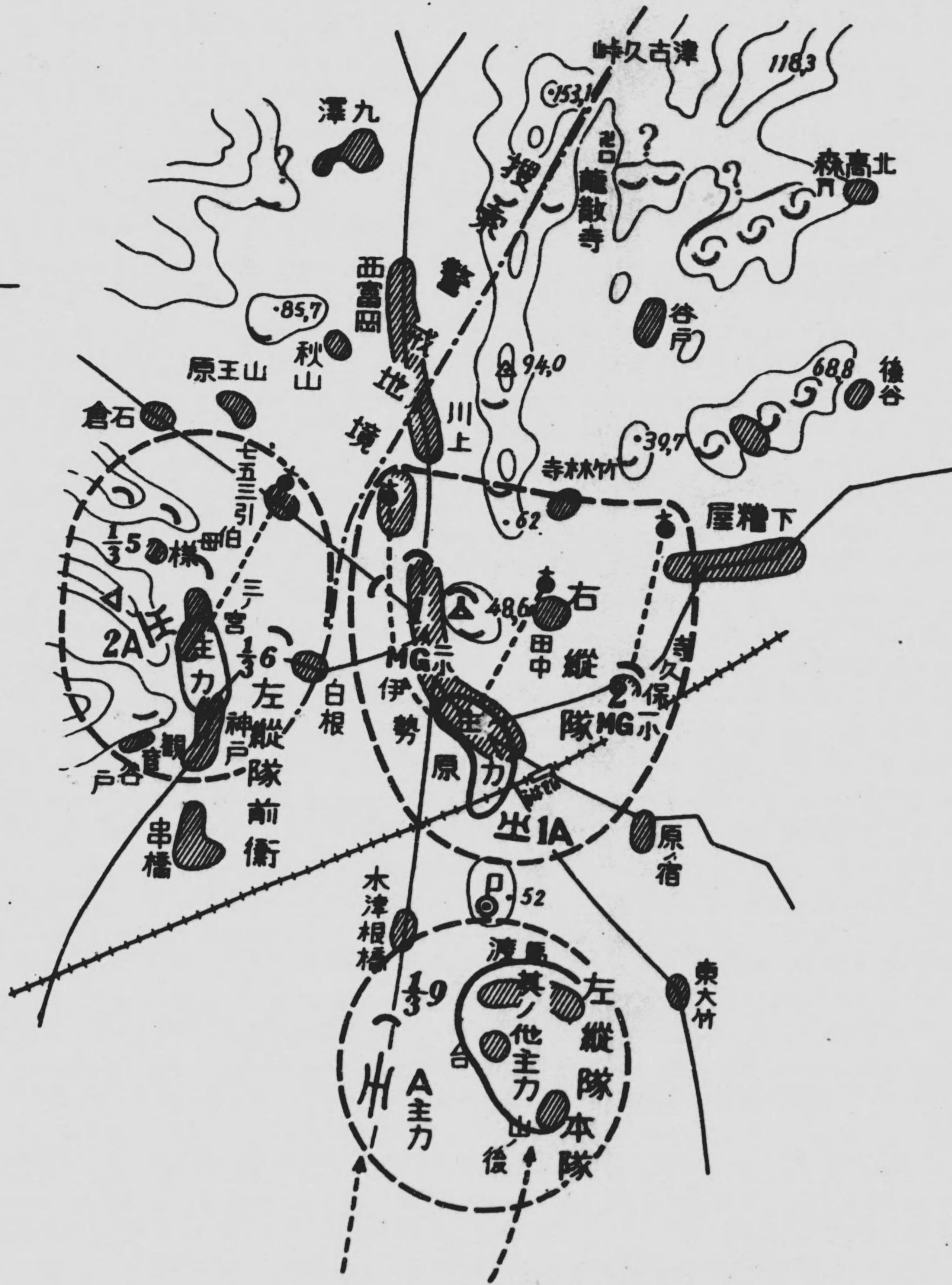
豫想スル左縦隊ノ先頭

伊勢原附近 A 支隊進配要圖

(六月十五日十時五分於ルケ)



- 考備
- 一、
 - 二、
 - 三、
 - 四、
 - 五、
 - 六、
 - 七、
 - 八、
 - 九、
 - 十、
 - 十一、
 - 十二、
 - 十三、
 - 十四、
 - 十五、
 - 十六、
 - 十七、
 - 十八、
 - 十九、
 - 二十、
 - 二十一、
 - 二十二、
 - 二十三、
 - 二十四、
 - 二十五、
 - 二十六、
 - 二十七、
 - 二十八、
 - 二十九、
 - 三十、
 - 三十一、
 - 三十二、
 - 三十三、
 - 三十四、
 - 三十五、
 - 三十六、
 - 三十七、
 - 三十八、
 - 三十九、
 - 四十、
 - 四十一、
 - 四十二、
 - 四十三、
 - 四十四、
 - 四十五、
 - 四十六、
 - 四十七、
 - 四十八、
 - 四十九、
 - 五十、
 - 五十一、
 - 五十二、
 - 五十三、
 - 五十四、
 - 五十五、
 - 五十六、
 - 五十七、
 - 五十八、
 - 五十九、
 - 六十、
 - 六十一、
 - 六十二、
 - 六十三、
 - 六十四、
 - 六十五、
 - 六十六、
 - 六十七、
 - 六十八、
 - 六十九、
 - 七十、
 - 七十一、
 - 七十二、
 - 七十三、
 - 七十四、
 - 七十五、
 - 七十六、
 - 七十七、
 - 七十八、
 - 七十九、
 - 八十、
 - 八十一、
 - 八十二、
 - 八十三、
 - 八十四、
 - 八十五、
 - 八十六、
 - 八十七、
 - 八十八、
 - 八十九、
 - 九十、
 - 九十一、
 - 九十二、
 - 九十三、
 - 九十四、
 - 九十五、
 - 九十六、
 - 九十七、
 - 九十八、
 - 九十九、
 - 一百、



第十問題原案

方針

支隊ハ右縦隊ヲ以テ伊勢原附近、左縦隊前衛ヲ以テ三ノ宮附近ニ夫々開進ノ配置ニ就カシメ左縦隊本隊ヲ以テ金目、矢崎ヲ經テ前進シ馬渡、裏附近ニ開進ノ配置ニ就カシメ引續キ前面ノ敵情、地形ヲ搜索ス



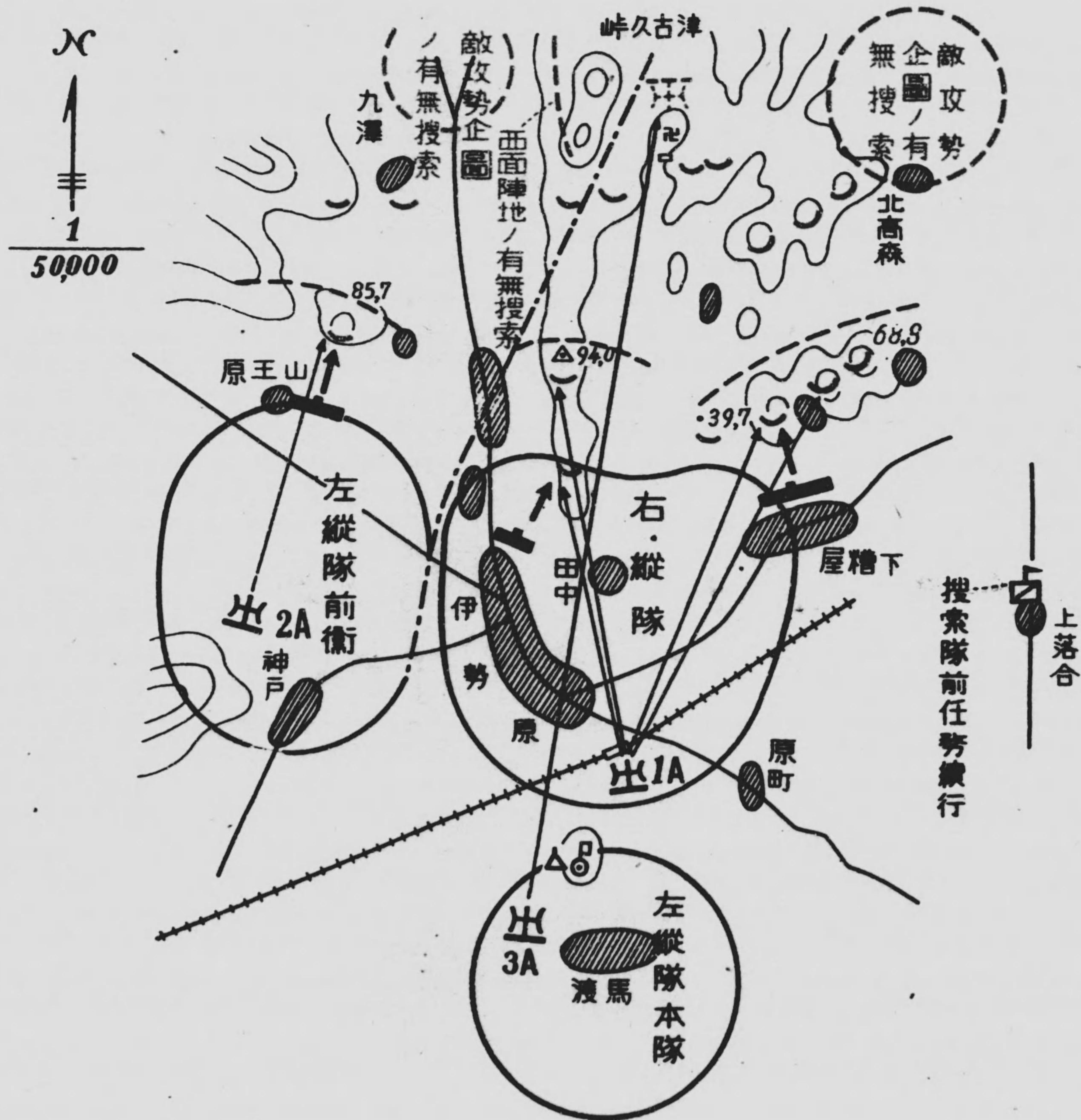
伊勢原附近A支隊攻撃準備要圖

(八月一日十六時以後於ヶル)

第十一問題原案

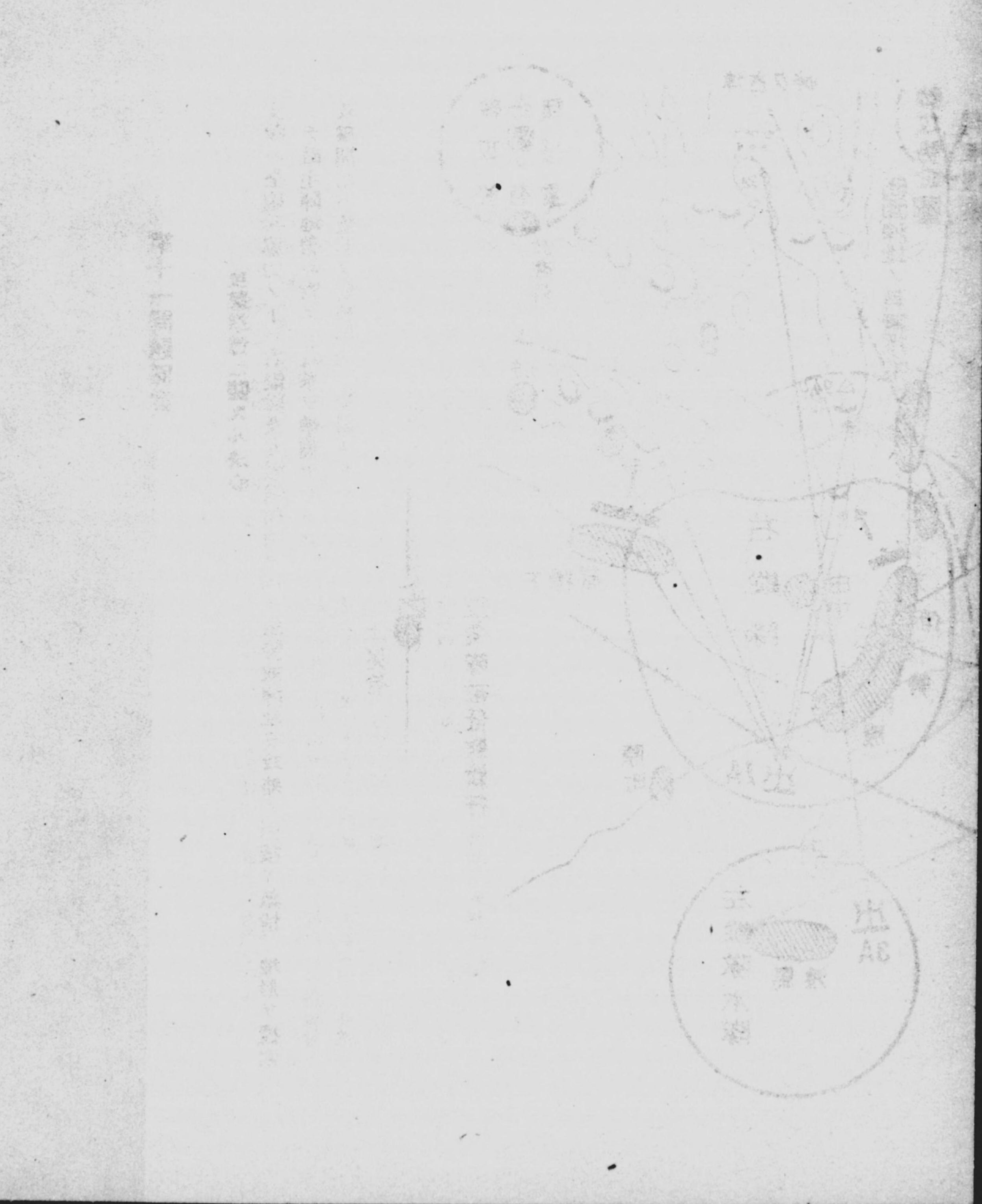
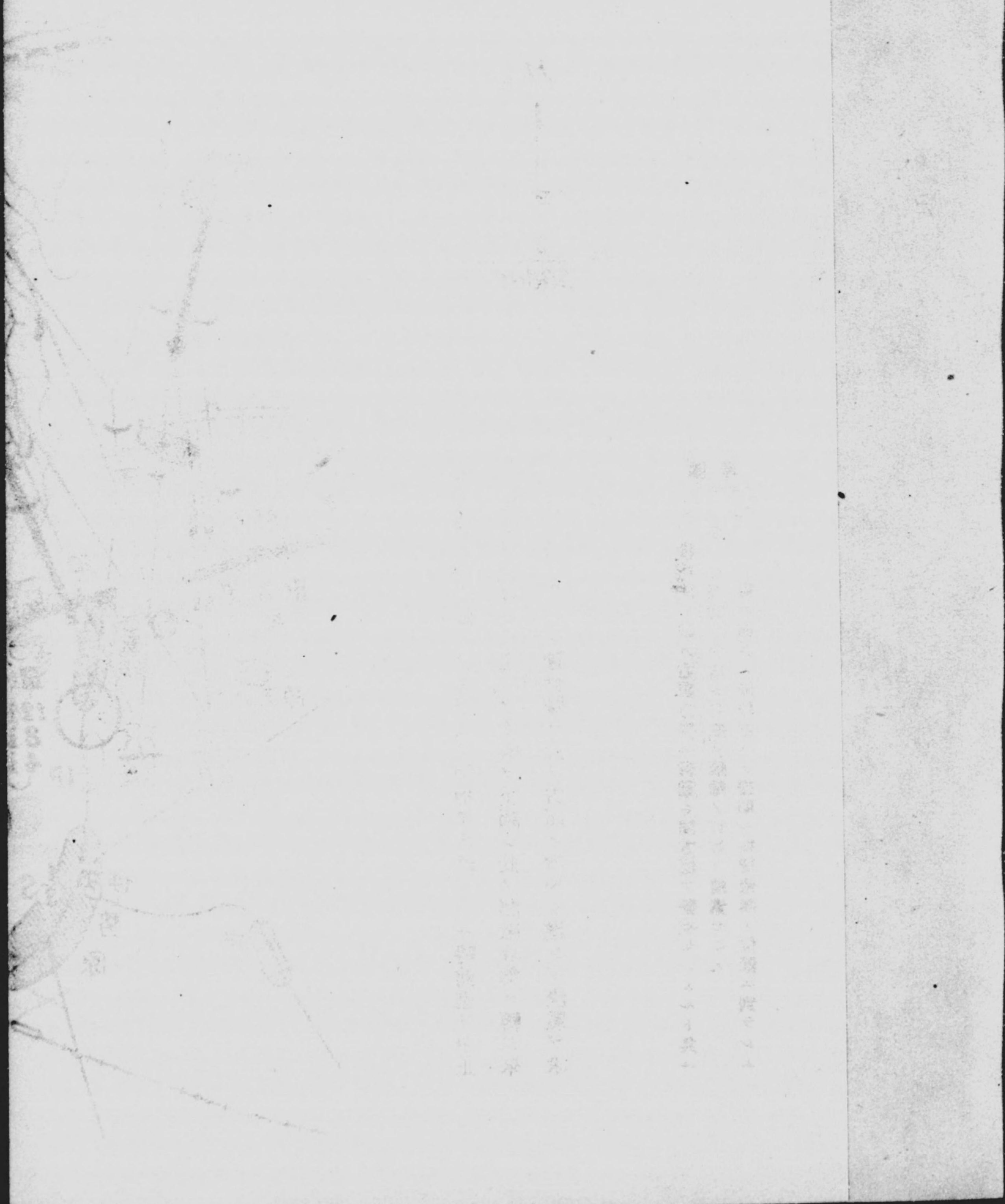
攻撃準備二關スル決心

支隊ハ全砲兵協力ノ下ニ右縦隊及左縦隊前衛ヲ以テ敵警戒陣地ヲ攻略シ引續キ敵情、地形ヲ搜索シテ敵主陣地帯ニ對スル攻撃ヲ準備セントス
 攻撃開始ハ砲兵ノ射撃開始ト同時トス



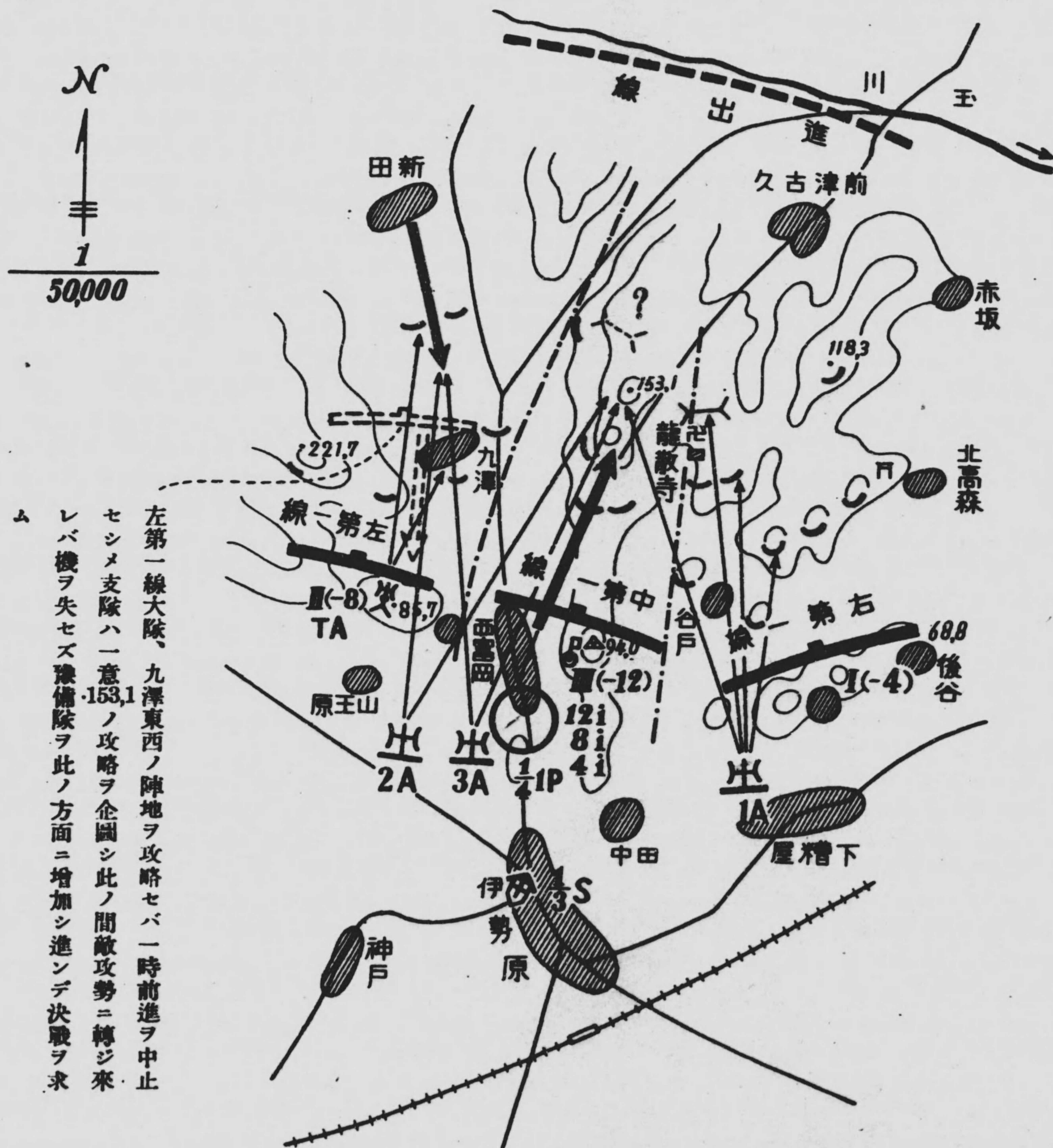
處置ノ概要

- 一、砲兵隊長ヲシテ全砲兵ヲ統一指揮シ成ルベク速カニ射撃開始、警戒陣地ノ攻略ニ協力
- 二、右縦隊及左縦隊前衛ヲシテ各々當面ノ敵警戒陣地ノ攻略
- 三、警戒陣地ノ攻略ニ引續キ左ノ如ク敵情搜索續行
 - 1、右縦隊ニハ北高森北方敵陣地ノ左翼方面ノ敵情殊ニ攻勢企圖ノ有無
 - 2、左縦隊ニハ九澤北方地區ノ敵情殊ニ攻勢企圖ノ有無、九澤東方高地ニ於テ西面陣地ノ有無
 - 3、右兩部隊ハ其ノ搜索擔任區域ニ於テ歩兵及砲兵陣地、豫備隊ノ所在及其ノ兵力並ニ撤去情況ニ就キ特ニ注意
- 四、砲兵ニ對シテハ支隊長ノ企圖ヲ示シ(次回ノ問題ニ關係アル爲省略ス)陣地ヲ偵察セシム



伊勢原附近A支隊攻撃配備要圖

(十月二日六時頃於ルケ)



第十二回題原案

方針

支隊ハ本夜後谷ヨリ Δ 94.0高地ヲ經テ85.7西方高地ノ線ニ攻撃ヲ準備シ明拂曉攻撃開始、
 前面ノ陣地ヲ攻略シテ玉川ノ線ニ進出ス
 攻撃ノ重點ハ西宮岡ヨリ153.1方向ニ指向ス

要圖所載ノ如シ

考備

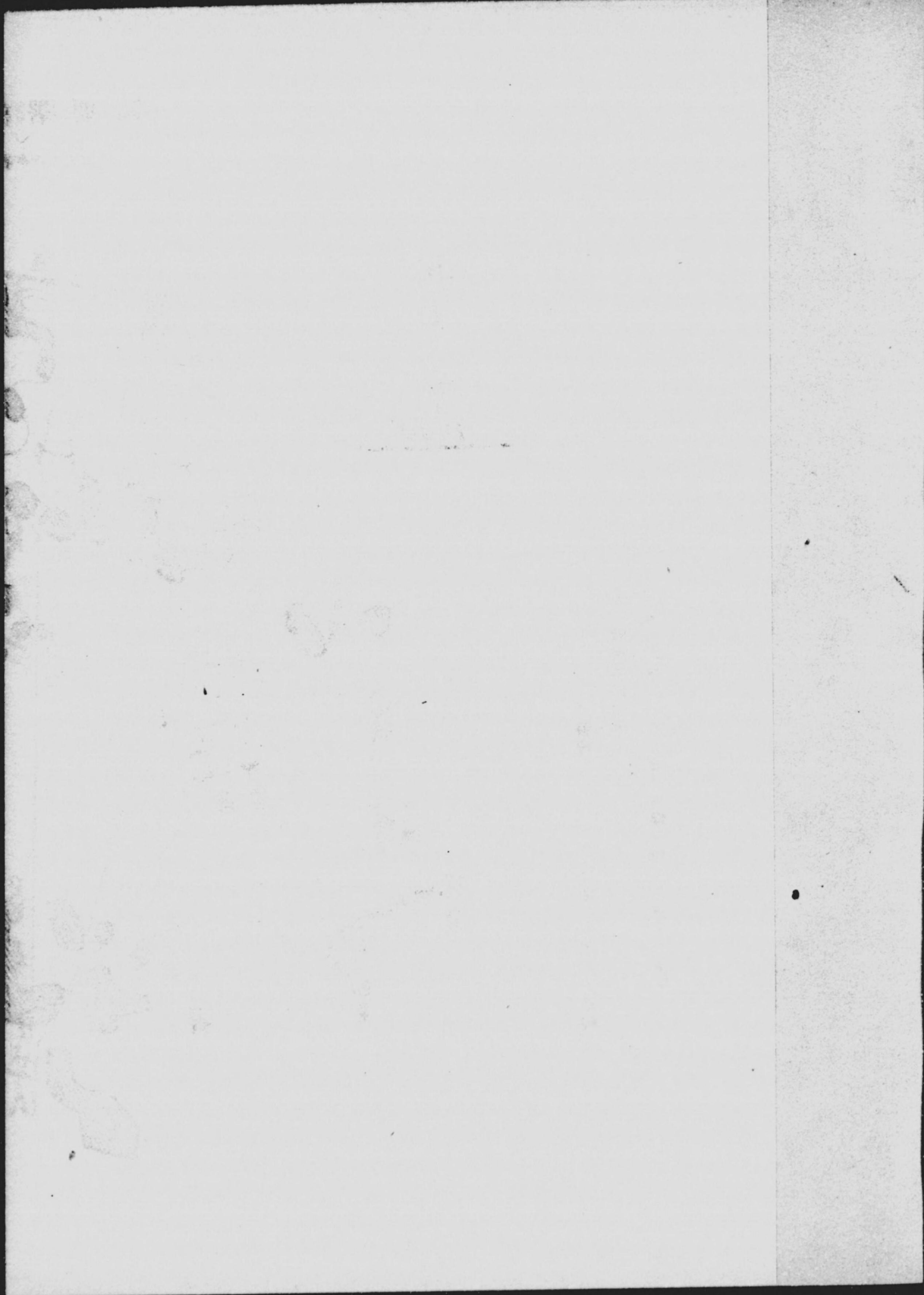
- 一、搜索隊ハ我が右翼方面ニ行跡シ同方面ヲ警戒セシムルト共ニ敵ノ左側背ヲ脅威シ且敵後隊ノ有無ヲ搜索セシム
- 二、工兵隊ハ砲兵ノ陣地進入ヲ援助シ後隊備隊ノ位置ニ到ラシム

左第一線大隊、九澤東西ノ陣地ヲ攻略セバ一時前進ヲ中止セシメ支隊ハ一意153.1ノ攻略ヲ企圖シ此ノ間敵攻勢ニ轉ジ來レバ機ヲ失セズ豫備隊ヲ此ノ方面ニ増加シ進ンデ決戦ヲ求ム



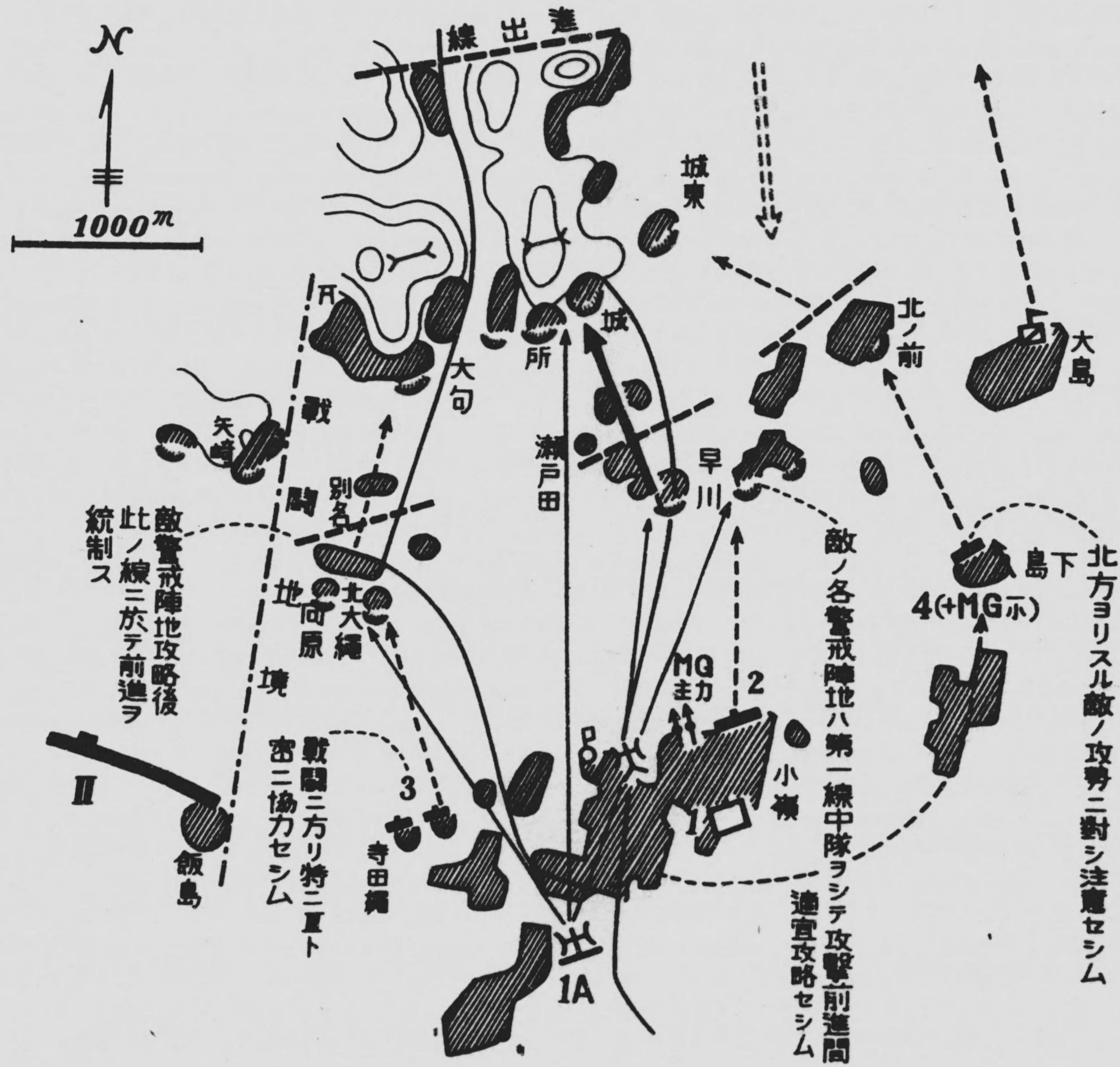
此圖係根據最新之航空照片及實地調查資料繪製而成，其內容包括：(一) 主要幹道及支線道路；(二) 鐵路線路；(三) 河流及水庫；(四) 重要聚落及行政區界。圖中各處均標有地名，以利辨識。

第十一圖 臺灣南部



第一大隊攻撃部署要圖

(七月十五日午頃於ルケ)



第十三回通原案

方針

- 一、大隊ハ下島、小嶺、寺田橋ノ線ニ展開シ支隊命令ニ依リ前進開始、一舉ニ敵警戒陣地ト主陣地帯トヲ攻略シ上平間、南部東大竹ノ線ニ進出セントス
- 二、攻撃ノ重點ハ早川ヨリ城所ニ通ズル線トス

備考

- 1A 及 1Aノ警戒陣地ニ對スル攻略ニ協力スル外特ニ
2. ノ職團ニ協力セシム
- 1A ニハ北方ヨリスル敵ノ出撃ニ對シ準備ヲ要求ス

北方ヨリスル敵ノ攻勢ニ對シ注意セシム

敵ノ各警戒陣地ハ第一線中隊ヲシテ攻撃前進間
連宜攻略セシム

戦團ニ方リ特ニ夏ト
密ニ協力セシム

敵警戒陣地攻略後
此ノ線ニ於テ前進ヲ
統制ス

支那

支那



支那

支那

支那

第十

支那



第十五問題原案

方針

大隊ハ第八中隊ヲシテ今夜概ネ二時迄ニ天狗松高地及237.6高地ヲ奪取セシメ明朝以後ノ攻撃ヲ準備ス

部署

一、第八中隊長ヲ招致シ特ニ指示スベキ事項左ノ如シ
 使用兵力 第八中隊(一小隊欠)及第八中隊ノ一小隊
 但シ中隊長ハ第八中隊ノ一小隊ヲモ之ヲ統轄スベシ

攻撃時機 今夜正子乃至二時

攻撃目標 中隊ノ主力ハ237.6高地

一小隊ハ天狗松高地

攻撃部署及攻撃方向

中隊ノ主力ハ先ヅ箕輪北側

二軒家附近ニ集結シ準備ノ後出發三増宿附近ヲ經其ノ

北方後線ヲ經テ攻撃ス

一小隊ハ概ネ現在地又ハ梅澤方向ヨリ攻撃ス

夜襲實施ノ細部ハ中隊長ニ於テ指示スベシ

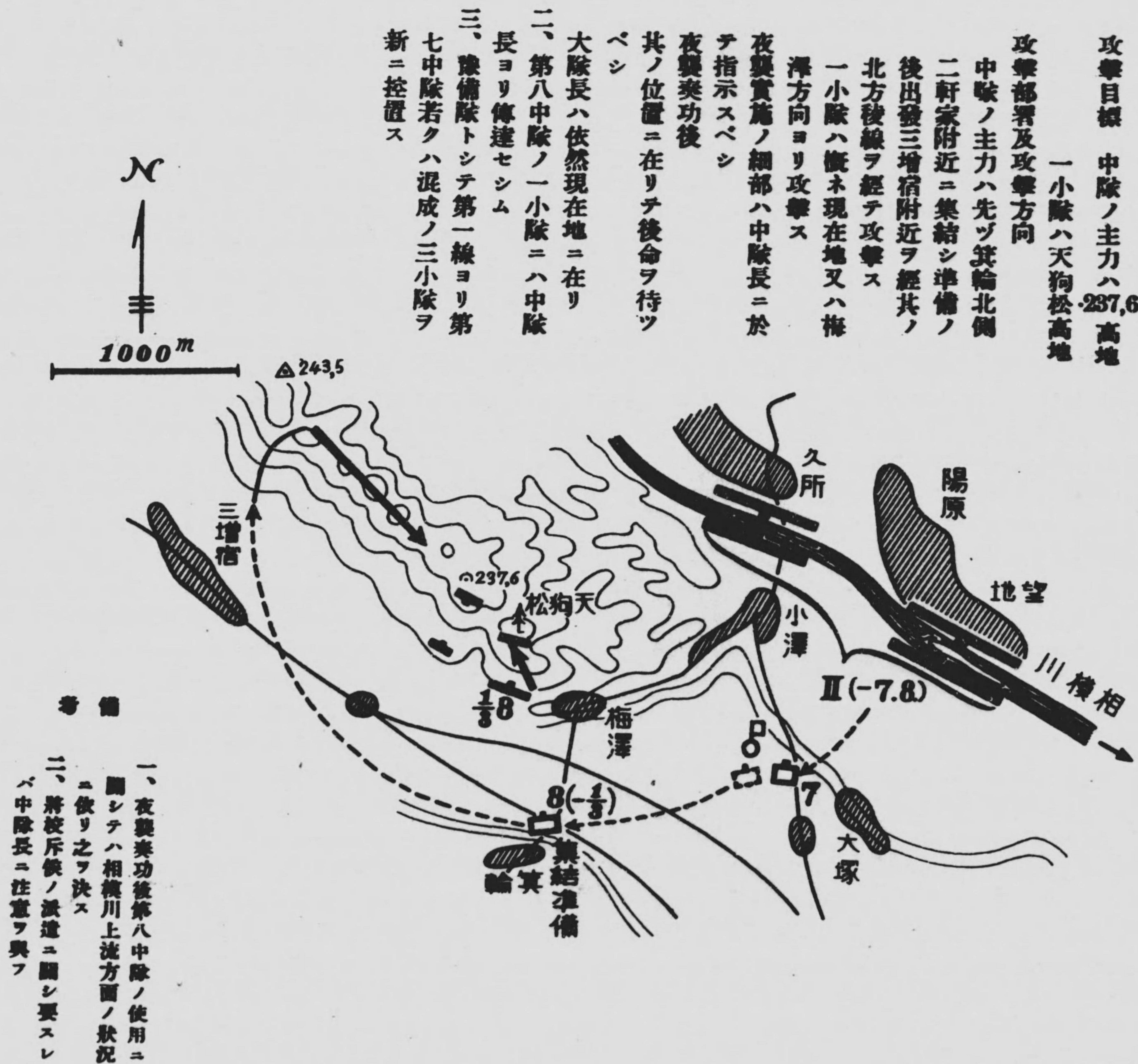
夜襲成功後

其ノ位置ニ在リテ後命ヲ待ツベシ

大隊長ハ依然現在地ニ在リ

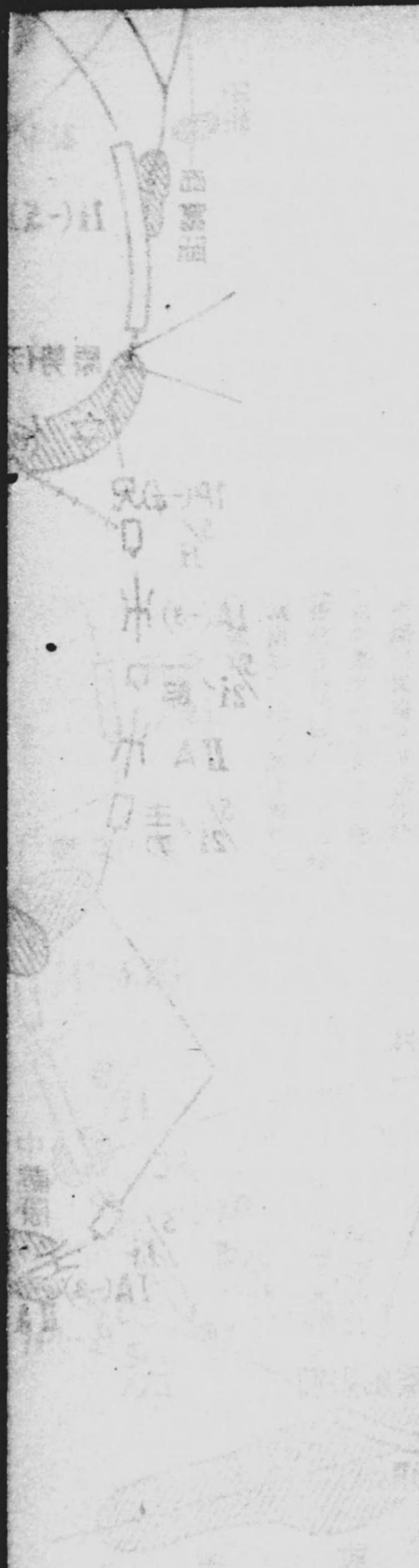
二、第八中隊ノ一小隊ニハ中隊長ヨリ傳達セシム

三、豫備隊トシテ第一線ヨリ第七中隊若クハ混成ノ三小隊ヲ新ニ控置ス



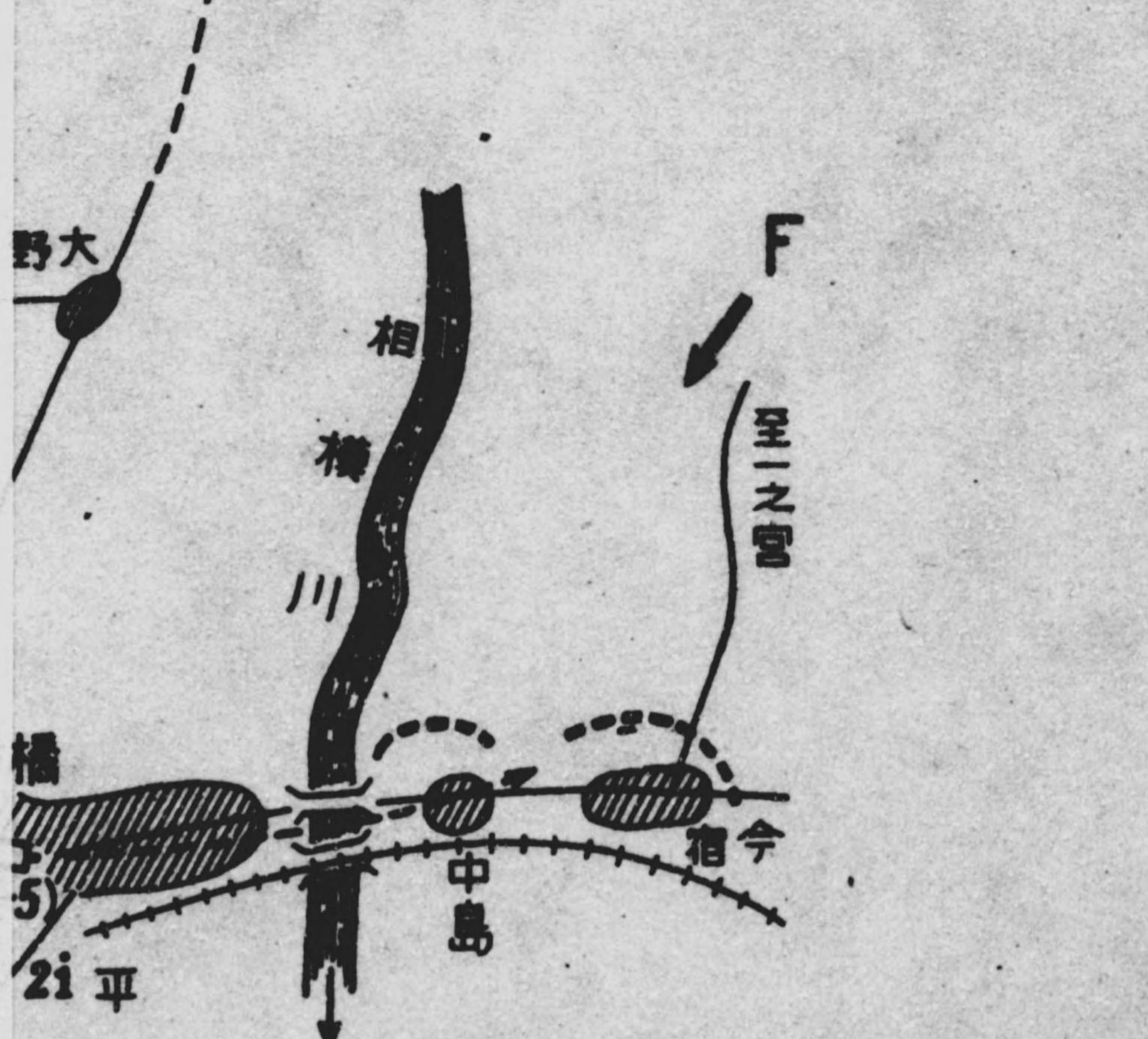
考備

一、夜襲成功後第八中隊ノ使用ニ關シテハ相模川上流方面ノ狀況ニ依リ之ヲ決ス
 二、將校斥候ノ派遣ニ關シ要スレバ中隊長ニ注意ヲ與フ



海軍省
海軍大臣
海軍少将
海軍中將
海軍大佐
海軍少佐
海軍中尉
海軍少尉
海軍中士
海軍少士
海軍兵

計
兵力ヲ伊勢原附近ニ於テ
平塚西北方ニ移動シ之ヨ
ル部隊ヲ以テ先ヅ一之宮
ニ進出ス



第二回 新武蔵の海軍

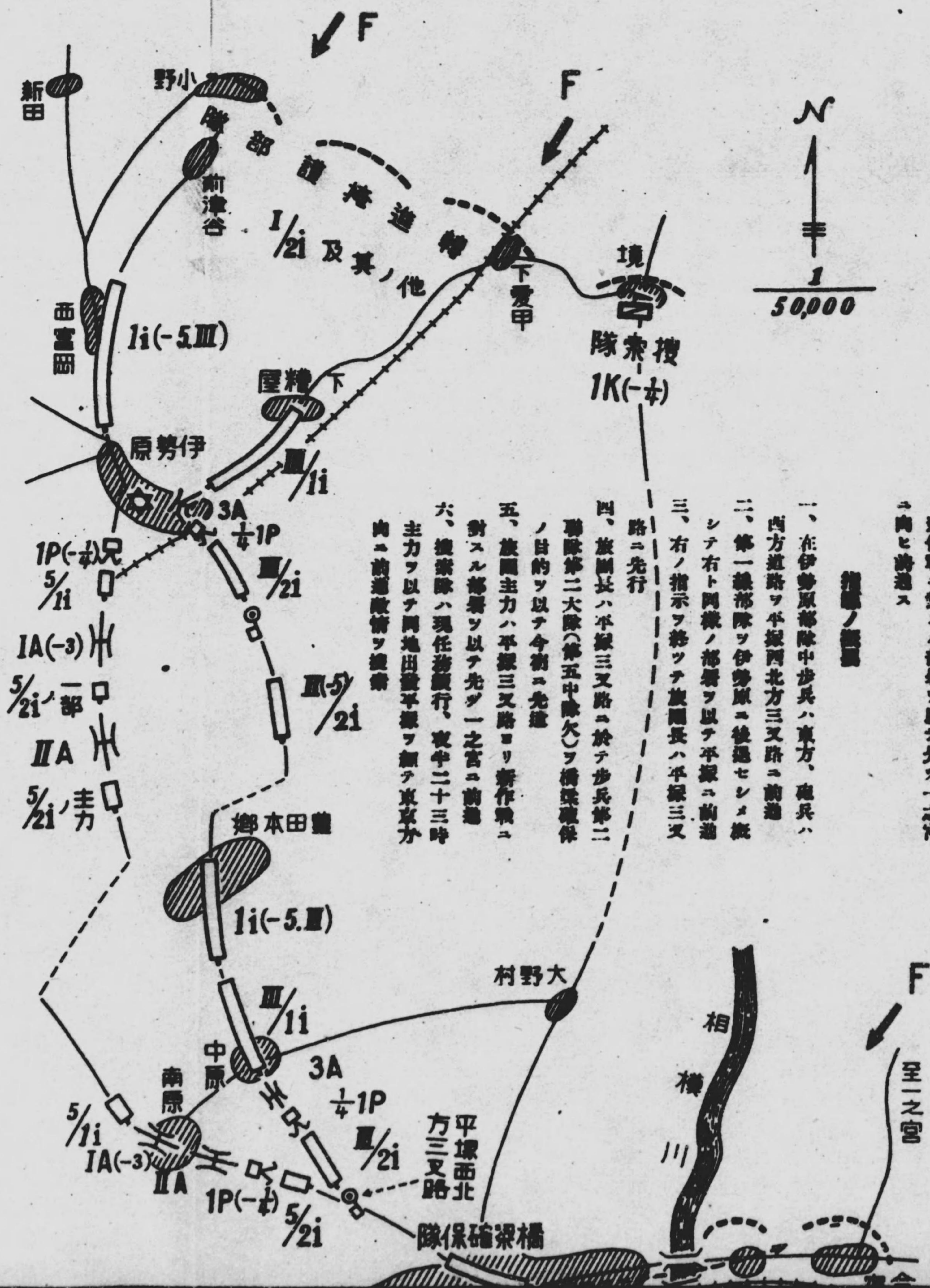
海軍省
海軍大臣
海軍少将
海軍中將
海軍大佐
海軍少佐
海軍中尉
海軍少尉
海軍中士
海軍少士
海軍兵

海軍省
海軍大臣
海軍少将
海軍中將
海軍大佐
海軍少佐
海軍中尉
海軍少尉
海軍中士
海軍少士
海軍兵

海軍省
海軍大臣
海軍少将
海軍中將
海軍大佐
海軍少佐
海軍中尉
海軍少尉
海軍中士
海軍少士
海軍兵

圖要署部造轉團旅軍四

(ルケ於ニ夜日一月一十)



第十六問題原案

方針

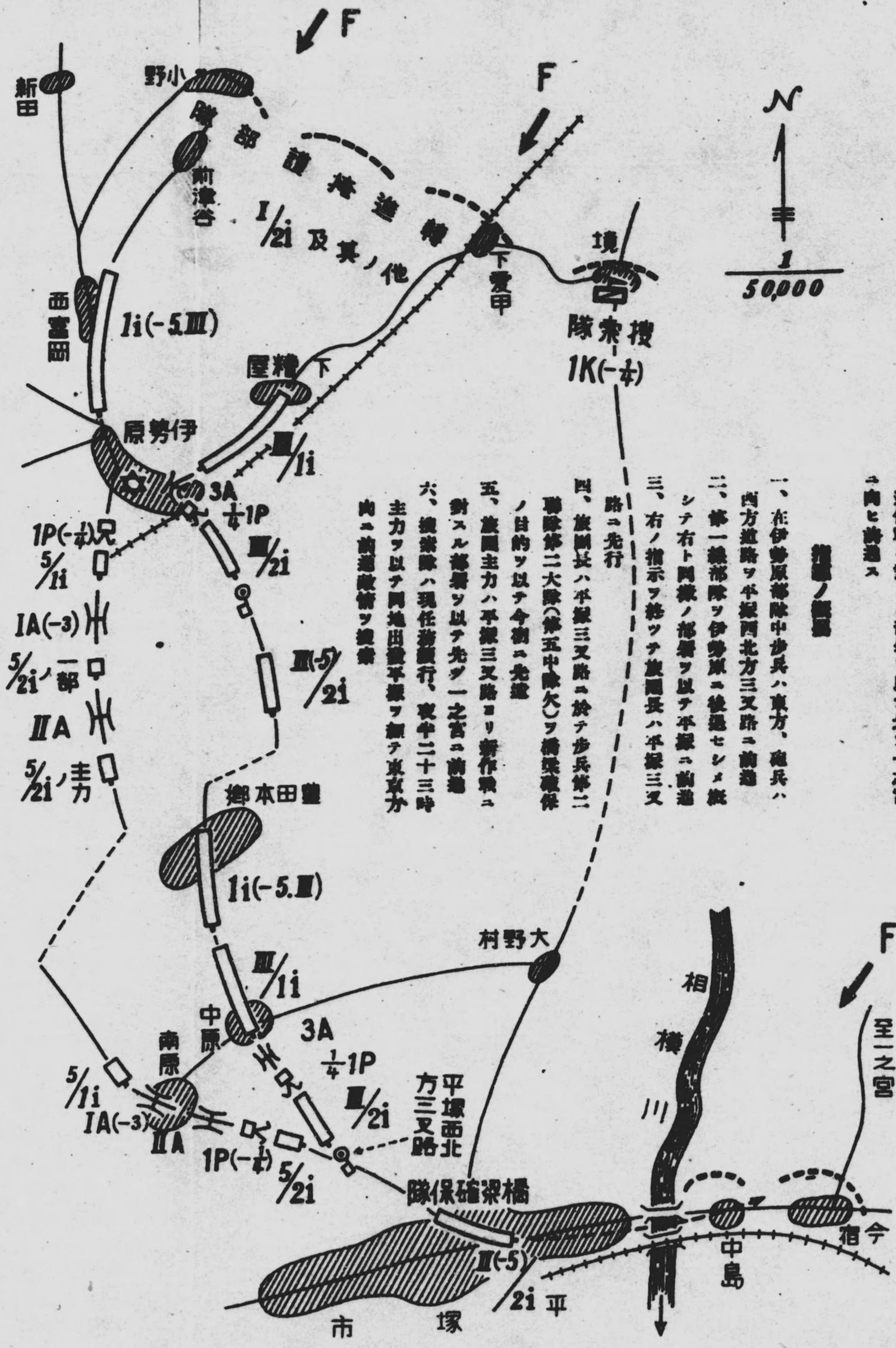
旅團ハ進次其ノ兵力カツ伊勢原附近ニ於テ
集結準備シ之ヲ平塚西北方ニ移動シ之ヲ
リ新作戰ニ對スル部隊ヲ以テ先ヅ一之宮
ニ向ヒ誘導ス

措置ノ要領

- 一、在伊勢原部隊中步兵ハ東方、砲兵ハ
西方道路ヲ平塚西北方三又路ニ前進
- 二、第一線部隊ヲ伊勢原ニ後退セシメ旅
シテ右ト同様ノ部隊ヲ以テ平塚ニ前進
- 三、右ノ指示ヲ終ツテ旅團長ハ平塚三又
路ニ先行
- 四、旅團長ハ平塚三又路ニ於テ步兵第二
聯隊第二大隊(第五中隊欠)ヲ橋梁確保
ノ目的ヲ以テ先ヅニ先遣
- 五、旅團主力ハ平塚三又路ヨリ新作戰ニ
對スル部隊ヲ以テ先ヅ一之宮ニ前進
- 六、搜索隊ハ現任任務履行、夜中二十三時
主力ヲ以テ同地出發平塚ヲ經テ東京方
向ニ前進敵情ヲ搜索

至一之宮

第十六問題原案

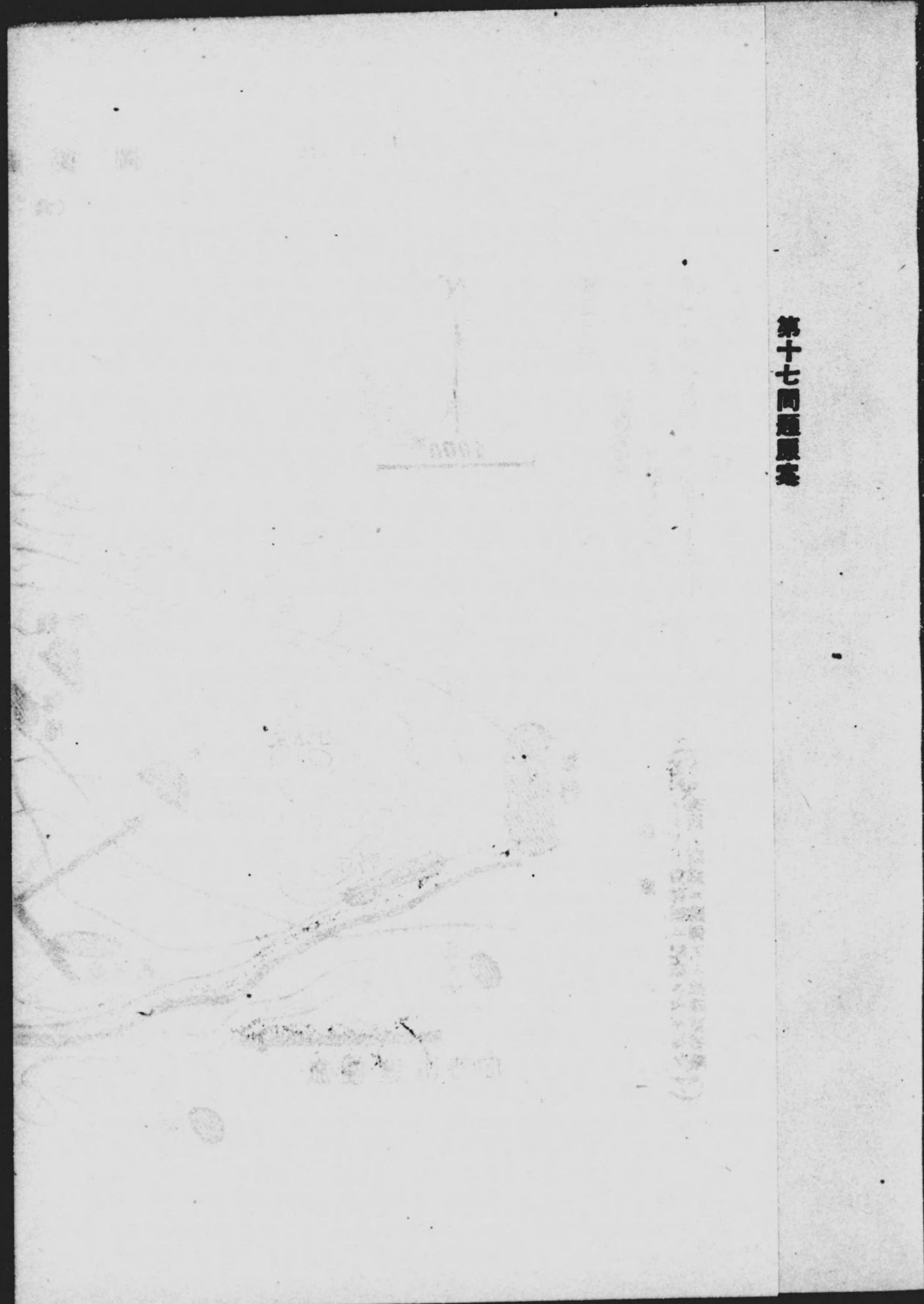


方針

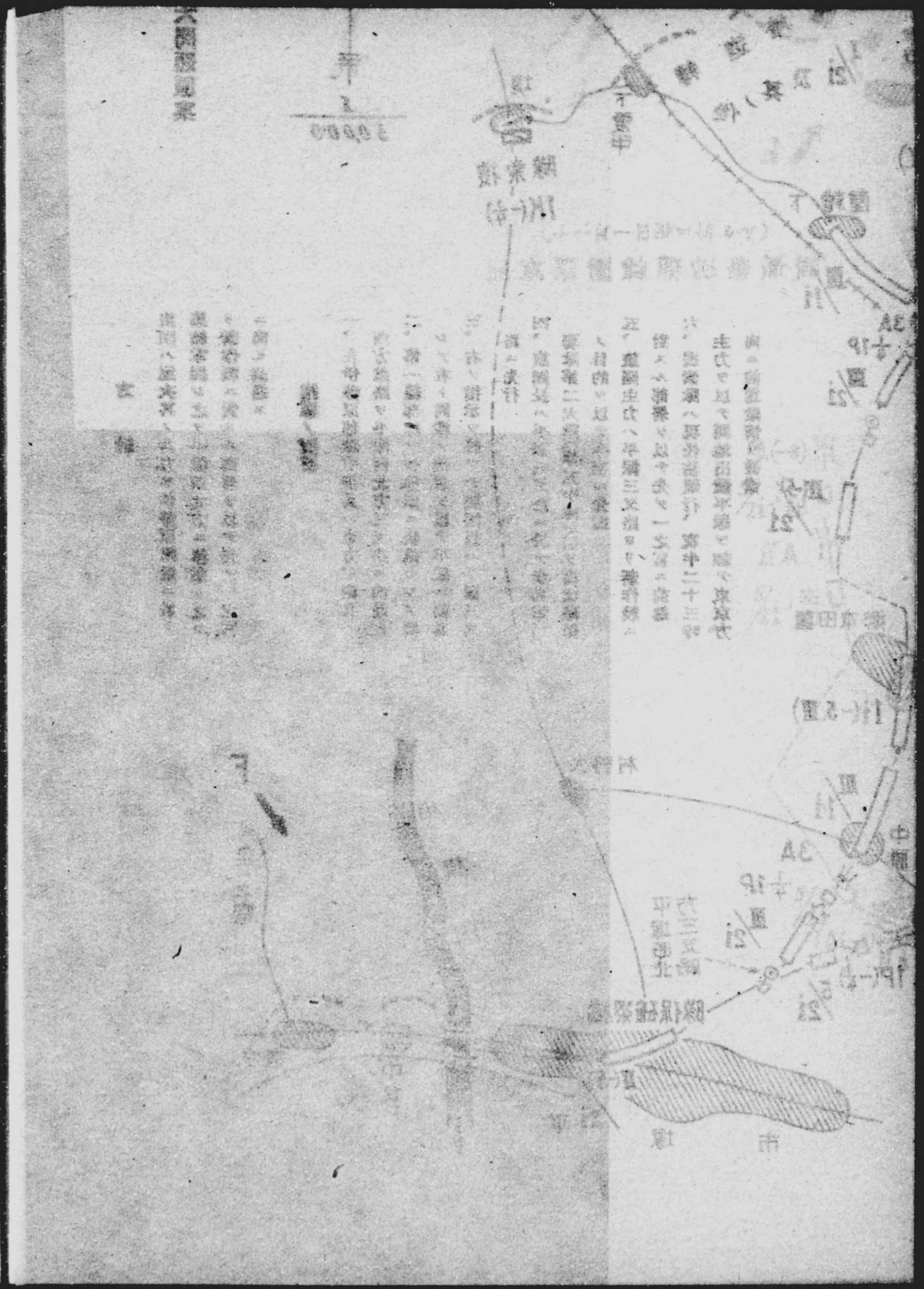
旅團ハ運次其ノ兵力ヲ伊勢原附近ニ於テ集結掌握シ之ヲ平塚西北方ニ移動シ之ヨリ新作戰ニ對スル部隊ヲ以テ先ヅ一之宮ニ向ヒ前進ス

推進ノ要領

- 一、在伊勢原部隊中歩兵ハ東方、砲兵ハ西方道路ヲ平塚西北方三又路ニ前進
- 二、第一機部隊ヲ伊勢原ニ後退セシメ概シテ右ト同様ノ部隊ヲ以テ平塚ニ前進
- 三、右ノ指示ヲ終ツテ旅團長ハ平塚三又路ニ先行
- 四、旅團長ハ平塚三又路ニ於テ歩兵第二聯隊第二大隊(第五中隊欠)ヲ橋梁確保ノ目的ヲ以テ先制ニ先遣
- 五、旅團主力ハ平塚三又路ヨリ新作戰ニ對スル部隊ヲ以テ先ヅ一之宮ニ前進
- 六、機部隊ハ現任任務履行、夜中二十三時主力ヲ以テ同地出發平塚ヲ經テ東京方面ニ前進敵情ヲ搜索



第十七回 運河案



- 一、運河の位置
 二、運河の長さ
 三、運河の幅
 四、運河の深さ
 五、運河の構造
 六、運河の設備
 七、運河の費用
 八、運河の利益
 九、運河の危険
 十、運河の将来

圖要線地陣隊支M

(爲ノ領占日二明)

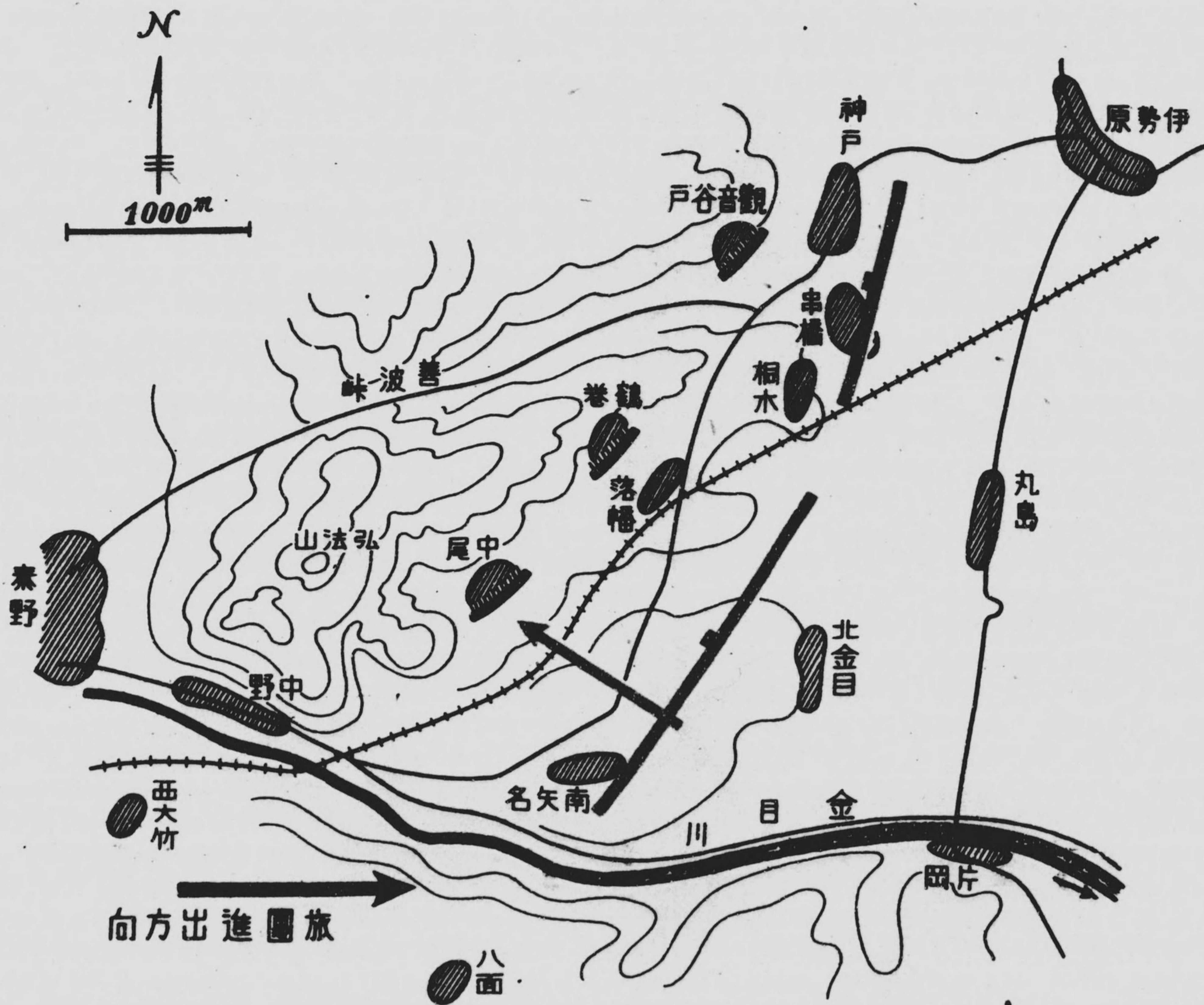
第十七問題原案

方針

支隊ハ明二日概シテ中尾ヨリ鶴巻ヲ經テ觀音谷戸附近ニ互リ陣地ヲ占領シテ敵ノ前進ヲ拒止シ以テ旅團主力ノ相模平地進出ヲ容易ナラシム

配備概要

要圖所載ノ如シ



注意
(答解トシテハ尙再測ニ記載スベキモノナ
ルモ次同ノ問題ニ關係アル故殊更省略ス)



此種植物之葉，其葉片之長，約為寬之十餘倍，葉脈之分布，呈羽狀，其葉之基部，常呈鞘狀，包裹莖部，其葉之頂端，常呈銳形，其葉之邊緣，常呈波狀，其葉之表面，常呈光滑，其葉之背面，常呈粗糙，其葉之顏色，常呈綠色，其葉之生長，常呈輪生，其葉之脫落，常呈漸次，其葉之殘留，常呈環狀，其葉之殘留，常呈木質，其葉之殘留，常呈堅硬，其葉之殘留，常呈持久，其葉之殘留，常呈不易脫落，其葉之殘留，常呈不易腐爛，其葉之殘留，常呈不易霉爛，其葉之殘留，常呈不易蟲食，其葉之殘留，常呈不易火燒，其葉之殘留，常呈不易水浸，其葉之殘留，常呈不易風乾，其葉之殘留，常呈不易霉爛，其葉之殘留，常呈不易蟲食，其葉之殘留，常呈不易火燒，其葉之殘留，常呈不易水浸，其葉之殘留，常呈不易風乾。

第十八問題原案

鶴卷附近M支隊陣地要領圖

第十八問題原案

方針

一、支隊ハ右翼ヲ權現山ニ取り概ネ中尾、鶴卷、觀音谷戸ノ各部落西方高地ヲ經テ左翼善波北方
 452.4ニ互リ主陣地帯ヲ構成シ伊勢原、丸島方向ノ敵ノ前進ヲ拒止ス

二、支隊ハ旅團主力ノ到着ト共ニ全線ヲ舉ゲテ攻勢ニ轉ズルモ敵ニシテ金目川以南地區ヨリ秦野
 方向ニ突進スル狀況ニ於テハ機ヲ失セズ敵ノ側面ニ向ヒ攻勢ニ轉ズ



大隊ノ境界線
 中隊ノ境界線

考 参



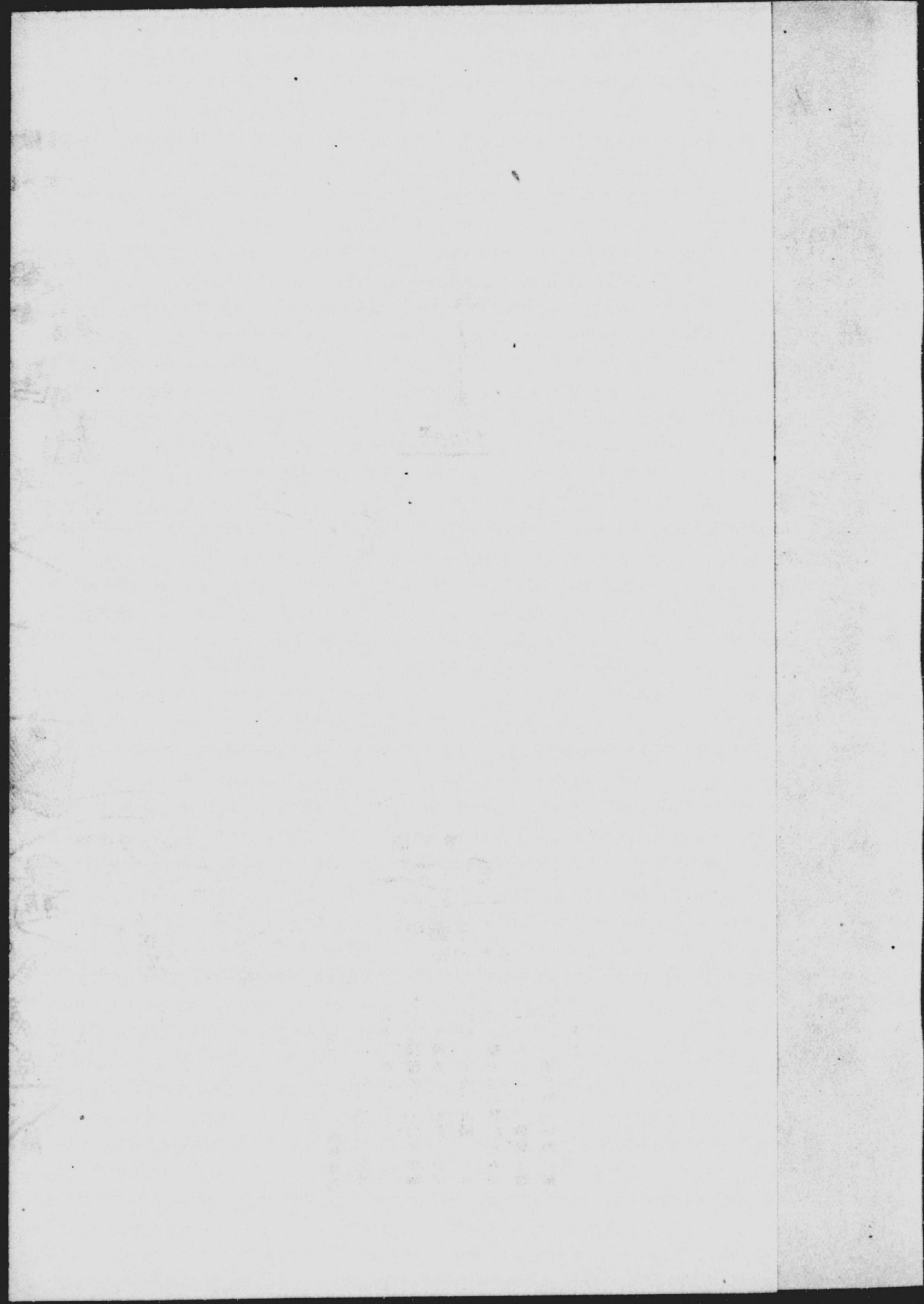
概ネ金目川右岸ニ行
 動シ直接旅團主力ノ
 進出掩護ニ任ゼシム

警戒部隊(1. 1/3 1/3 1/3)ハ夫々
 支隊長直轄トシ歸還後固有隊長
 ノ隷下ニ復ス
 陣地占領掩護ノ任務ヲ兼ホシメ
 輕戰ノ後歸還セシム

敵ノ壓迫ヲ受クレバ我が右翼方面ニ後退セシム

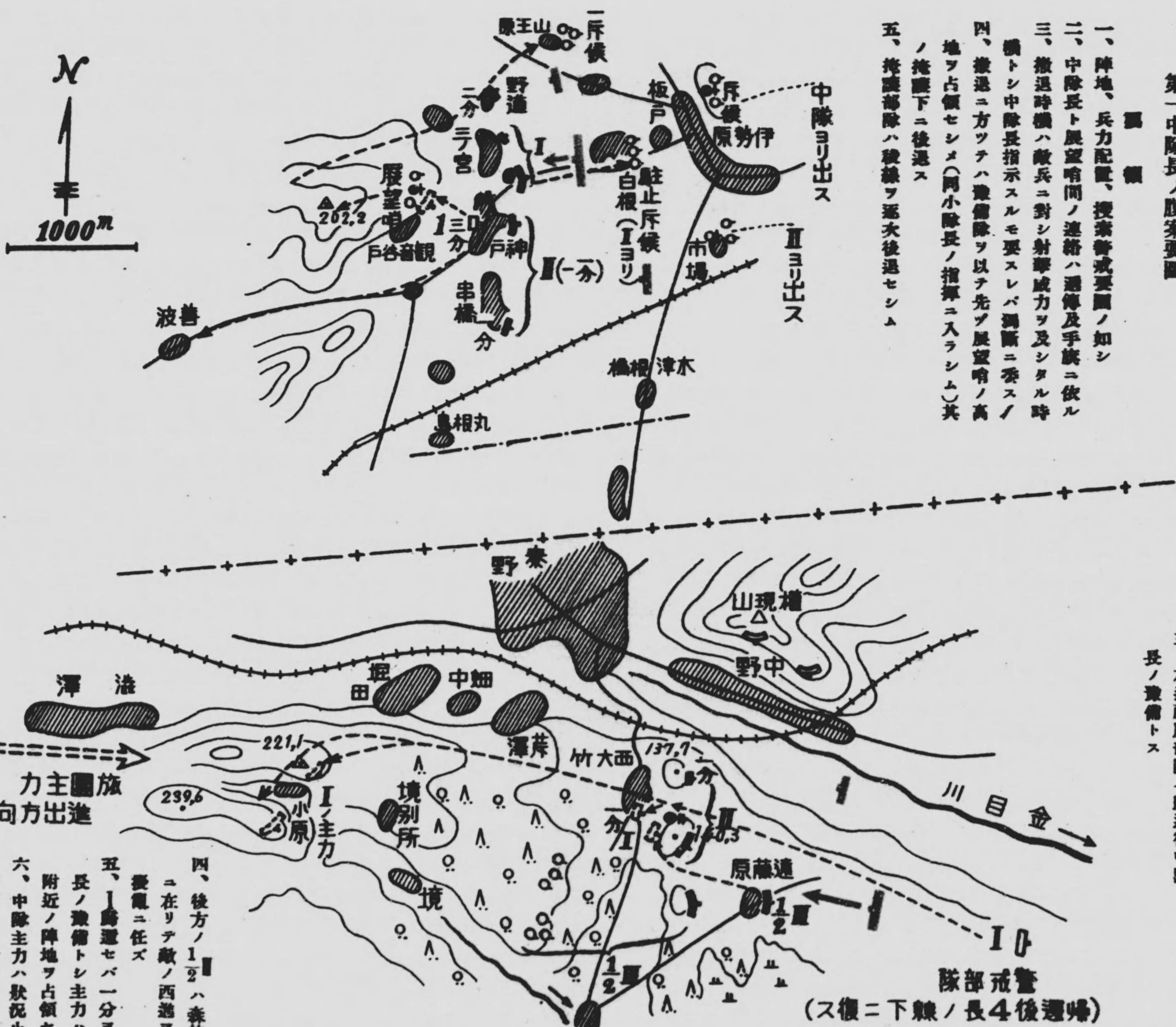


此圖係根據... 資料繪製... 比例尺... 說明...



圖要領占地陣隊中四第一第近附野秦

(ルケ於ニ後午日一月四)



第十九問題圖案

第一中隊長ノ腹案要圖

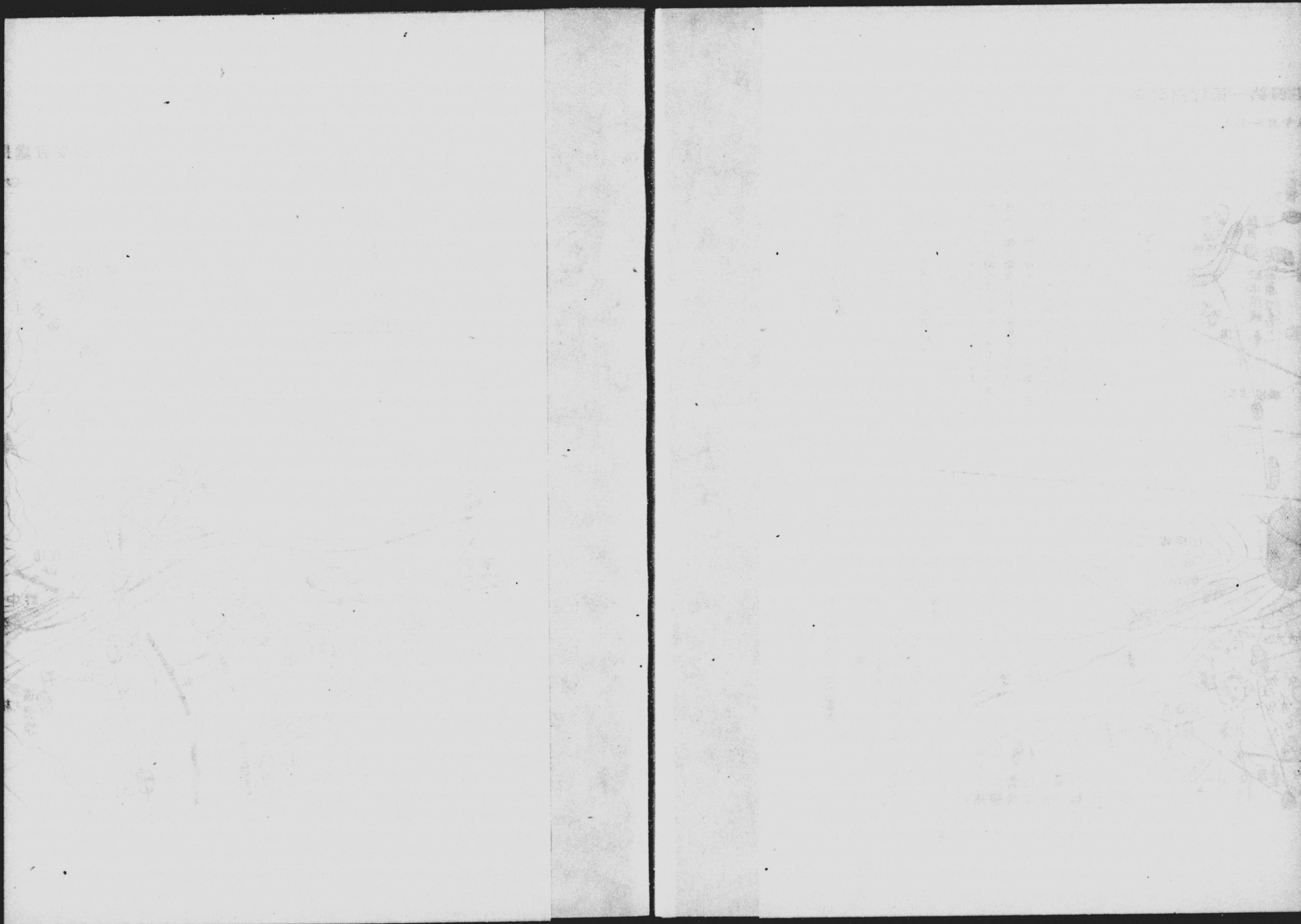
- 一、陣地、兵力配置、搜索警戒要圖ノ如シ
- 二、中隊長ト展望哨間ノ連絡ハ通傳及手旗ニ依ル
- 三、撤退時機ハ敵兵ニ對シ射擊威力ヲ及シタル時
機トシ中隊長指示スルモ要スレバ獨斷ニ委ス
- 四、撤退ニ方ツテハ豫備隊ヲ以テ先ヅ展望哨ノ高
地ヲ占領セシメ(同小隊長ノ指揮ニ入ラシム)其
ノ掩護下ニ後退ス
- 五、掩護部隊ハ後線ヲ逐次後退セシム

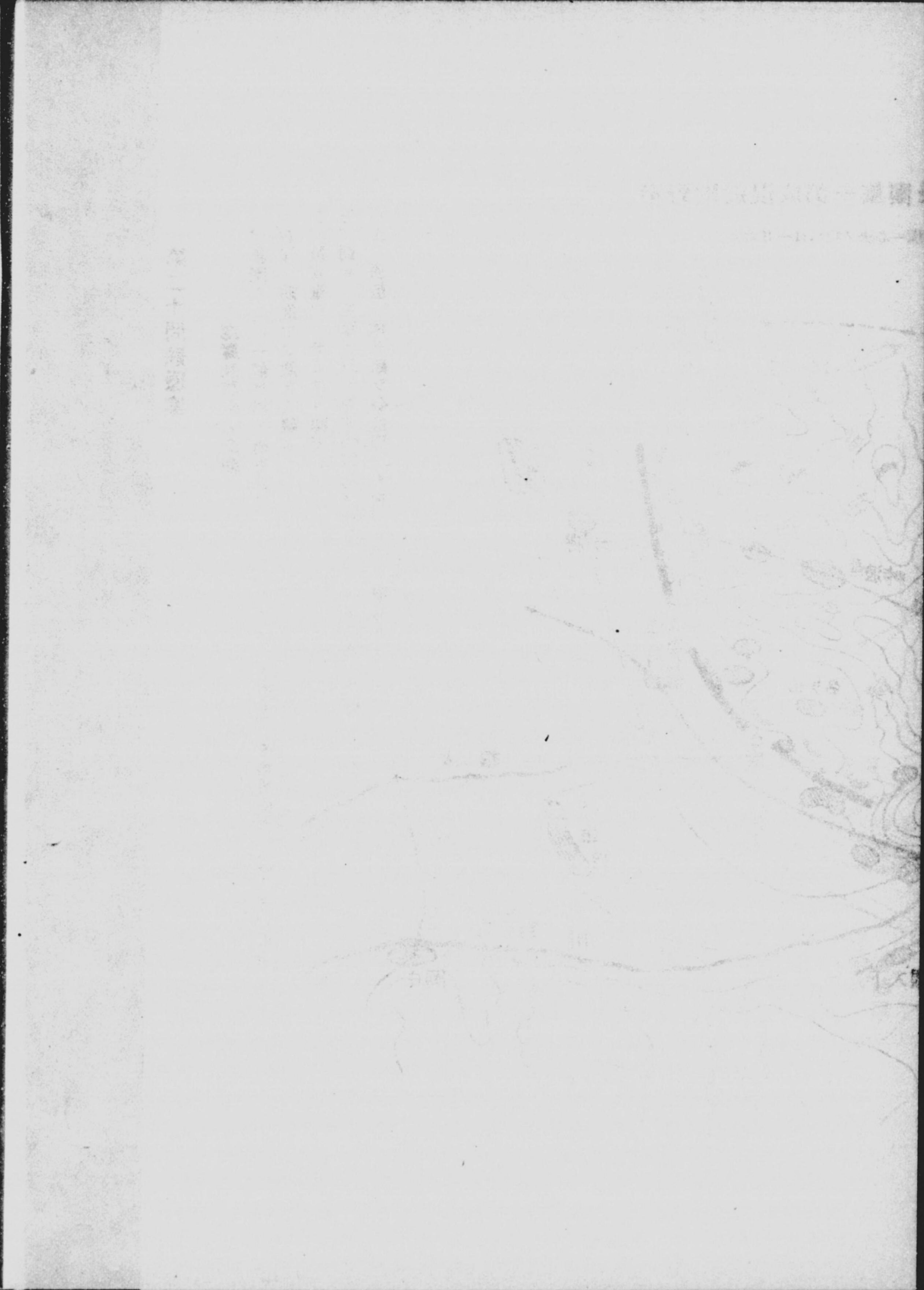
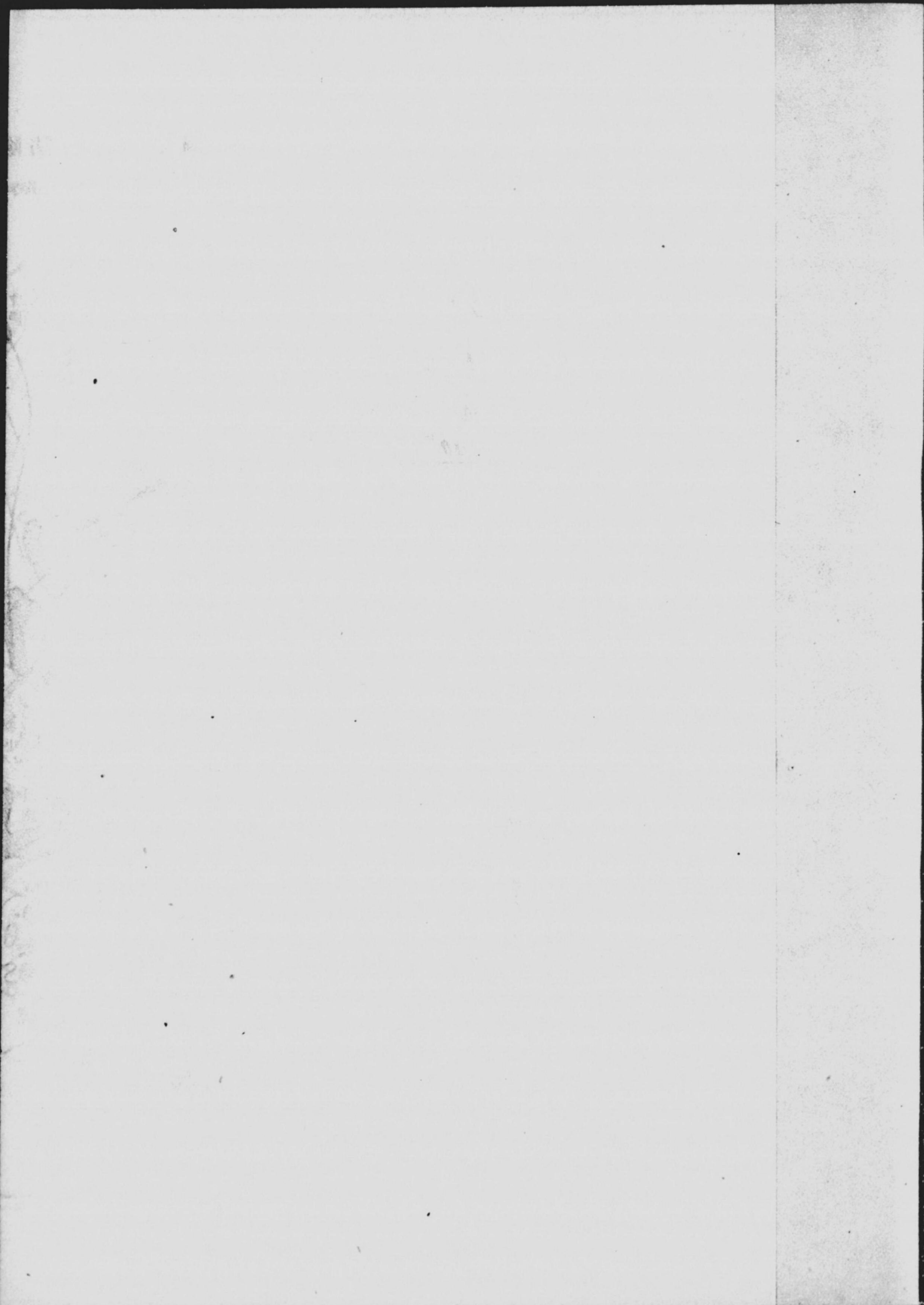
第四中隊長ノ腹案要圖

- 一、陣地、兵力配置要圖ノ如シ
- 二、搜索ハ一ト連絡ニ依リ情報ヲ得ルコトトス
- 三、在遠處原部隊ハ歸還後中隊長ノ豫備トス

- 四、後方ノ12ハ森林地帯
ニ在リテ敵ノ西進ヲ妨害
要圖ニ任ズ
- 五、1騎連セバ一分ヲ中隊長
長ノ豫備トシ主力ハ小原
附近ノ陣地ヲ占領セシム
- 六、中隊長主力ハ状況止ムヲ
得ザルニ至レバ戰鬥ヲ離
脱シ一舉小原ノ陣地ニ據
ラシム

隊部戒警
(ス復ニ下棘ノ長4後退時)





厚木附近N支隊防禦配備要圖

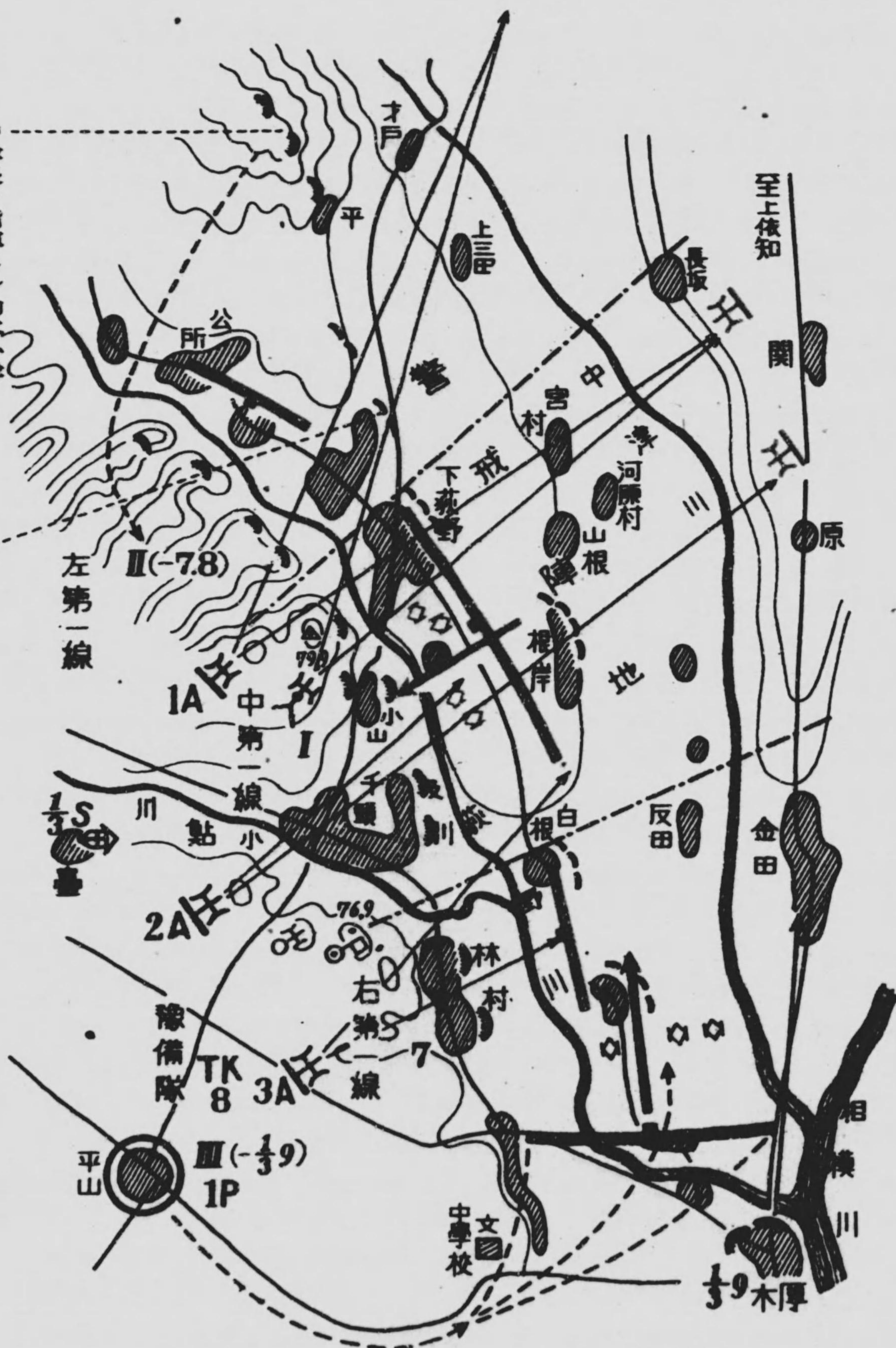
(五月十六日頃於ケル)



中隊長ノ指揮スル約二小隊ヲ左第一線大隊ヨリ出シ敵ノ前進ヲ遲滞セシム

警戒部隊ハ第一線各部隊ヨリ出サシム

- 考 備
- 一、IK 主力ハ敵ノ前進ヲ遲滞セシメツツ厚木方向ニ後退セシム
 - 二、IP ハ先ヅAノ陣地進入ヲ援助セシム
 - 三、厚木ノISハ敵ノ前進ヲ防止シ攻勢轉移ノ據點タラシム



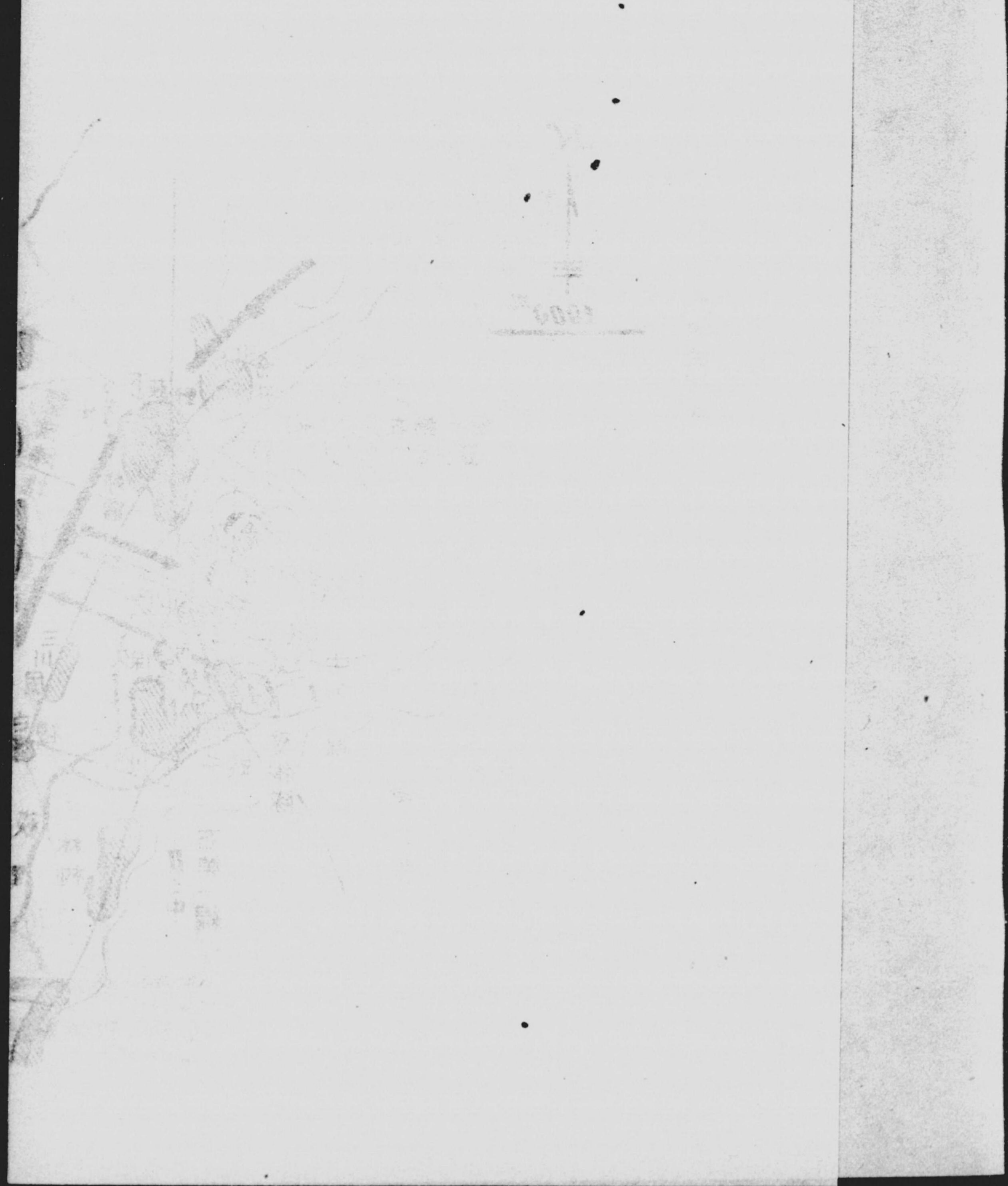
第二十二問題原案

方針

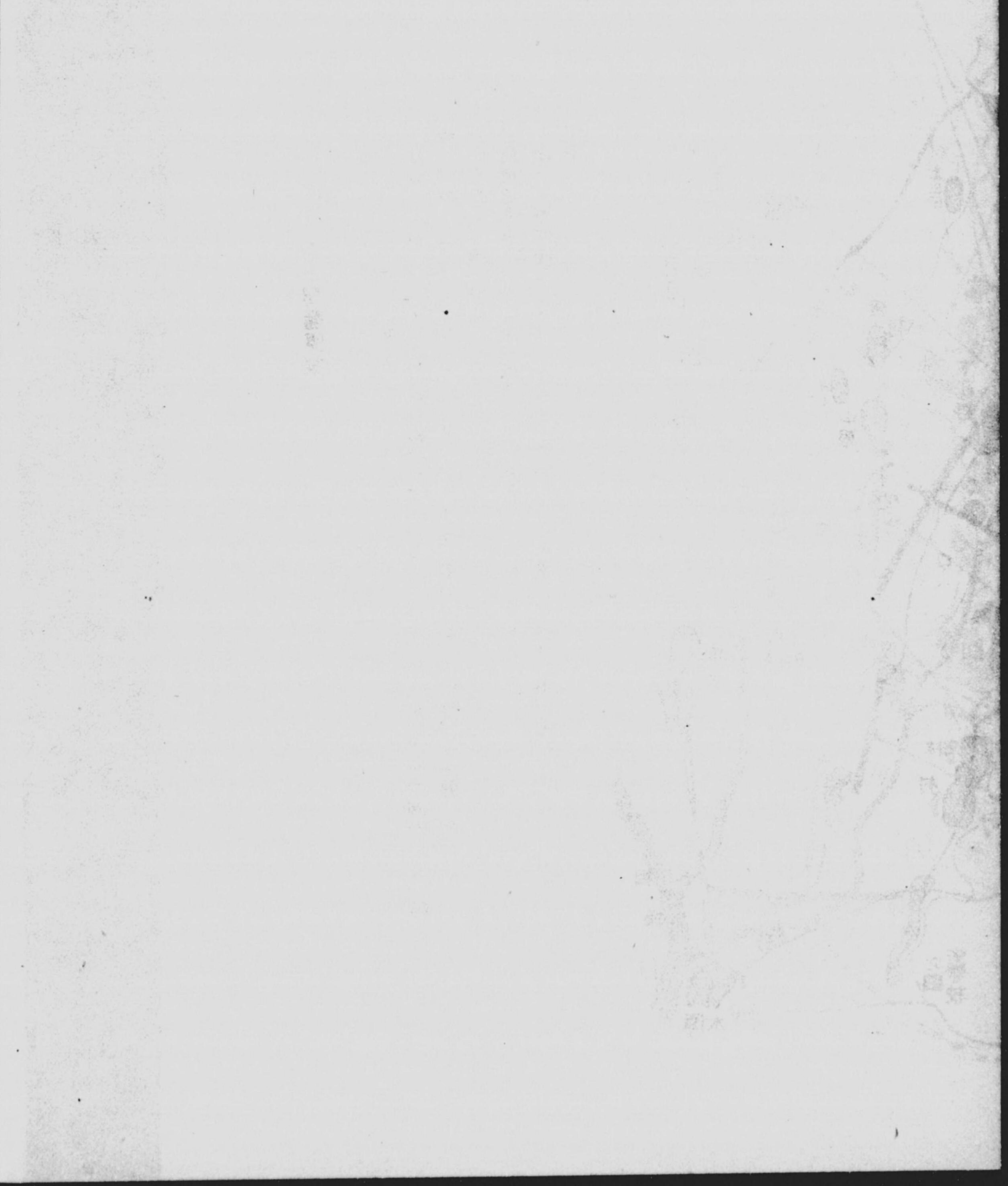
- 一、支隊ハ速カニ八王子方向ノ敵ニ對シ林村ヨリ及川、小山ヲ經テ其ノ西北方高地ニ互リ陣地ヲ構成シ其ノ攻撃ヲ拒止スルト共ニ約一大隊ノ兵力ヲ當初平山附近ニ控置シ機ヲ見テ中學校方面ヨリ敵ノ側面ニ向ヒ攻勢ニ轉ス
- 二、前進陣地トシテ一部隊ヲ以テ平西北方高地ヲ占領セシム
- 三、敵ノ攻撃ヲ本日午後受クルモノト豫想シ其ノ重點ヲ山根ヨリ小山方向ニ指導スルモノト判断ス

地圖編號：0000000000

比例尺：1:100000



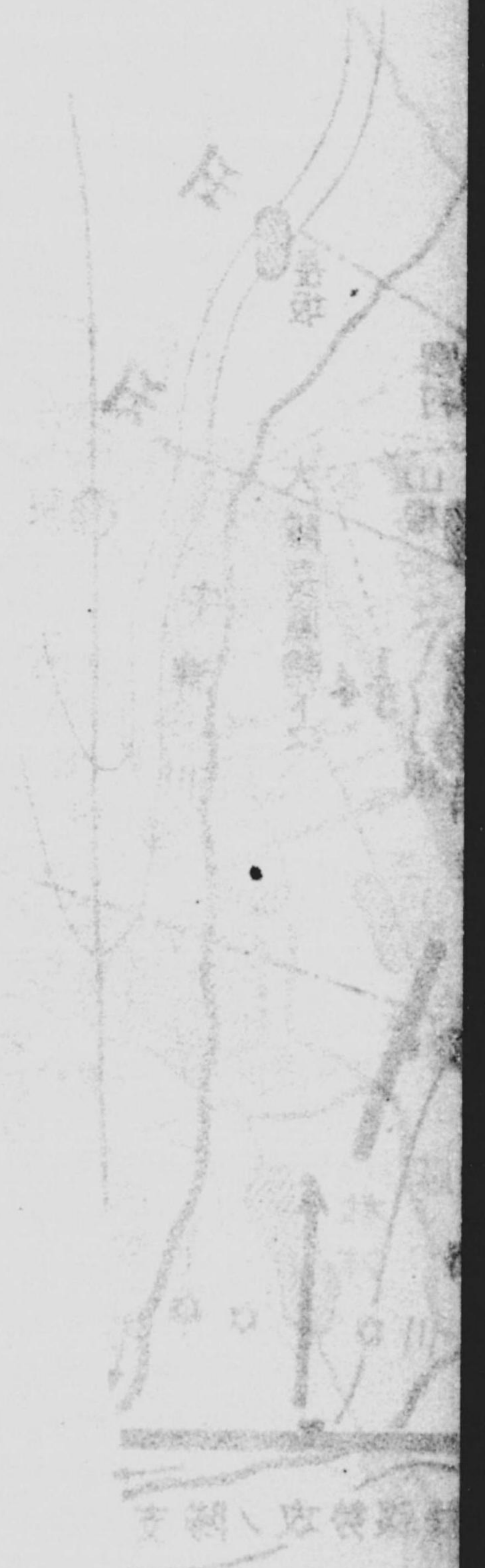
地圖編號：0000000000



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

謝靈運傳

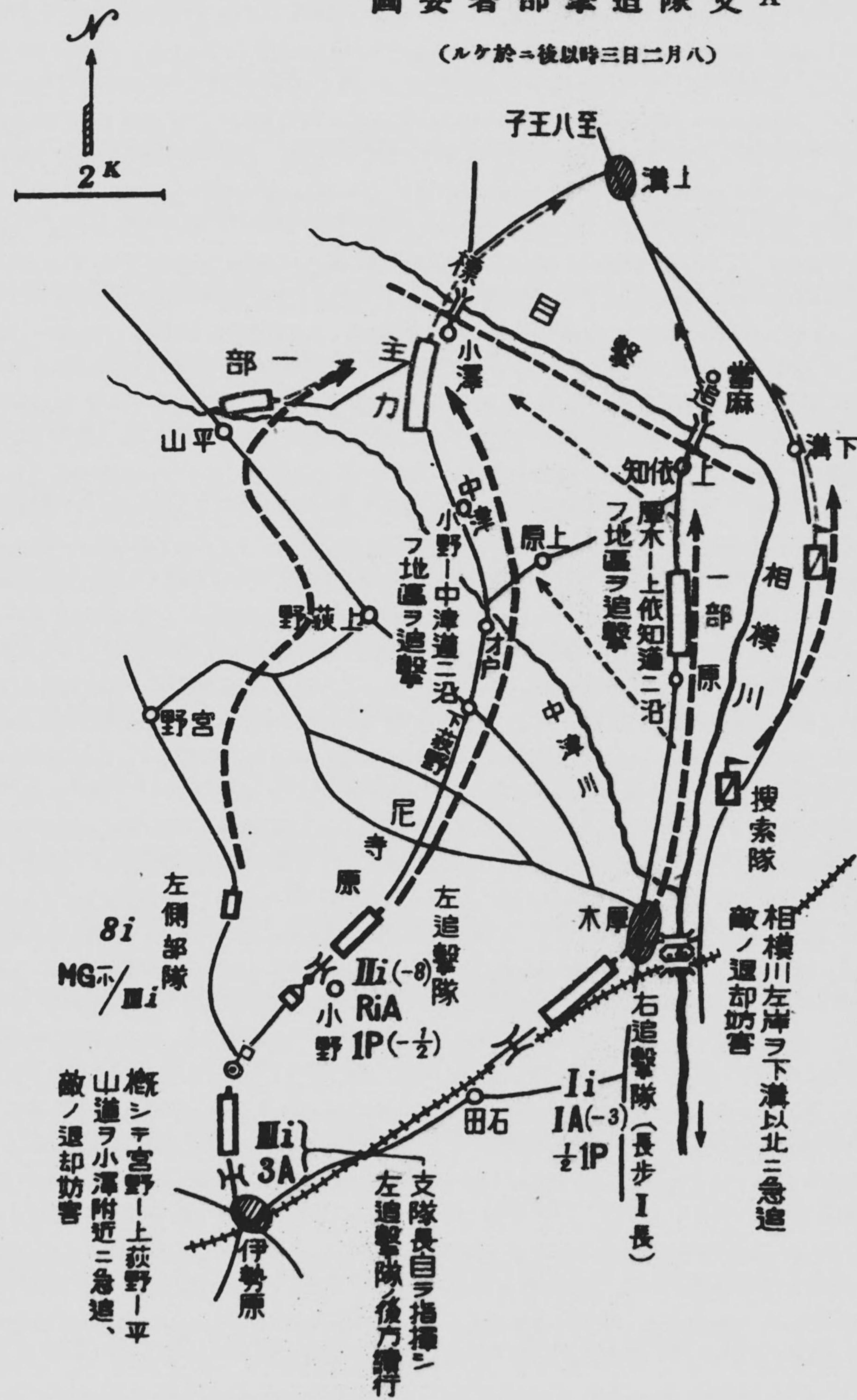
謝靈運，東晉大將軍奕之孫也。少好山水，嘗謂謝靈運曰：『天下好山，無處不有，然未有能道之者。』靈運嘗謂謝靈運曰：『天下好山，無處不有，然未有能道之者。』



支湖、支特路

圖要署部擊追隊支A

(ルケ於ニ後以時三日二月八)



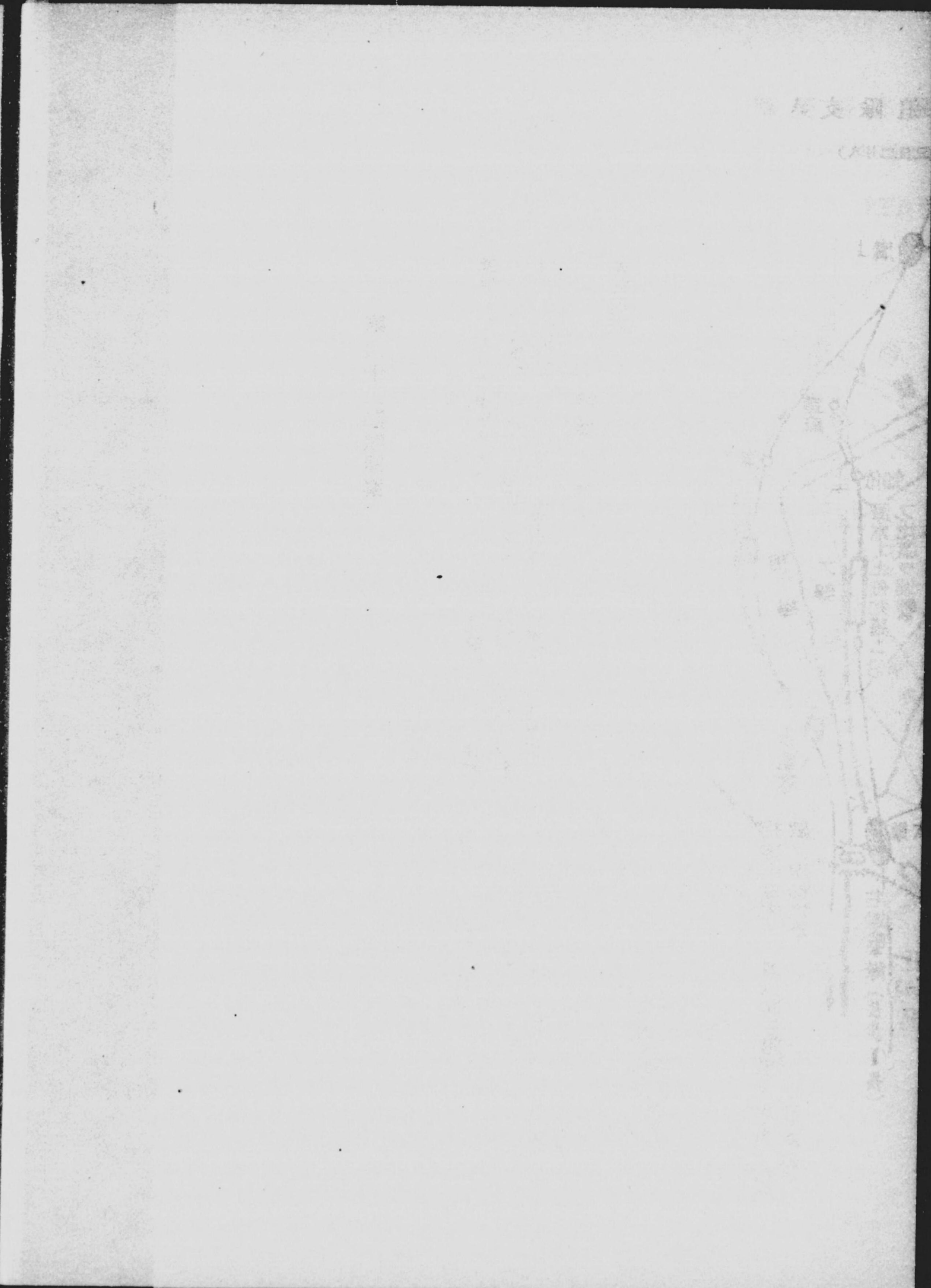
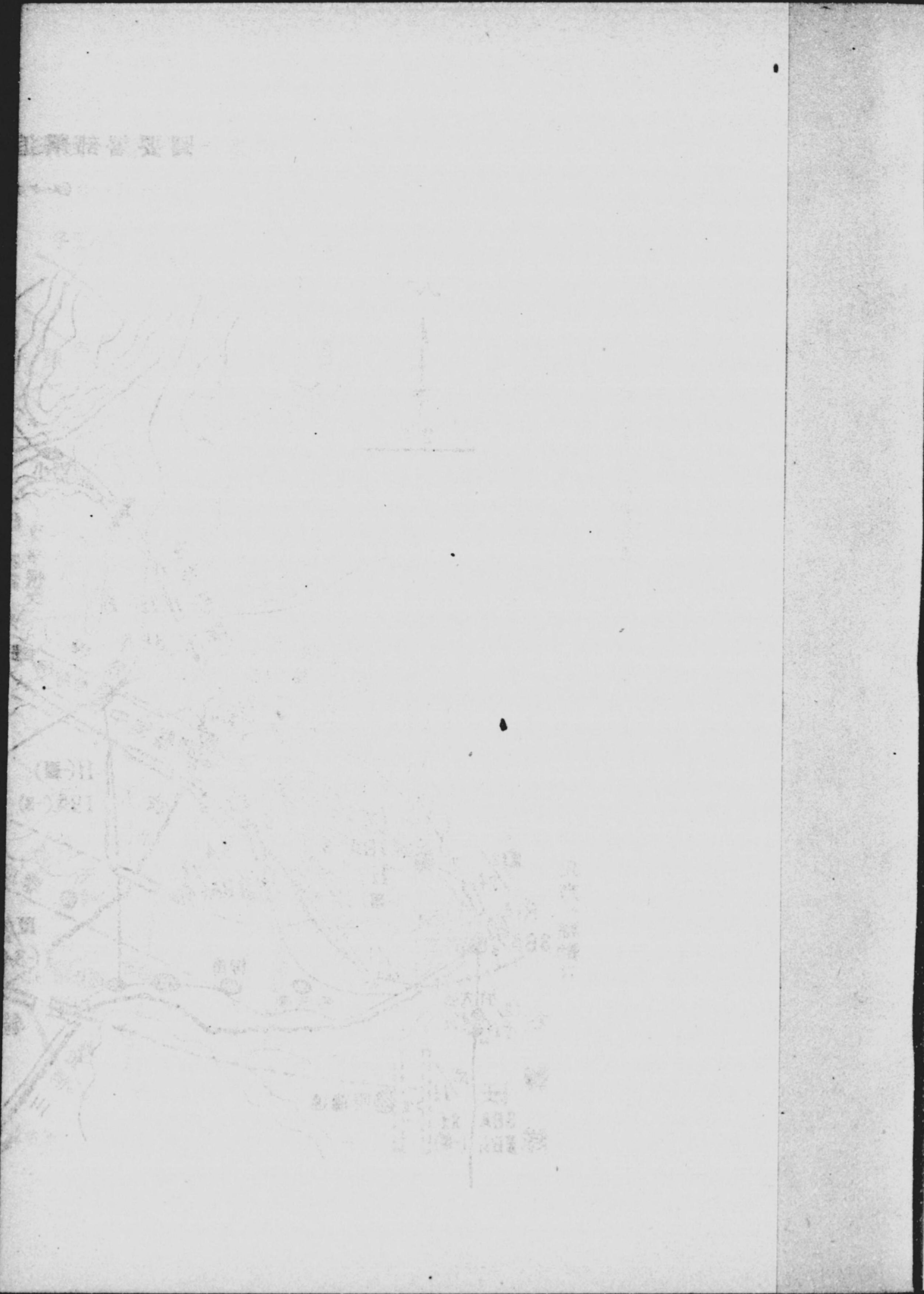
方針

支隊ハ速カニ追撃隊ヲ編成シ其ノ一部(左追撃隊)ヲ以テ伊勢原―小野―中津道ヲ、其ノ主力(右追撃隊)ヲ以テ伊勢原―厚木―上依知道ヲ相模川ノ線ニ向ヒ急追ス但シ支隊長ハ別ニ一部隊ヲ直接指揮シ左追撃隊ノ後方ヲ前進ス

部署ノ概要

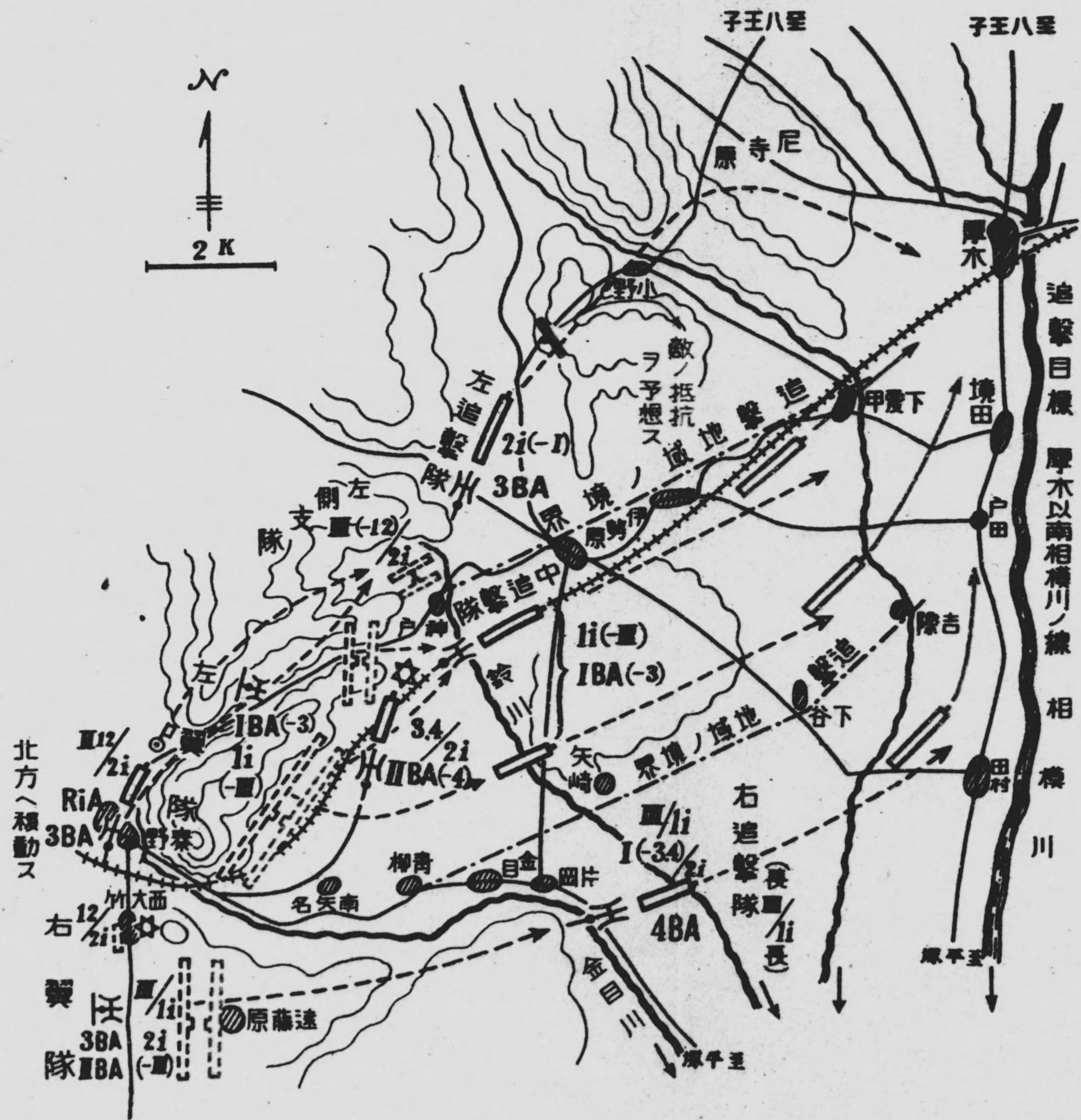
要圖所載ノ如シ

第二十三問題原案



西軍第一旅團追擊部署要圖

(十月一日夜に於て)



第二十四回通案

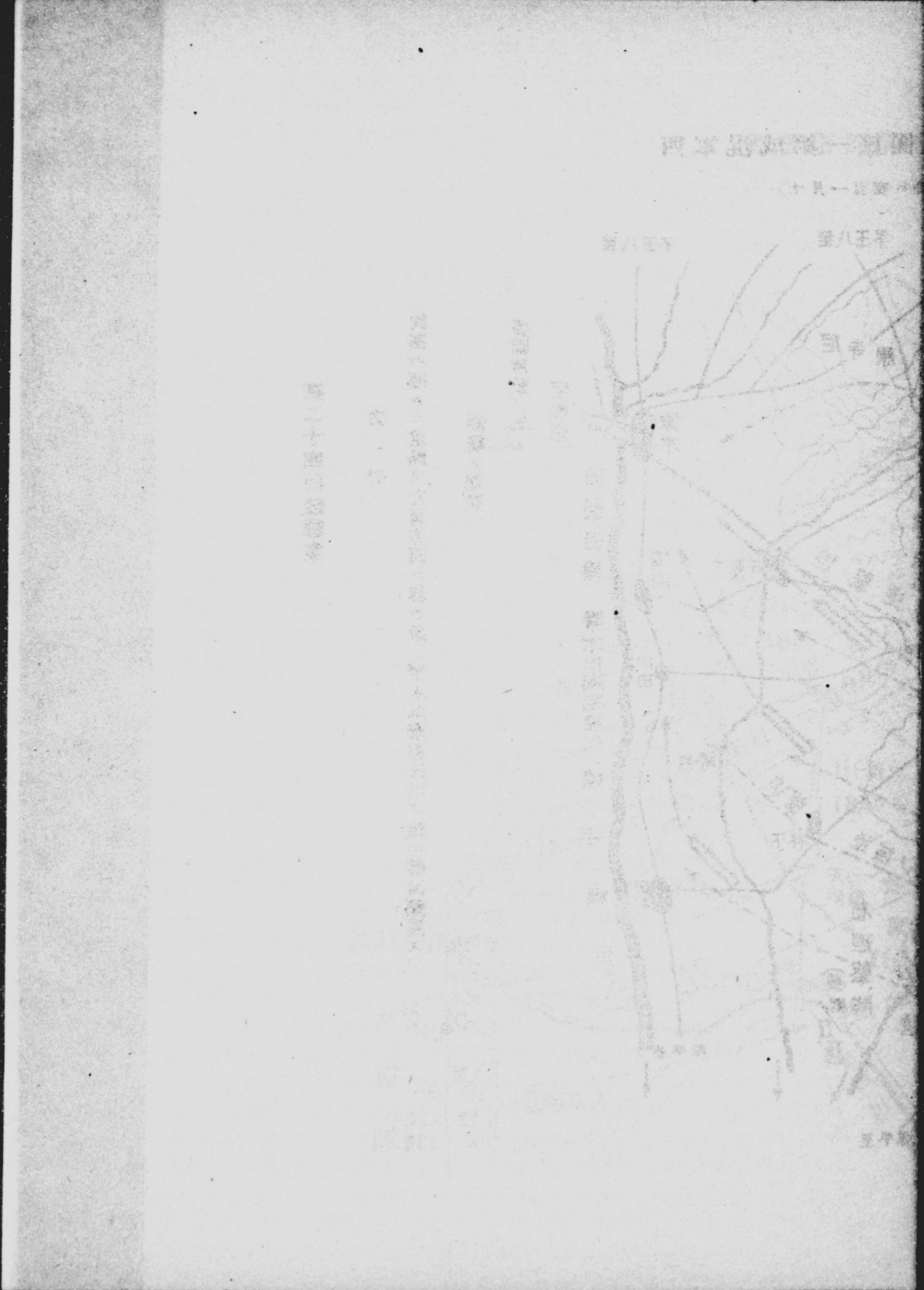
方針

旅團の進力ニ重點ヲ左翼方面ニ移シ敵ヲ厚木以南相模川ノ線ニ壓潰滅ス

部署ノ概要

要圖所載ノ如シ

至東京

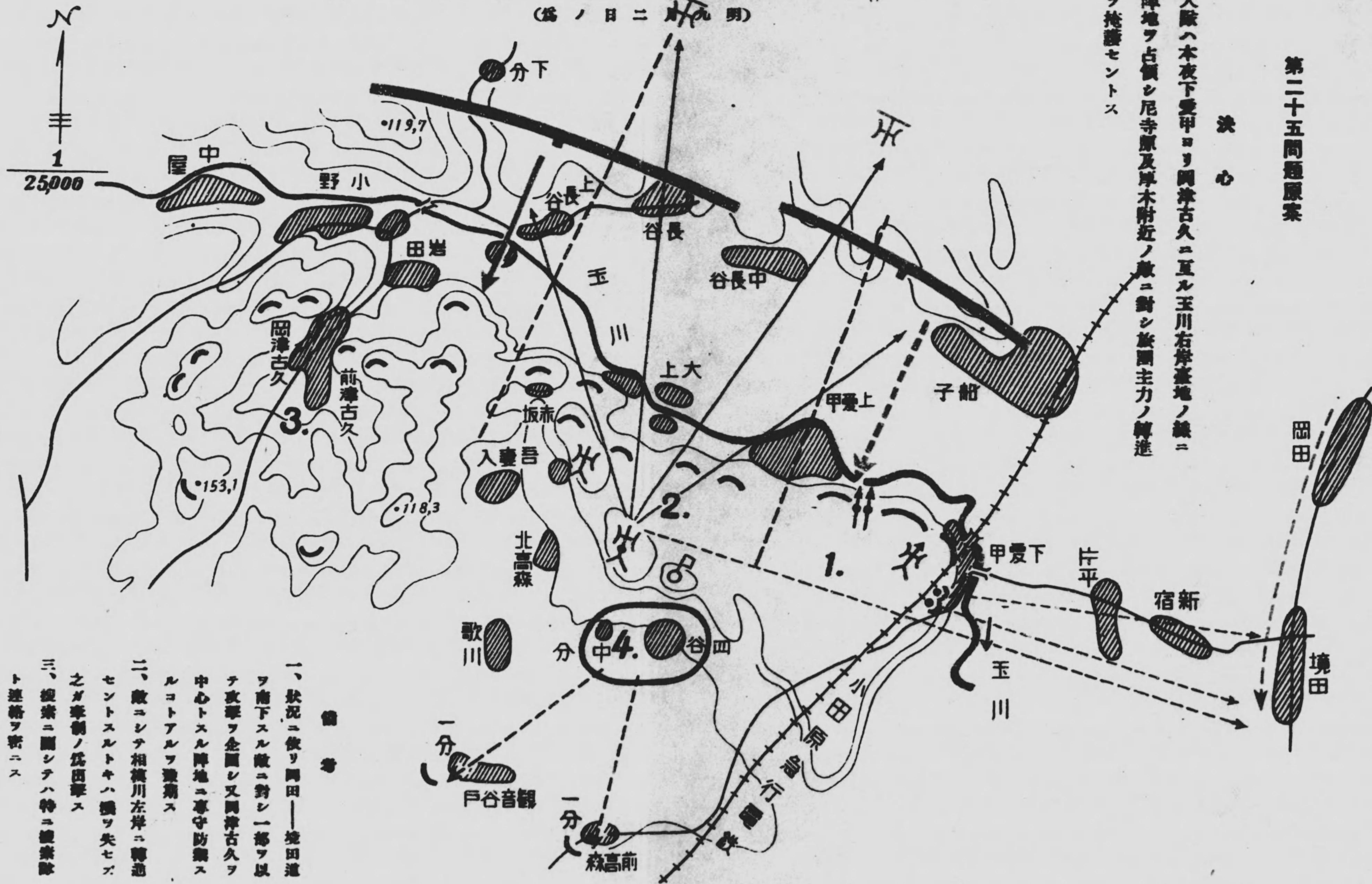


歩兵第一大隊長ノ決心ニ基ク要圖
(明治九年二月ノ爲)

第二十五問題原案

決心

大隊ハ本夜下愛甲ヨリ岡津古久ニ互ル玉川右岸高地ノ線ニ陣地ヲ占領シ尼寺原及厚木附近ノ敵ニ對シ旅團主力ノ轉進ヲ掩護セントス



- 備考
- 一、状況ニ依リ岡田—境田道ヲ南下スル敵ニ對シ一部ヲ以テ攻撃ヲ企圖シ又岡津古久ヲ中心トスル陣地ニ專守防禦スルコトアルヲ豫期ス
 - 二、敵ニシテ相模川左岸ニ轉進セントスルトキハ機ヲ失セズ之ガ率制ノ爲因撃ス
 - 三、搜索ニ關シテハ特ニ搜索隊ト連絡ヲ密ニス

昭和十七年三月十日初版印刷
昭和十七年三月廿日初版發行
五千部

不許複製

版權所有

著者兼發行者
印刷所
配給元

(圖上戰術研究與附)

定價 金貳圓五拾錢

〔送料 金三十二錢〕

東京市牛込區富久町六十番地

山崎慶一郎

東京市麴町區九段一丁目四番地

海野勇助

東京市麴町區九段一丁目四番地

文雅堂印刷所

東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

東京市牛込區富久町六十番地

(日本出版文化協會會員 一一六〇一五)

發行所

琢

磨

社

振替東京六六一一五番
電話四谷(35)〇四二二番